

令和5年度 研究報告書
表現力を養う体育授業のあり方に関する研究

指導教員 坂下玲子 教授
末永祐介 准教授

令和4年度入学
熊本大学大学院 教育学研究科
教職実践開発専攻 教科教育実践高度化コース
228-A9715 西山 青空

目次

研究報告書要旨

第1章 緒言.....	1
1.1 問題の所在.....	1
1.2 先行研究の検討.....	3
1.2.1 概念について.....	3
1.2.1.1 思考力・判断力・表現力.....	3
1.2.1.2 ジグソー法.....	3
1.2.1.3 「武道」柔道.....	4
1.2.2 先行研究の実践.....	6
1.2.2.1 技能と思考力・判断力の育成を図るネット型ゲームの教材開発 と単元の在り方ーサークルバレーボールの実践よりー（阿部,2019）.....	6
1.2.2.2 思考力・判断力・表現力の育成を目指した保健体育科の授業開発 ーダンス領域における「よい動き」の可視化と自己表現力の向上 を目指してー（沖本,2016）.....	6
1.2.2.3 得意技を身に付け「一本」を目指し柔道の特性を味わう学習 ー互いを尊重し、教え合いを通して学ぶ授業ー（佐藤,2008）.....	7
1.2.2.4 「わかる」と「できる」が共感し合える体育学習： 知識構成型ジグソー法による体育の学習指導を通して（兼城ら,2016）.....	7
1.2.3 成果と課題.....	8
1.3 研究の目的.....	10
第2章 研究の方法.....	11
2.1 研究対象.....	11
2.2 分析の方法.....	11
2.2.1 診断的・総括的授業評価の分析.....	11
2.2.2 「表現力」の分析.....	11
2.2.2.1 投げ技ごとの表現力.....	11
2.2.2.2 時間ごとの表現力.....	12
2.2.3 「技能」の分析.....	12
2.2.4 「表現力」と「技能」の関係性の分析.....	12
2.2.5 形成的授業評価の分析.....	12
2.2.6 生徒による授業評価の分析.....	13
2.3 検証授業計画書（診断的授業評価）.....	14

第3章 結果と考察.....	51
3.1 検証授業の実際（総括的授業評価）.....	51
3.1.1 検証授業の実際.....	51
3.1.2 診断的・総括的授業評価の結果と考察.....	52
3.2 「表現力」に関する結果と考察.....	59
3.2.1 投げ技ごとの表現力.....	59
3.2.1.1 大内刈.....	59
3.2.1.2 小内刈.....	63
3.2.1.3 支釣込足.....	67
3.2.1.4 内股.....	71
3.2.2 時間ごとの表現力.....	75
3.2.2.1 点数.....	75
3.2.2.2 未記入率.....	80
3.3 「技能」に関する結果と考察.....	85
3.3.1 大内刈.....	85
3.3.2 小内刈.....	90
3.3.3 支釣込足.....	95
3.3.4 内股.....	100
3.4 「表現力」と「技能」の関係性の結果と考察.....	105
3.5 形成的授業評価の結果と考察.....	106
3.6 生徒による授業評価の結果と考察.....	109
第4章 摘要.....	111
引用・参考文献.....	116
資料編.....	117
謝辞.....	133

研究報告書要旨

本研究では、保健体育科の課題を解決するため、習得した知識や技能を活用し、体の動きを自分の言葉で理解し、相手に正確に伝える能力「表現力」を養う授業を開発すること、また、それに加えて、表現力と技能との関係性も考察し、表現力の向上が技能習得の手段の1つになることを検証することを目的とした。

本報告書は、4つの章からなる。第1章では、近年の子どもの教育に関する課題やそれに関する先行研究を整理し、新たな課題を示している。近年、子どもの教育において、学校で学んだことが子どもたちの未来へつながる力になるよう「生きる力」が注目されるようになり、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に整理し、バランスよく育成していくこととされた。しかし、我が国の子どもたちの思考力・判断力・表現力等に課題が指摘され、体育においても、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等が課題として挙げられた。先行研究では、授業の目標や課題を明確化、ICT 機器や学習カードなどの活用、グループ編成の工夫、ジグゾー学習が思考力・判断力・表現力等の育成に役立っていることが成果として明らかになっている。しかし、ICT 機器や学習カードなどの使い方や表現力において自分の体の動きを具体的に言語化できていないといった課題が挙げられた。このことから、体の動きを自分の言葉で理解し、相手に正確に伝える能力「表現力」の育成に対しては、ジグゾー法の視点を取り入れたグループ学習、ペア学習に言語活動を組み込むことが有効であると推察された。

第2章では、この検証授業の単元計画と分析の方法を示している。研究対象は、高等学校2年生の柔道選択者 89 名で柔道単元（全7時間）であった。今回の検証授業を受けた生徒を対象に分析する項目を「表現力（投げ技ごと）」、「表現力（時間ごと）」、「技能」、「表現力と技能の関係性」、「診断的・総括的授業評価」、「形成的授業評価」、「生徒による授業評価」の6項目に分け、それぞれの分析の方法を整理した。

第3章では、分析の結果を示し、項目ごとに考察を行った。「表現力（投げ技ごと）」では、大内刈・小内刈・支釣込足・内股の4つの技に係る表現力は全て、有意に向上し、授業の回数を重ねるにつれ、技の説明がより具体的になっていったことが伺えた。しかし、大内刈・小内刈・支釣込足・内股のタイミング・出来栄に係る表現力は全て、単元中と単元後共に低かったことから、活動時間が短かったことや解説動画の時間が1分以内だったことから、紙に書く時間や説明する時間が短く、タイミングや出来栄の説明が後回しになったことが考えられた。「表現力（時間ごと）」では、表現力の点数は単元前後で有意に向上し、未記入率も低下したことから、単元を通して表現力は高まり、様々な観点から投げ技を表現する力も向上したといえた。しかし、毎時間、点数と未記入率は向上しておらず、これは作業量の多さに原因があると考えた。「技能」では、大内刈・小内刈・支釣込足・内股の4つの技に係る技能は全て、単元を通して有意に向上し、指導後から単元後にかけて、大内刈・支釣

込足・内股に係る技能は変化しなかったことから、単元を通して技能の向上、定着を図ることができた。しかし、小内刈に係る技能だけ、指導後から単元後にかけて有意に低下し、特にくずし、出来栄えに係る技能が有意に低下したことから、これは小内刈が大内刈のやり方と似ているため、頭の中でやり方を正確に整理できていなかったことや、それによる自信の低下で迷いが生まれて技の勢いが低下したことが原因であると考えられた。「表現力と技能の関係性」では、技の表現力と技能には有意な正の相関がみられ、そのうち大内刈・小内刈・内股の表現力と技能には有意な正の相関がみられ、支釣込足の表現力と技能にはほとんど相関がみられなかった。ここから、総合的に見て、表現力の向上は技能の向上につながると考えることができた。また、取り扱った技のうち、支釣込足だけ技の形が独立していることが、支釣込足だけ相関がみられなかった原因ではないかと考えられた。「診断的・総括的授業評価」、「形成的授業評価」、「生徒による授業評価」から、毎時間の授業で、取り扱う技、ペアの組み合わせを変えたことや、柔道が苦手な生徒でも取り組みやすい学習形態にしたことが学習意欲の向上につながったと考えられた。また、この授業を通して、表現力や技能を高めることができたと感じた生徒が非常に多く、ジグゾー法の視点をを用いたグループ学習、ペア学習やワークシートの活用が、表現力や技能の向上に有効に作用したと考えられた。しかし、chrome book と紙のワークシートの活用方法や作業量、本単元活動時間の時間配分に課題が見られた。

第4章では、各項目の分析結果と考察を整理し、総合的に今回のジグゾー法の視点を取り入れた学習活動の方法的価値を評価した。ジグゾー法は体の動きを自分の言葉で理解し、相手に正確に伝える能力「表現力」と柔道における運動技能の向上を図ることができ、自己有能感の向上にも有効な授業形態である。また、互いに技を教え合い、自分の中で整理された知識や情報を表現する機会が多く、表現力と技能に有意な正の相関が見られることから、表現力の育成は技能の向上に有効である。更に、chrome book と紙のワークシートの活用は生徒の表現力と技能の向上に有効であり、目標の明確化、学習形態の工夫は学習意欲の向上に有効である。以上のことから、今回の検証授業では、ジグゾー法の視点を取り入れた学習活動を取り入れ、表現力と技能の向上に一定に成果を上げることができた。しかし、chrome book と紙のワークシートの活用方法、作業量に課題が見られた。ワークシートの作業量が多いことで、授業の本来の目的を見失うことや、生徒にとって負担が大きくなり学習意欲の低下につながる可能性がある。これらについては授業の内容、構成等について見直していき、今後の研究課題としたい。

第1章 緒言

1.1 問題の所在

近年、子どもの教育において、学校で学んだことが子どもたちの未来へつながる力になるよう「生きる力」が注目されるようになった。「生きる力」とは、2008年に、文部科学省が小・中学校の学習指導要領を改訂する際に掲げた理念であり、一人の人間としての資質や能力を指す力として、「知・徳・体のバランスのとれた力」の総称である（文部科学省, 2008）。平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申（文部科学省, 2016）においては、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力であるとしている。そのため、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識・技能』の習得）」、「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養）」の三つの柱に整理し、バランスよく育成していくことが重要とされた。（文部科学省, 2016）

一方、国内外の学力調査の結果において、我が国の子どもたちの思考力・判断力・表現力等に課題が指摘されてきた。平成 17 年度高等学校教育課程実施状況調査の結果においては、自らの考えを表現することや考察することに課題が見られた教科があった（文部科学省, 2007）。平成 15 年に実施された経済協力開発機構（OECD）の PISA 調査の結果からは、我が国の子供たちの学力は、全体としては国際的に上位にあるものの、読解力の低い層の生徒の割合が増加したことや記述式問題に課題があることなどが指摘された。平成 21 年に実施された PISA 調査の結果においては、読解力について、必要な情報を見つけ出し取り出すこと（「情報へのアクセス」）は得意であるものの、情報相互の関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすること（「統合・解釈」「熟考・評価」）が苦手であることが指摘された。また PISA 調査が始まった 2000 年以降、読解力は科学的リテラシーと数学的リテラシーの平均得点を常に下回り、科学的リテラシー・数学的リテラシーと比較すると低水準になっている。このように、我が国の子供たちの思考力・判断力・表現力等には課題があり、これまで国として教育の在り方を模索したり多くの研究を重ねたりするなど様々な策を講じてきた。しかし、平成 30 年に実施された PISA 調査の結果も、自由形式の問題において、自分の考えの根拠を示して説明することに引き続き課題があるとしている。誤答には、自分の考えを他者に伝わるように記述できず、問題文からの語句の引用のみで説明が不十分な解答となるなどの傾向が見られるとも指摘されており、依然として表現力に課題がある（文部科学省, 2019）。

保健体育科においても、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申にて、運動やスポーツが好きな児童生徒の割合が高まったこと、体力の低下傾向に歯止めが掛かったこと、「する、

みる、支える」のスポーツとの多様な関わりの必要性や公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いていること、子供たちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身に付いていることなど、一定の成果が見られる一方で、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があり、自ら課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分である（文部科学省, 2016）としている。

このことから、国は確かな学力（特に「思考力・判断力・表現力等」）を育成するべく、教育の在り方を検討し、様々な教育施策を講じてきた。平成 23 年 10 月には「言語活動の充実に関する指導事例集」（文部科学省, 2011）が出され、言語活動の重要性、実践例が示された。第一章の「言語活動充実に関する基本的な考え方」には、子どもたちの思考力・判断力・表現力等が諸外国との比較により問題があるとの見解が示され、学習指導要領の改訂にあたって充実すべき重要事項の第一として言語活動の充実を挙げている。そして、各教科等において思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることに配慮することが求められている。また、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説保健体育編 体育編（文部科学省, 2018）においても、言語は生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、言語能力は全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものであると、引き続き言語活動の重要性は示されている。保健体育科の目標の 1 つにも、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うとある。運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ、学びを深めていく必要がある。

以上のことから、生徒の言語活動を深めるための学習過程、課題解決方法の工夫を取り入れた授業づくりを進めていく必要がある。また、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られること、子供の体力について、低下傾向には歯止めが掛かっているものの、体力水準が高かった昭和 60 年ごろと比較すると、依然として低い状況が見られることも課題として挙げられている（文部科学省, 2018）ことから、表現力のみならず技能の向上にも努めていく必要がある。これらの課題を解決し、生徒の確かな学力を確立すべく、これからの保健体育の授業の在り方を見直していかなければならない。

1.2 先行研究の検討

1.2.1 概念について

今回の研究を行うにあたって、本研究のキーワードである「思考力・判断力・表現力」、「ジグゾー法」、「武道」柔道の3つについて以下に記載する。

1.2.1.1 思考力・判断力・表現力

学校体育において、運動課題の発見・解決のための「思考力・判断力・表現力」の育成は、高等学校学習指導要領（平成21年告示）解説保健体育編（文部科学省,2009）においても重視されてきた。これらは、身に付けた知識や技能を活用して、課題を発見し、課題解決を図るために必要な資質・能力である。新しく身に付けた「知識・技能」とこれまでの学習で習得してきた「知識・技能」を組み合わせ、必要な情報を選択して、課題の発見や解決の方向性や方法について思考・判断することが期待されている（日野,2017）。しかし、高等学校学習指導要領（平成21年告示）では、それぞれの柱ごとに明確な目標、内容が示されておらず、「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」「関心・意欲・態度」を内容として指導し評価してきた。そこで、今回の学習指導要領の改訂（文部科学省,2018）では「思考・判断」に新たに「表現力」が加わり、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理され、「目標」、「内容」の記述も3つの柱で再整理された。つまり、「表現力」といった言葉は以前からあったものの、「思考・判断」に「表現」が加わり、伝える相手や状況に応じて分かりやすく表現する力も体育において育むことになる。これまでも、「言語活動の充実」は全ての教科で育成することになっていた。体育でも、思考・判断したことを他者に言葉や文字などで表現することが重視される。

1.2.1.2 ジグゾー法

友野（2015）は、「ジグゾー法の背景と思想—学校文化の変容のために—」において、ジグゾー法について以下のように説明してある。ジグゾー法は、1970年代に米国の社会心理学者アロンソンが開発した協働作業を中心とする学習メソッドである。2014年11月に文部科学大臣から中央教育審議会（中教審）に対して「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の諮問がなされた。2011年度から小学校で始まった「新教育課程」が高等学校まで完成するのは2015年度であるが、それを俟たずに次の学習指導要領の議論が始まることとなり、そこで「課題の発見と解決に向けて主体的協働的に学ぶ学習（いわゆるアクティブラーニング）」が考えられるようになり、そのアクティブラーニングの技法として think-pair-share・ジグゾー法・ポスターツアー・ピアインストラクションなど様々なものが示された。その中でジグゾー法は使い勝手が良く、比較的多くの学校現場で行われている。ジグゾー法のやり方としては、グループ学習を展開し、各々のメンバーが異なる部分を学び、それをグループで総合することで各自の学習を進めていくものである。具体的には、「ホームグループ（ジグゾーグループ）」と「エキスパートグループ」という2種類のグループを作り、あることについて学ぶ場合、その観点・要素別に①②③④とグループを4つに分

け、各々についての資料が用意される。それをグループ（ホームグループ）のメンバーで分担して読むが、その前に、例えば各グループで①を読む生徒による別のグループ（エキスパートグループ）が作られ、そこで①についての理解を深めておくのである。②③④についても同様に、エキスパート（専門家）グループで自分の担当部分について学んでおき、それをホームグループで他のメンバーに伝える仕組みである。（図 1-1 参照）

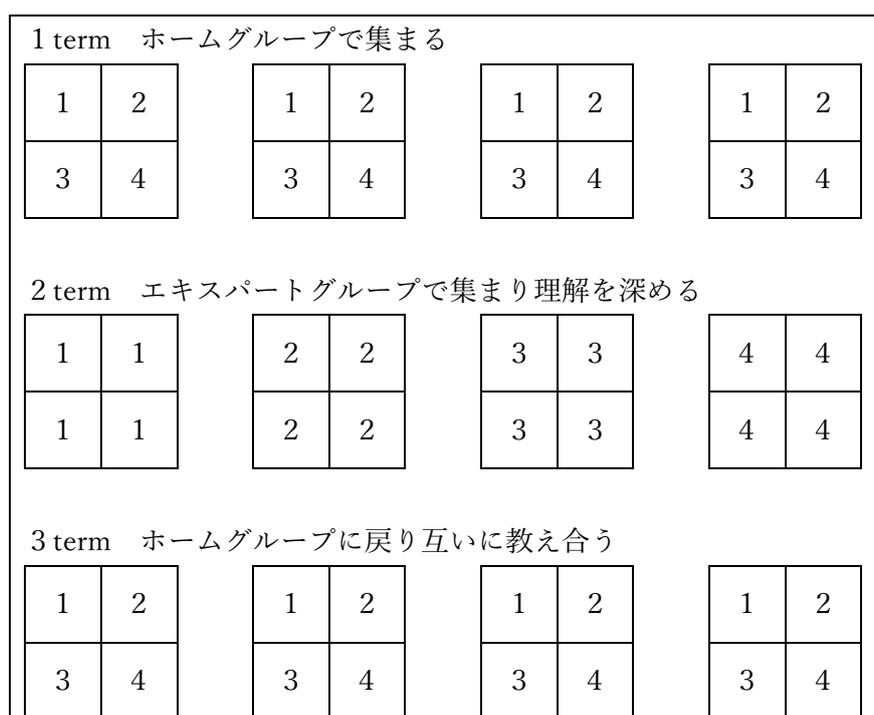


図 1-1 ジグゾー学習の方法

（ジグゾー法の背景と思想－学校文化の変容のために－（友野,2015）より一部改変）

このように、ジグゾー学習では、構造化された「相互依存」により生徒の協同的關係が生まれる。自分が学び課題を解決するためには、グループの仲間から教えてもらわなければならないという状況の中では、子どもたちはよく主体的に聞き合うようになる。しかし、仲間に教えてもらうだけでは終わらない。課題を個別化し、一人一人に役割が与えられているため、自分自身も学び仲間に教えてあげる必要がある。自分の担当部分について学び、説明できることが、他のグループメンバーへの責任となる。このように、個別の学習とグループでの協同学習を組み合わせ、協同学習を「エキスパート活動」と「ジグソー活動」に分けることで、学習者は主体的・協働的に学び合うことができ、自尊心や共感力も高めることができる。

1.2.1.3 「武道」柔道

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説保健体育編（文部科学省,2018）では、「体育」において育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、豊かなスポーツライフを継続

する資質・能力を育成する観点から、運動に関する「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応した内容を示すこととした。その際、児童生徒の発達の段階を踏まえて、学習したことを実生活や実社会に生かすとともに、卒業後においても運動の習慣化や運動やスポーツへの多様な関わり方につなげ、豊かなスポーツライフを継続することができるよう、小学校、中学校、高等学校を通じた系統性を踏まえて、引き続き指導内容の体系化を図ることを重視している。そのため、「武道」の領域では、従前どおり、「柔道」又は「剣道」のいずれかを選択して履修できるようにしている。また、それに加えて、我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、日本固有の武道の考え方に触れることができるよう、学校や地域の実態に応じて、従前から示されている相撲、なぎなた、弓道に加えて、空手道、合気道、少林寺拳法、銃剣道なども履修できるようになった。指導に際しては、小学校、中学校、高等学校を通じた系統性を踏まえて、知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど知識と技能を関連させて学習させるようにする。また、必要な知識及び技能の定着を図る学習とともに、互いに教え合う時間を確保するなどの工夫をしながら、生徒の思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追究し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の内容をバランスよく学習させることが大切であるとしている。(表 1-1 参照)

表 1-1 柔道の具体的な内容

(文部科学省「学習指導要領解説保健体育編」(2018)より一部引用)

領域	入学年次	入学年次の次の年次以降
知識及び技能	武道には、各種目で用いられる技の名称や武道特有の運動観察の方法である見取り稽古の仕方があること。 姿勢と組み方では、相手の動きの変化に応じやすい自然体で組むこと。	武道では、各種目で用いられる技の名称や用語があり、それぞれの技には、技の向上につながる重要な動きや用具の操作のポイント及び安全で合理的、計画的な練習の仕方があること。姿勢と組み方では、相手の体格や姿勢、かける技などに対応して、素早く自然体で組むこと。
思考力、判断力、表現力等	技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えること。	課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見し、課題を解決するための練習の計画を立てること。
学びに向かう力、人間性等	武道の学習に自主的に取り組み、仲間と互いに合意した自己の役割を果たそうとすること。	武道の学習に主体的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること。

1.2.2 先行研究の実践

思考力・判断力・表現力等の育成を目指した体育授業に関する先行研究として、阿部（2019）、沖本（2016）、佐藤（2008）、兼城ら（2016）の4つの実践について以下に紹介する。

1.2.2.1 技能と思考力・判断力の育成を図るネット型ゲームの教材開発と単元の在り方－サークルバレーボールの実践より－（阿部,2019）

阿部（2019）は体育授業の研究の中で、児童の思考力・判断力の育成を図るネット型ゲームの教材を開発するとともに、児童がプレーに必要な運動技能を獲得できるタスクゲームを単元の中にどのようにして組み入れるか模索する、技能と思考力・判断力の育成を図るネット型ゲームの授業開発をしている。近年、従来の体育授業の在り方が見直され、「思考力・判断力・表現力」の育成を図る体育授業の研究が食えてきている。阿部（2019）はボール運動においては、主に児童がゲームを経験し、次のゲームに移るまでの間に主体的・対話的な学びが生ずると考えている。そこには、自分どのようなチームにおける課題を見付け、どのように解決していくのかチームで模索し、他者に伝える行為が発生するからである。しかし、ここで別の問題があり、児童が学びの中で、戦術的によい気づきをして、それを実行するための技能が児童に伴っておらず、自分たちが考えた戦術が適切であったか否かを確認することが難しいという課題を挙げている。このことについて、丸山（2013）もネット型ゲームにおける技術・戦術を高める指導の在り方を研究し、単元の中にタスクゲームやドリルゲームを取り入れ、技術・戦術を高めていく必要性を主張している。つまり、阿部（2019）は、児童の思考力・判断力・表現力の育成を図るためには、学びを深めていくために、必要最低限度の技能が不可欠であると考えた。そこで、研究ではメインゲームで必要な技能を養うため練習、タスクゲームを行ってから、毎時間メインゲームを実施した。また、メインゲームのルールにも減点方式と工夫を施し、チーム内での一人一人の役割が明らかになるようにした。しかし、まだ技能の問題がみられ、目的の思考、判断、表現に至らなかった。そこで、その技能を補うようなルールを作り、プレーを続行させるための技能面における課題の解決を図った。このように教師が様々な外的環境を整えることで、チーム内の目的や役割が明確になり、児童の思考力・判断力の育成、またそれに伴う技能の向上が期待できると考えた。

1.2.2.2 思考力・判断力・表現力の育成を目指した保健体育科の授業開発－ダンス領域における「よい動き」の可視化と自己表現力の向上を目指して－（沖本,2016）

沖本（2016）は教科の特性に応じた身体活動を通しての対話・会話によるコミュニケーション能力の育成に加え、仲間との活動を通じて、情報を言葉や動作で伝達する力を養う体育授業の研究をしている。「ダンス」を題材とし、思考ツール・ICT 機器・ワークシートの3つを活用し、「よい動き」とは、どのように表現することであるのか考察させ、自己の動きを可視化することにより表現力を向上させることを目指した。思考ツールは、イメージした「よいパフォーマンス」について、思考ツールを用いて、明文化することや個々の振り返り

やグループ学習の中で意見を整理してまとめ、思考している事柄を明文化し、自己の思い描いた身体表現へとつなげることに活用する。ICT 機器は、視覚からとらえた情報をもとに、「自己のパフォーマンス」と「よいパフォーマンス」との比較・分析を行い、自己表現力の向上へと導いたり、グループの動きを撮影し視聴することから、自己の動きのよさや仲間のよさを見つけさせたりしながら鑑賞の視点を持たせることに活用する。ワークシートは、意見交流の際に活用し、周囲の意見を集約できるスペースをとり、グループで決定した事項やその内容、またそう決定した理由は何かということを示すことができるよう、学習の順序と思考の流れを矢印で示した。授業実践では、毎時間の目標・課題の明確化や難しい動きの視覚的な表示、男女混合のグループ活動など多くの工夫を行い、生徒のダンスに対するイメージ、学習意欲が向上を目指した。

1.2.2.3 得意技を身に付け「一本」を目指し柔道の特性を味わう学習～互いを尊重し、教え合いを通して学ぶ授業～（佐藤,2008）

佐藤（2008）は長期研修研究報告で、教師が授業に様々な工夫を凝らし、生徒が主体的・対話的に学ぶことを通して、授業に対する学習意欲が向上し、柔道の特性を味わうことができる体育授業の研究をしている。「柔道」を題材とし、教材・教具、学習資料や互いのアドバイスを基に、自らの課題や課題解決の方法を考え、互いに教え合いを通して「一本」を目指して学習することによって、互いを尊重し合い、効果的に得意技を身に付け相手との攻防を楽しむ練習や試合ができるようになる授業を展開した。授業では、学習ノート・IT・スモールステップカード・発表の相互評価カード・試合の評価カード・八方崩しマット・足形・アプリケと多くの教具を使用した。学習ノートは技の達成表を載せ、技のやり方や友達からのアドバイスを記入することで、技のポイントを理解できるようにした。ITはパソコンを利用して、柔道技の見本が速やかに見られるようにした。スモールステップカードは「崩し」「作り」「掛け」に分解して学習を進め、技の構造を段階的に理解することに役立てた。発表の相互評価カード・試合の評価カードは、発表の相互評価で、判定の目安を基に生徒同士ABCで評価、アドバイスやコメントを書かせ、このアドバイスやコメントを基に自己分析し、新たな課題を立てるのに役立てた。八方崩しマットは、「崩し」を、足形は「体さばき」をアプリケは「掛け方」を理解したり体得したりするために活用した。また、グループ編成にも工夫を行い、単元の前半を「異質グループ」後半を「等質グループ」にして授業を展開した。「異質グループ」では、教え合い活動の活性化、「等質グループ」では、技能の向上をねらいとした。

1.2.2.4 「わかる」と「できる」が共感し合える体育学習：知識構成型ジグソー法による体育の学習指導を通して（兼城ら,2016）

兼城ら（2016）は、陸上競技「ハードル走」で知識構成型ジグソー法を活用し、「わかる」と「できる」が共感し合える体育の授業開発をした。先行オーガナイザーを手がかりに自分

の認知構造の中に新たな概念を形成するという有意味受容学習の理論に基づき、ジグソー活動を2段階に分類した。ジグソー活動①を知る段階、ジグソー活動②をできる段階=わかる段階とし、それぞれ、エキスパート活動で得た気づきを伝え合い、どうすれば解にたどり着けるかのイメージを構築し、共有する活動と、共有したイメージを体現することで得た新たな気づきや情報をもとに、イメージの再構築や体現を繰り返しながら、スパイラル的に技能を高める活動と説明した。また、兼城ら（2016）は動きながら考える自己内対話や、考えながら動く身体表現による他者との対話を大切にする必要があると考えている。そのため、このようなジグソー法による授業から、生徒同士の対話を生み出し、生徒一人一人が動きを理解し、できるようになることをねらいとしている。

表 1-2 先行研究における主な取組

実践者・研究領域	主な取組
阿部（2019） 「球技」ネット型	<ul style="list-style-type: none"> ・メインゲーム前の基礎的技能の確保 ・メインゲームの工夫 →チーム内の目的・役割の明確化 →技能的課題の確保
沖本（2016） 「ダンス」	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツール・ICT 機器・ワークシートの活用 ・自分と理想の姿の比較・分析 ・目標・課題の明確化 ・男女混合のグループ活動
佐藤（2008） 「柔道」	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノート・I T など多岐にわたる教具の工夫 ・「異質グループ」「等質グループ」といったグループ編成の工夫 ・教え合いを多く取り入れる
兼城ら（2016） 「陸上競技」ハードル走	<ul style="list-style-type: none"> ・知識構成型ジグソー法を活用 ・ジグソー活動を2段階に分類 ・生徒同士の対話は重視

1.2.3 成果と課題

先行研究の実践者と研究領域、主な取組をまとめると表 1-2 のようになる。先行研究からみた成果として、4 つ挙げる。

1 つ目が、授業の目標や課題を明確化している点である。何を目指して授業に取り組むのかを明確にするとともに生徒全員で共有することで、授業全体の見通しがたてられ、生徒が共通目標や課題をもとに、参加しやすくなる。沖本（2016）の研究でも、生徒に単元・毎時のねらいを気づかせるところから授業に臨むことにより、学習意欲を向上させている。

2 つ目は、ICT 機器や学習カードなどを活用している点である。ICT 機器や学習カードな

どは学習を補助するものであり、技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲の向上に役立つ。沖本（2016）の研究では、思考ツール・ICT 機器・ワークシートを活用し、体の動きを論理的に考え認識させて、目的を焦点化し、学習活動に取り組ませることは、記録や技術力、表現力の向上に役立った。また、佐藤（2008）の研究でも、多岐にわたる学習の工夫を施し、一人一人の学びを充実させている。

3つ目は、グループ編成を工夫した点である。授業のねらいや目的によってグループ編成を工夫し、グループ内で共通目標を設定したり、メンバー同士で足りないところを補ったりすることで、それが生徒の活動に作用し、学習効果を高める。佐藤（2008）の研究では、時間、目的に応じてグループ編成を変えることで、学習活動の活性化を図っている。

4つ目は、ジグゾー法を授業に取り入れている点である。ジグゾー学習を取り入れることで、生徒の気づきと対話を中心とした学習活動が展開され、生徒が主体的に活動し、学びを深めることができる。兼城ら（2016）の研究では、ジグゾー活動を二段階に分類し、授業を取り入れることで、生徒は主体的に課題解決に取り組み、技能や思考力・判断力・表現力の向上を図っている。

一方、課題として考えられる点を3つ述べる。

1つ目は、必要最低限度の知識・技能の習得である。阿部（2019）の研究で示されている通り、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図るためには、必要最低限度の知識と技能が不可欠である。しかし、阿部（2019）の研究でも、生徒の技能に合ったメインゲームの設定に困難をきたした。授業の中で、生徒の思考・判断・表現を促すためには、まず、教師が生徒の技能の程度を正確に把握することが大事である。また、それに見合った学習活動かを判断し、それに応じて、教師が外的環境を整える必要がある。更に、その知識・技能を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図るときには、それに合わせて新たな知識・技能の習得を目指し、時に、教師のアドバイスや手立てが必要である。そこで本研究では、生徒の必要最低限の技能を考慮し、新たな技能の向上と表現力の育成に目を向けていくこととする。

2つ目は、ICT 機器や学習カードなどの使い方である。ICT 機器や学習カードなどは学習を補助するものであり、技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲の向上に大いに役立つものであるが、使い方次第では、学習を妨げるものになりうる。例えば、授業で使用する ICT 機器や学習カードの数が多すぎると、それに伴い作業量も多くなり、運動時間が短くなることや本来の学習の目的を見失うことがある。佐藤（2008）の研究でも、使用する学習カード等が多く、記入するのに時間がかかったと課題として挙がっている。本当に学習に必要な項目を精査し、生徒の学習に支障をきたさないように注意する必要がある。

3つ目は、表現力における具体的な言語化である。思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業実践はいくつか行われており、一定の成果があげられている。しかし、それらの多くの研究実践では、具体的な数値、またその数値の変化が細かく示されていなかった。また、多くの研究実践では「思考力・判断力・表現力等」の中の特に「思考力・判断力」について

の研究成果は出ていたものの「表現力」は根拠が薄いように感じる。沖本（2016）の研究では、「よいプレー・よい動き」というイメージはあるものの、実践を行う中で、指導者や生徒がイメージした事柄と、実際のパフォーマンスとの「ズレ」を認識しているにもかかわらず、理想的な技能を示すばかりで「ズレ」と判断している根拠を言語化できず、パフォーマンスが修正できない場面もあるといった課題があった。つまり、自分の体の動きを言語化できていないのである。それでは表現力が高まったとは言い難く、自分の考えや伝えたいことを具体的に言語化して他者に伝えることが表現力において重要であると考え。

1.3 研究の目的

以上のことから、本研究では、「表現力を養う体育授業のあり方」に迫っていき、以下の2点を明らかにすることを研究の目的とする。

1. 「武道」を単元として、習得した知識や技能を活用し、体の動きを自分の言葉で理解し、相手に正確に伝える能力「表現力」を養う授業を開発すること
2. 表現力と技能との関係性も考察し、表現力の向上が技能習得の手段の1つになることを検証すること

保健体育は技能科目であり、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説保健体育編(文部科学省, 2018)の科目体育の目標に「運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする」とあるため、表現力の向上と技能習得を関連付けた授業開発に着手するものとする。この研究結果をもとに、今後より多くの生徒たちが確かな学力を身に付け、これからの体育授業が発展していくように努めていきたい。

第2章 研究の方法

2.1 研究対象

検証授業の対象はK県立S高等学校第2学年の柔道選択者89名(1組5人、2組6人、3組5人、4組7人、5組13人、6組11人、7組10人、8組9人、9組10人、10組13人)であった。1授業2クラス展開であるため、1・5組18人、2・10組19人、3・6組16人、4・7組17人、8・9組19人で授業を行った。単元は武道「柔道」を取り扱い、全7時間構成で行った。武道の時間が1週間に1回であったことから、実施期間は令和5年9月13日から11月8日であった。

2.2 分析の方法

今回の検証授業を受けた生徒を対象に「診断的・総括的授業評価」、「表現力(投げ技ごと・時間ごと)」、「技能」、「表現力と技能の関係性」、「形式的授業評価」、「生徒による授業評価」を分析した。

2.2.1 診断的・総括的授業評価の分析

高田ら(2000)が開発した20項目の授業評価尺度(資料編131ページ)をもとに、単元前と単元後に、アンケート調査を行った。「たのしむ(情意目標)」、「できる(運動目標)」、「まなぶ(認識目標)」、「まもる(社会的行動目標)」の4因子、各因子5項目、合計20項目で構成しており、「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」の順に3、2、1点と点数化し、単元前後で4因子と合計の点数の変化を分析した。また、20項目の授業評価尺度の他に、独自で9つの質問を作成し、単元終了後に総括的授業評価と合わせてアンケート調査を行った。その結果から、生徒の意識変容や検証授業の成果を分析した。その際、単元前後の記録がとれた生徒を分析対象とした。

2.2.2 「表現力」の分析

「表現力」は「投げ技ごと」と「時間ごと」の表現力に分けて分析を行った。毎時間使用する紙のワークシート(資料編127ページ)とchrome bookのワークシート(資料編129ページ)を用いてデータを収集した。紙のワークシートは、教えてもらった技を次回以降どのように教えていくのかを記述し、chrome bookのワークシートはGoogle Slideで作成し、生徒が単元終了後に作成した解説動画を貼り付けた。投げ技を「くずし」、「体さばき(手さばき)」、「体さばき(足さばき)」、「タイミング」、「技のかけ方」「出来栄え」の6項目に分類し、ワークシートへの記述、生徒の発言をそれぞれ表現力の評価規準(資料編117ページ)をもとに分析した。

2.2.2.1 投げ技ごとの表現力

表現力の評価規準をもとにA・B・C・0と評価した後、Aが5点、Bが3点、Cが1点、0が0点として6項目すべてを点数化し、計30点満点で技ごとに表現力の変化を分析した。その際、取組前後の記録がとれた生徒を分析対象とした。

2.2.2.2 時間ごとの表現力

時間ごとの表現力は、点数と未記入率の分析を行った。表現力の点数は表現力の評価規準をもとに A・B・C・0 と評価した後、A が 5 点、B が 3 点、C が 1 点、0 が 0 点として 6 項目すべてを点数化し、計 30 点満点で時間ごとの表現力の変化を分析した。未記入率は表現力の評価規準をもとに A・B・C・0 と評価した後、各項目で 0 点であった人の割合を計算し、時間ごとに未記入率の変化を分析した。その際、毎時間の記録がとれた生徒を分析対象とした。

2.2.3 「技能」の分析

「技能」は「投げ技ごと」に分析を行った。毎時間使用する chrome book のワークシート（資料編 129 ページ）を用いてデータを収集した。chrome book のワークシートは Google Slide で作成し、授業の前後に撮影した投げ技の動画と単元終了後に作成した解説動画を貼り付けた。投げ技を「くずし」、「体さばき（手さばき）」、「体さばき（足さばき）」、「タイミング」、「技のかけ方」「出来栄え」の 6 項目に分類し、毎時間、授業の前後に撮影した動画、解説動画をそれぞれ技ごとの観察的評価規準（資料編 119 ページ）をもとに分析した。観察的評価規準をもとに A・B⁺・B⁻・C と評価した後、A が 5 点、B⁺ が 4 点、B が 3 点、B⁻ が 2 点、C が 1 点として 6 項目すべてを点数化し、計 30 点満点で技ごとの技能の変化を分析した。その際、取組前後の記録がとれた生徒を分析対象とした。なお、技能の分析に際しては、基準の一致を図ることを目的として一致率テストを実施し、分析を担当した 3 名（保健体育科教育を専攻する大学院生 1 名と他教科の教育学を専攻する大学院生 2 名）の判定が 80% 合致するまで繰り返した。実際の分析はその後、その内の 1 名（保健体育科教育を専攻する大学院生）が担当した。

2.2.4 「表現力」と「技能」の関係性の分析

「表現力」の分析、「技能」の分析で得たデータを活用し、単元終了後に撮影した解説動画の点数をもとに表現力と技能の相関関係を分析した。

2.2.5 形成的授業評価の分析

高橋ら（2003）が開発した 9 項目の授業評価尺度（資料編 132 ページ）をもとに、毎時間後にアンケート調査を行った。「成果」、「意欲・関心」、「学び方」、「協力」の 4 因子、合計 9 項目で構成しており、「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」の順に 3、2、1 点と点数化し、時間ごとに 4 因子と合計の点数の変化を分析した。また、20 項目の授業評価尺度の他に、独自で 4 つの質問を作成し、毎時間後に形成的授業評価と合わせてアンケート調査を行った。その結果から、生徒の表現力の変容を分析した。その際、毎時間の記録がとれた生徒を分析対象とした。

2.2.6 生徒による授業評価の分析

生徒による授業評価は単元終了後に総括的授業評価と合わせて回答してもらったものである。「7回の授業を終えて、授業の感想や改善点（もっと～ほしい、～がいやでしたなど）があれば記入してください。」と任意の質問項目を作り、自由記述で記入させた。生徒による授業の感想から、検証授業の成果と課題を分析した。

2.3 検証授業計画書（診断的授業評価）

第2学年 保健体育科（体育）学習指導案

日時 2023年9月13日（水）
～2023年11月8日（水）

対象 第2学年 89人
1・5組 18人
2・10組 19人
3・6組 16人
4・7組 17人
8・9組 19人

学校名 K県立S高等学校
会場 柔道場
授業者 西山 青空

1. 単元名 武道「柔道」

2. 単元の目標

- (1) 柔道の伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解するとともに、相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開することができるようにする。

【知識及び技能】

- (2) 柔道について、自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- (3) 柔道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

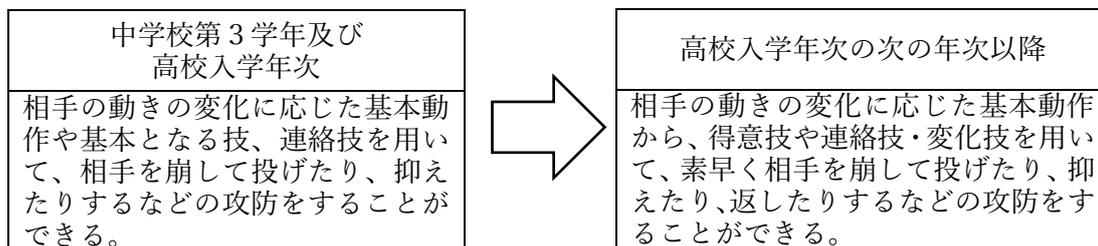
【学びに向かう力、人間性等】

3. 学習の基盤

(1) 教材観

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化である。基本動作や基本となる動きを身につけ、相手の動きに応じて相手を攻撃したり、相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。柔道は、体格や体力に応じた技能を学ぶこともでき、相手の動きや力をうまく利用しながら技を競い合うところにも楽しさがある。相互に闘志をもち、自己の能力を発揮して技能を競い合う必要があるが、勝敗にこだわりすぎると規則や行動の仕方に正しさを欠く傾向がある。したがって、互いの激しい闘志を適切に制御しながら、相手を尊重し、公正な態度で勝敗を争う行動が要求される。そのため、単に技能の競い合いによる勝利の喜びを求めるだけでなく、伝統的な礼法や相手を尊重する態度を身につける必要がある。

(2) 運動の系統性



中学校第3学年及び高校入学年次では、相手の動きの変化に応じた組み方や崩しと体さばき、基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開することを習得している。

高等学校入学年次の次の年次以降では、相手の素早い動きの変化に応じた組み方や崩しと体さばきから、相手の動きの変化や防御に応じて得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開することができるようにする。

(3) 生徒観

対象クラスの生徒は、1組5名、2組6名、3組5名、4組7名、5組13名、6組11名、7組10名、8組9名、9組10名、10組13名、計89名の柔道選択者である。全体的に明るく活動的な子が多く、技術の練習やグループ活動などの話し合いも積極的に行うことができる生徒が多い。また、学力面においても優れており、運動・勉学ともに頑張っている生徒が多い。

しかし、2年生は昨年度から柔道を実施しているが、事前アンケートの結果からも %の生徒が柔道を好きでないことが分かる。その理由として「柔道が苦手で自信がない」「楽しいと感じない」「疲れる」「汗をかくのがいやだ」「けがをするのが怖い」があり、柔道に対しマイナスイメージを持っている生徒が多い。

また、投げ技をする際、技のやり方は分かるけどできないと回答した生徒が62.4%と多く、理解していることを実際に自分の体に取り入れること苦手としているため、教師側からのアプローチや様々な授業の工夫・仕掛けが必要である。

【事前アンケート結果】柔道選択者数89名（内回答数85名）

No	質問項目	答え
①	私は、少し難しい運動でも練習するとできるようになる自信があります。	はい 43人
		どちらでもない 33人
		いいえ 9人
②	体育で、ゲームや競争をするときは、ルールを守ります。	はい 82人
		どちらでもない 3人
③	体育のグループやチームで話し合うときは、自分から進んで意見を言います。	はい 29人
		どちらでもない 50人
		いいえ 6人
④	体育では、自分から進んで運動します。	はい 54人
		どちらでもない 26人
		いいえ 5人
⑤	体育で、ゲームや競争で勝っても負けても素直に認めることができます。	はい 77人
		どちらでもない 5人
		いいえ 3人
⑥	体育で、ゲームや競争をするとき、ずるいことや卑怯なことをして勝とうとは思いません。	はい 70人
		どちらでもない 9人
		いいえ 6人
⑦	体育は、友達と仲良くなるチャンスだと思います。	はい 74人
		どちらでもない 9人
		いいえ 2人
⑧	体育をしているとき、どうしたら運動がうまくできるかを考えながら勉強しています。	はい 56人
		どちらでもない 23人
		いいえ 6人

⑨	体育では、いたずらや自分勝手なことをしません。	はい どちらでもない	76人 9人
⑩	体育で、「あっ、わかった!」「ああ、そうか」と思うことがあります。	はい どちらでもない いいえ	70人 14人 1人
⑪	体育で体を動かすと、とても気持ちがいいです。	はい どちらでもない いいえ	61人 20人 4人
⑫	体育は、明るく暖かい感じがします。	はい どちらでもない いいえ	59人 21人 5人
⑬	体育では、みんなが、楽しく勉強できます。	はい どちらでもない いいえ	69人 14人 2人
⑭	体育をするとすばやく動けるようになります。	はい どちらでもない いいえ	50人 29人 6人
⑮	体育で運動するとき、自分のめあてを持って勉強します。	はい どちらでもない いいえ	36人 32人 17人
⑯	私は、運動が、上手にできるほうだと思います。	はい どちらでもない いいえ	37人 28人 20人
⑰	体育では、精一杯運動することができます。	はい どちらでもない いいえ	71人 12人 2人
⑱	体育では、わかったと思うこと（知識）を実際に生かすことができます。	はい どちらでもない いいえ	52人 26人 7人
⑲	体育では、1つの運動がうまくできると、もう少し難しい運動に挑戦しようという気持ちになります。	はい どちらでもない いいえ	52人 27人 6人
⑳	体育では、クラスやグループの約束ごとを守ります。	はい どちらでもない	79人 6人
㉑	柔道が好きです。	はい どちらでもない いいえ	30人 43人 12人
㉒	【㉑でどちらでもないorいいえを選択した人】 その理由は何か。	柔道が苦手で自信がない 楽しいと感じない 疲れる 汗をかくのがいやだ けがをするのが怖い 柔道場が暑い 投げられるのが痛い	30人 10人 10人 9人 16人 1人 1人
㉓	自分の投げ技の技能についてどのように考えているか。	技のやり方も分かって、う まくできる 技のやり方があまり分かって いないけど、うまくできる 技のやり方は分かるけど、で きない 技のやり方は分からなく、で きない	8人 15人 53人 9人
㉔	柔道経験の有無 ex]習い事など	有 無	1人 84人
㉕	柔道経験の有無 ex]小中学校で	有 無	20人 65人
㉖	自分の得意技（2つ）	支釣込足 体落 大外刈 大内刈 大腰 背負投 小内刈 内股	7人 42人 63人 8人 8人 27人 5人 7人
㉗	ジグゾー学習の有無	有 無	7人 78人

(4) 指導観

本単元では、はじめに基本動作と受け身、8つの既習技の復習を行う。その後、教え合い活動を通して既習技の精度を上げ、自分で技のポイントを言語化して相手に分かりやすく伝える力を養いながら、技能の習得を図る。後半は、自己の得意技を見つけ、試合で実践的に発揮できるよう連絡技・変化技を身につけさせたい。そのために第2学年では、次のようなことに重点を置いて授業を行っていく。

第一に、言語活動を充実させ、活動中に気づいたことをアドバイスし合えるように、毎時間、グループ活動を展開し、ジグゾー学習の視点から教え合い活動を行う。インプット・アウトプットを繰り返し行うことで自分の中の情報が整理され、知識・技能の定着と向上を図ることができる。また、ICT 機器を活用したり、ワークシートを活用したりし、各技能に対して課題と視点を与える。生徒同士が見るポイントとして、①くずし②体さばき③タイミング④技のかけ方に重点を置く。視点を明確にし、活動を行うことで気づきが生まれやすく、互いに指摘し合ったり、伝え合ったりする活動を通して思考力・判断力・表現力が育成できると考える。

第二に、試合で使える技の習得を目指し、かかり練習や約束練習を充実させていく。既習技の技能が定着したら、自分の得意技は何か、そしてその得意技をかけるためにはその前に何の技を出して相手を崩すかを考える。連絡技・変化技を行うため自分たちで考える時間をとり、動きの中で技をかけることができるようにする。更に ICT 機器を活用して、正しい動作が行えているかの確認を行う場面を設定していく。

第三に、正しい知識や技能の習得、生徒同士の話し合いの活性化のために、教師が常に全体を見回り、生徒一人一人に合った的確なアドバイスをしていく。柔道においては、体重・体格の差から、組み合わせによっては一緒に組んで活動することが難しいことがあるため、事前に体重ごとにグループ分けをし、柔道に取り組みやすい環境づくりを行う。安全面を配慮し、段階的な指導を行っていくとともに、危険な動作や禁じ手を用いないなどの安全面の確保を十分に行う。また、実際に教師が動きの手本を見せたり、ICT 機器を用いて解説動画をみたりすることで、生徒同士の活動を活性化させ、柔道のもつ魅力に触れさせたい。

4. 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な考え方とは、対戦相手は「道」を追求する大切な仲間であることについて、言ったり書き出したりしている。 ①各種目で用いられる技の名称や用語があり、それぞれの技には、技の向上につながる重要な動きや用具の操作のポイント及び安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本動作 ・姿勢と組み方では、相手の体格や姿勢、かける技などに対応して、素早く自然体で組むことができる。 ①崩しと体さばきでは、自分の姿勢の安定を保ちながら相手の体勢を不安定にし、素早く技をかけやすい状態をつくることことができる。 ・進退動作では、自分の姿勢の安定を保ちながら素早く体の移動をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①見取り稽古などから、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を他者に伝えている。 ②課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。 ・自己や仲間の課題を解決するための練習の計画を立てている。 ・練習や試合の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案している。 ・相手を尊重するな 	<ul style="list-style-type: none"> ・武道の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ①役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ②危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保してい

<p>・武道の種目によって必要な体力要素があり、その種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②課題解決の方法には、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、試合などを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった課程があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・試合で、競技のルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>②受け身では、相手の投げ技に応じて安定した受け身をとることができる。</p> <p>○ 投げ技</p> <p>③取は大内刈をかけて投げ、受は受け身を取ることができる。</p> <p>④取は内股をかけて投げ、受は受け身を取ることができる。</p> <p>○ 投げ技の防御</p> <p>・受は、相手の釣り手を抑えて技をかけさせないで防ぐこと。</p> <p>・受は、相手が技をかけた力を利用して自分の体を前後左右に適時にさばいて防ぐことができる。</p> <p>・受は、相手よりも重心を低く落として防ぐことができる。</p> <p>・受は、相手の引き手を振り払って防ぐことができる。</p> <p>○ 投げ技の連絡</p> <p>〈二つの技を同じ方向にかける技の連絡〉</p> <p>⑤内股から体落へ連絡することができる。</p> <p>〈二つの技を違う方向にかける技の連絡〉</p> <p>⑥内股から大内刈へ連絡することができる。</p> <p>○ 投げ技の変化</p> <p>⑦相手の大内刈や大外刈を切り返すことができる。</p> <p>・相手の大内刈や小内刈をかわして体落として投げることができる。</p>	<p>どの伝統的な行動をする場面で、自己や仲間の活動を振り返り、よりよい所作について提案している。</p> <p>・体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに武道を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>・武道の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>る。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------

※表中の○囲み数字は、当該単元の学習活動に即した評価規準を示している。

5. 単元の指導計画と評価計画（7時間）

時	学習内容・学習活動	知	技	思	主	評価方法
1	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次に学習した投技のポイントを再度確認する <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期の流れを説明 ・ウォームアップ (準備運動、補強運動、受け身) ・既習技のポイントの確認 (支釣込足、体落、大外刈、大内刈、大腰、背負投、小内刈、内股) ・かかり練習 ・約束練習 ・事前アンケートをもとに4つの技を指定し、各グループに次の授業までに1年次に習ったポイントを紙に記入してもらうよう課題を与える。 	①				知-① (既習技の練習)
2	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のグループの投げ技のポイントを考えよう! <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習(ジグゾー法) 前回の授業後に出した課題をもとに、各グループに与えられた投げ技について研究を行う。(動きのポイント、コツなどを話し合い、身につける) ・かかり練習 ・約束練習 	②				知-② (グループ学習) 思-② (観察)
3	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の技を教え合い、新たな技を習得しよう! <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動(ジグゾー法) 前時までのグループを基に、技混合の新たな 			①		技-① (グループ学習)

	<p>グループを作成し、教え合い活動を行う。 (例：支釣込足1人、大内刈1人、内股1人、小内刈1人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかり練習 ・約束練習 					<p>思-① (ワークシート)</p>
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習内容】 ・自分の技を教え合い、新たな技を習得しよう！</p> </div> <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 (ジグゾー法) <p>前時と同じグループで、ペアを変えて、教え合い活動を行う。 (例：支釣込足1人、大内刈1人、内股1人、小内刈1人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかり練習 ・約束練習 				①	<p>思-① (ワークシート)</p> <p>主-① (観察)</p>
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習内容】 ・自分の技を教え合い、新たな技を習得しよう！</p> </div> <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 (ジグゾー法) <p>前時と同じグループで、ペアを変えて、教え合い活動を行う。 (例：支釣込足1人、大内刈1人、内股1人、小内刈1人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかり練習 ・約束練習 					<p>思-① (ワークシート)</p>
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習内容】 ・自分の技を教え合い、新たな技を習得しよう！</p> </div> <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 (ジグゾー法) <p>前時と同じグループで、ペアを変えて、教え合い活動を行う。 (例：支釣込足1人、大内刈1人、内股1人、小内刈1人)</p>					<p>思-① (ワークシート)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ かかり練習 ・ 約束練習 				
7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの投げ技の自分オリジナルの解説動画を作ろう！ </div> <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動 (ジグゾー法) <p>元のグループに戻り、chrome book を使って1人4つの解説動画を撮る。</p> <p>(くずし、体さばき、タイミング、技のかけ方の表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かかり練習 ・ 約束練習 	<p>③</p> <p>④</p>			<p>技-③④</p> <p>(解説動画)</p>

6. 本時（全7時間中の第1時）

時間	学習内容・学習活動	教師の指導・支援
導入 10分	① 集合、整列、挨拶、出席確認 ② 準備運動、補強運動 ・腕立て伏せ ・バイシクルクランチ ・ブリッジ ・首ブリッジ ③ 受け身 ・後ろ受け身、横受け身、前受け身 ④ 回転運動 ・前回り受け身	○本時のねらいを説明し、生徒が共通理解をもって取り組めるようにする。 ○けがのないように入念にウォームアップを行う。 ○正しく安全に行えるように個別指導する。 ○苦手な生徒に対して段階的にステップアップできるように指導していく。
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 1年次に学習した投技のポイントを振り返ろう！ </div> ⑤ オリエンテーション ・授業の進め方 ・ワークシートの使い方 ・グループ分け ・注意事項 ⑥ 既習技のポイントの確認 （支釣込足、体落、大外刈、大内刈、大腰、背負投、小内刈、内股） ※対象である大内刈・小内刈・内股・支釣込足を優先的に行う 1つの技につき4分 ・かかり練習 ・約束練習	○2学期の内容、目標を説明し、生徒に明確な見通しをもたせる。 ○Google slid を使ったワークシートの使い方、グループ分け、注意事項など多くの説明をするため、簡潔に説明し、全体で確認する。 ○既習技の簡単な説明 ・大内刈 くずし…引き手と釣り手を反対方向にひらく 足さばき…1・2 左右の足でTの字を作る 自分の右足を地面につけたまま相手の左足を刈る 自分の前に倒す ・小内刈 くずし…脇を思いっきりしめて引き手と釣り手を中心に引き寄せる 足さばき…1・2 左右の足でTの字を作る 自分の右足で相手の右足を刈る 自分の前に倒す

		<ul style="list-style-type: none"> ・内股 <ul style="list-style-type: none"> 引き手…腕時計を見るように 釣り手…アッパーカット 足さばき…1・2 左右の足でTの字を作る 腰で背負って、最後に自分の右足で相手の左足を刈る ・支釣込足 <ul style="list-style-type: none"> 引き手…腕時計を見るように 釣り手…アッパーカット 足さばき…右足に重心を置き、半身になって左足でかける ・体落 <ul style="list-style-type: none"> 引き手…腕時計を見るように 釣り手…アッパーカット 足さばき…1・2・3 <ul style="list-style-type: none"> 真ん中・外・外 重心を低くする ・背負い投げ <ul style="list-style-type: none"> 引き手…腕時計を見るように 釣り手…肘を相手の右脇にさす 足さばき…1・2 <ul style="list-style-type: none"> 相手の足の正面 重心を低くして背負って投げる ・大腰 <ul style="list-style-type: none"> 引き手…腕時計を見るように 釣り手…相手の腰に手を添える 足さばき…1・2 <ul style="list-style-type: none"> 相手の足の正面 重心を低くして背負って投げる ・大外刈 <ul style="list-style-type: none"> くずし…自分から見て左にくずして、相手を右足1本の状態にする 足さばき…左・右 遠慮せずに思いっきり刈る →自分の足と体でTの字を作る
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>○今後、教え合うときに、抽象的に教えるのではなく、ポイントや自分の動きを言語化して的確に伝えられるように、まずは自分がやって見せる。</p> <p>○1つの技につき4分と短いため、効率的に行う。</p> <p>○くずしと体さばきがポイントであると生徒が自ら気づくことができるような声かけ、指導をする。</p> <p>○2カ月ぶりの投げ技であるため、より安全に配慮し、全体の見回り、声掛けは常に行う。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>⑦ 整理運動</p> <p>⑧ 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 投げ技のポイントの確認 ・ Google フォームへの記録 ・ 次時の連絡 ・ 来週までの課題を提示 (自分のグループに割り当てられた投げ技のポイントを調べて、紙にまとめてくる) <p>⑨ 挨拶、解散</p>	<p>○ワークシートを使い、効果的に振り返りをさせる。</p> <p>○Google フォームに授業の感想を記録し、形成的評価を行う。</p> <p>○ワークシートの記入方法について再度確認する。</p> <p>○次時の学習計画を確認し、見通しをもたせる</p>

評価規準（評価方法）

【知識・技能】

1年次学習した技の名称やそれぞれの技のポイントを（十分に）理解し、基本動作が（正確に）実践できている。

※（ ）はA基準

[観察]

<B基準に達しない生徒への手立て>

約束練習の際にできていないポイントを見つけ、個別指導や声掛けで具体的に伝える。

(グループ分け)

○1・5組

〔A グループ〕

20502・20515・20105・20108・20501

〔B グループ〕

20519・20517・20513・20506

〔C グループ〕

20521・20524・20512・20520

〔D グループ〕

20102・20103・20509・20109・20510

○2・10組

〔A グループ〕

20202・20201・21020・21001

〔B グループ〕

21011・21030・20205・21010・21008

〔C グループ〕

20203・21009・21021・21024・21025

〔D グループ〕

20210・20208・21028・21022・21027

○3・6組

〔A グループ〕

20611・20601・20302・20301

〔B グループ〕

20614・20623・20307・20617

〔C グループ〕

20621・20303・20608・20622

〔D グループ〕

20306・20615・20618・20602

○4・7組

〔A グループ〕

20407・20401・20710・20713

〔B グループ〕

20409・20717・20716・20711

〔C グループ〕

20403・20412・20707・20704

〔D グループ〕

20411・20415・20706・20714

○8・9組

〔A グループ〕

20803・20805・20903・20916・20809

〔B グループ〕

20815・20902・20813・20912

〔C グループ〕

20909・20817・20814・20816・20914

〔D グループ〕

20904・20913・20906・20807・20907

7. 板書計画

柔道2学期 オリエンテーション

苦手な技を教え合い得意になろう！

- ・授業の進め方
- ・ワークシートの使い方
- ・グループ分け
- ・注意事項

・主約込足	・大股
・体寄	・背負投
・大内刈	・小内刈
・大内股	・内股

事前調査の結果

自分の得意技(2つ)

授業内では、**大内刈・小内刈・内股・支約込足**を取り扱う

授業の進め方

時間	観戦内容
①	オリエンテーション 投げ技の再確認
②	自分のグループの技の研究
③	教え合い活動①
④	教え合い活動②
⑤	教え合い活動③
⑥	教え合い活動④
⑦	動画作成 まとめ

授業の進め方

- ・授業の前後に必ず**自分の動画を撮ってGoogle Slidに貼る！**
- ・ワークシートにしっかり記入する！
- ・教えてもらった技は責任をもって次の相手に教える！
- ・毎回の動画とワークシートは評価対象に！

ワークシートの使い方

上の欄

教えてもらったこと、学んだことをできるだけ多く記入していく
くすし、体名はき、タイミング、技のかけ方!

下の欄

上のメモから、次の時間他の人にもどのように教えていくのかを記入する
相手に分かりやすく、具体的に!

【大内刈】

(右足は踵伸ばしにのりように敷き足すのか)

○ 良い例

1歩目で上にあげ、2歩目で(外)下に押し込む

受けの両足は踵伸ばしにのりように敷き足すのか

半円を描くように 受けの重心が異なる側の足に乗る瞬間に押し込んでいる

(右足は踵伸ばしにのりように敷き足すのか)

相手の足を踏むときは、受けを前方に蹴って、足で押し込める側に重心を移動させる。タイミングは受けの重心が対する側の足に乗る瞬間に合った方がいい。そのとき、後ろに押し込むように倒したら技をかけやすい。

× 悪い例

(右足は踵伸ばしにのりように敷き足すのか)

・シャツと上げて、サツと切る ・だいたいタイミング ・センス ・ごうやてごう...

【正確な技、動作】

【大内刈】

(参考動画)

【大内刈】動画を貼って、自己評価しよう

→

(はじめ) (最後)

解説動画

(解説動画)

グループ分け

A大内刈	B内股	C小内刈	D支約込足
20502	20519	20521	20102
20515	20517	20524	20103
20105	20513	20512	20509
20108	20513	20512	20109
20501	20506	20520	20510

グループ分け

A大内刈	B内股	C小内刈	D支約込足
20202	21011	20203	20210
20201	21030	21009	20208
20205	21025	21021	21028
21020	21010	21024	21022
21001	21008	21025	21027

グループ分け

A大内刈	B内股	C小内刈	D支約込足
20611	20614	20621	20306
20601	20623	20303	20615
20302	20307	20608	20618
20301	20617	20622	20602

グループ分け

A大内刈	B内股	C小内刈	D支約込足
20407	20409	20403	20411
20401	20717	20412	20415
20710	20716	20707	20706
20713	20711	20704	20714

グループ分け

A大内刈	B内股	C小内刈	D支約込足
20803	20815	20909	20904
20805	20902	20817	20913
20903	20813	20814	20906
20916	20813	20816	20807
20809	20912	20914	20907

注意事項

- ・**毎時間、自分のChrome Bookを必ず持ってくる!**
- ・けがに注意して安全に!
- ・打ち込みのときは声を出す!
- ・全ての技をマスターしよう!

6. 本時（全7時間中の第2時）

時間	学習内容・学習活動	教師の指導・支援
導入 10分	① 集合、整列、挨拶、出席確認 ② 準備運動、補強運動 ・腕立て伏せ ・バイシクルクランチ ・ブリッジ ・首ブリッジ ③ 受け身 ・後ろ受け身、横受け身、前受け身 ④ 回転運動 ・前回り受け身 ⑤ 本時の説明	○本時のねらいを説明し、生徒が共通理解をもって取り組めるようにする。 ○けがのないように入念にウォームアップを行う。 ○正しく安全に行えるように個別指導する。 ○苦手な生徒に対して段階的にステップアップできるように指導していく。
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 自分のグループの投げ技のポイントを考えよう！ </div> ⑥ グループ学習 ・4～5人×4組（技ごと） ・自分の動画を撮る（5分） ↓ ・各グループで技の研究（15分） 技をかけ合ったり YouTube で調べたりして、自分のグループの技のポイント（くずし・体さばき）について話し合う。 ↓ ・もう一度自分の動画を撮る（5分）	○4～5人1組のグループを4組作り、各グループにそれぞれ投げ技を提示し、前回の授業後に出した課題をもとにグループ学習を行う。 ○既習技ではあるが、各グループでワークシートや chrome book 等を活用し、技のポイントを再度確認する。 ○chrome book を使って自分の動きを撮影し、各班で手本の動画と比較し、お互いの動きについて話し合うようにする。その際、ワークシートに書いてきたポイントを意識しながら行い、必要であれば、その都度ポイントを書き足していく。 ○ワークシートを用いポイントを記入するよう促す。（うまくできると思う人はコツ、うまくできないと思う人は意識したこと等） その際、生徒たちがどのくらい自分の動きを言語化できるのかを見る。 ○次回以降、自分がその技を他の人に教

	<p>えるため、自分なりのポイントや表現の仕方などを意識しながら行うようにする。</p> <p>○くずしと体さばきがポイントであると生徒が自ら気づくことができるような声かけ、指導をする。</p> <p>場合によっては、一旦全員集合させ、全体に指導することもある。</p> <p>○映像を見る時間が長くなりすぎて、活動時間（練習時間）が短くならないように注意し、活動の様子をみながら声かけ等をする。</p> <p>○授業の前後で自分の動きを撮影し、ワークシートに記録することで、授業内でどのくらい技能が上達したのかを生徒自身が振り返られるようにする。</p> <p>○安全にできるよう個別指導も行う。</p>	
<p>まとめ 10分</p>	<p>評価規準（評価方法）</p> <p>【知識・技能】</p> <p>自己の目標や能力に応じた課題を（的確に）設定して、課題解決のための練習法を（正確に）選択し実践できている。</p> <p>※（ ）はA基準</p> <p>【観察・動画】</p> <p><B基準に達しない生徒への手立て></p> <p>グループ学習の際にできていないポイントを見つけ、個別指導や声掛けで具体的に伝える。</p>	<p>○ワークシートを使い、効果的に振り返りをさせる。</p> <p>○ワークシートの振り返りと記入方法について再度確認する。</p> <p>○次時の学習計画を確認し、見通しをもたせる</p>

	(自分が本時で学んだことを次の時間 どのように教えるのかを考えてくる)	
	⑨ 挨拶、解散	

(グループ分け)

○1・5組

{A グループ}

20502・20515・20105・20108・20501

{B グループ}

20519・20517・20513・20506

{C グループ}

20521・20524・20512・20520

{D グループ}

20102・20103・20509・20109・20510

○2・10組

{A グループ}

20202・20201・21020・21001

{B グループ}

21011・21030・20205・21010・21008

{C グループ}

20203・21009・21021・21024・21025

{D グループ}

20210・20208・21028・21022・21027

○3・6組

{A グループ}

20611・20601・20302・20301

{B グループ}

20614・20623・20307・20617

{C グループ}

20621・20303・20608・20622

{D グループ}

20306・20615・20618・20602

○4・7組

{A グループ}

20407・20401・20710・20713

{B グループ}

20409・20717・20716・20711

{C グループ}

20403・20412・20707・20704

{D グループ}

20411・20415・20706・20714

○8・9組

{A グループ}

20803・20805・20903・20916・20809

{B グループ}

20815・20902・20813・20912

{C グループ}

20909・20817・20814・20816・20914

{D グループ}

20904・20913・20906・20807・20907

板書計画

**柔道
2時間目**

授業の進め方

時間	授業内容
①	オリエンテーション 投げ技の再確認
②	自分のグループの技の研究
③	教え合い活動①
④	教え合い活動②
⑤	教え合い活動③
⑥	教え合い活動④
⑦	動画作成 まとめ

授業の流れ

- 自分の動画を撮る！ **(5分)**
- 各グループで技の研究 **(15分)**
- もう一度自分の動画を撮る！ **(5分)**
- 振り回り **(10分)**

授業の流れ

- 何回も動画を撮って良し！
- YouTubeを見ても良し！
- ワークシートにしっかり記入する！
- 毎回の動画とワークシートは評価対象に！**

ワークシートの使い方

上の欄
教えてもらったこと、学んだことをできるだけ多く記入していく
(くすし、株さばき、タイミング、技のかけ方)

下の欄
上のメモから、次の時間他の人にもどのように教えていくのかを記入する
相手に分かりやすく、具体的に！

○良い例

1歩目で上にあげ、2歩目で(外)下に押し込む

相手の両足
脚間に

(※足は相手脚にのりように乗せていくこと)
相手を崩すときは、受けを後方に崩して、足で切り広げる側に重心を移動させる。タイミングは受けの重心が片足の足に乗る瞬間に利った方がいい。そのとき、後ろに押し込むように倒したら技をかけやすい。

×悪い例

(※足は相手脚にのりように乗せていくこと)
ショツと上げて、サツと片足 - だいたいタイミング - センス - こらやてこう...
足乗せ、足乗せ

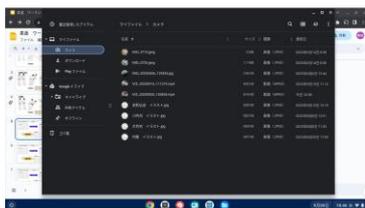
【大内対】動画を貼って、自己評価しよう

(はじめ) → (最後)

解説動画 (解説動画)

振り回り

- 柔道振り回りシートを記入する！
- ワークシートに動画を貼りつける！



7分以内 動画を貼って、自己評価しよう

解説動画

グループ分け

A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20502	20519	20521	20102
20515	20517	20524	20103
20105	20513	20512	20509
20108	20506	20520	20109
20501			20510

グループ分け

A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20202	21011	20203	20210
20201	21030	21009	20208
21020	20205	21021	21028
21020	21010	21024	21022
21001	21008	21025	21027

グループ分け

A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20611	20614	20621	20306
20601	20623	20303	20615
20302	20307	20608	20618
20301	20617	20622	20602

グループ分け

A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20407	20409	20403	20411
20401	20717	20412	20415
20710	20716	20707	20706
20713	20711	20704	20714
20708			

グループ分け

A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20802	20815	20909	20904
20805	20902	20817	20913
20903	20813	20814	20906
20916	20912	20816	20807
20809		20914	20907

6. 本時（全7時間中の第3時）

時間	学習内容・学習活動	教師の指導・支援
導入 10分	① 集合、整列、挨拶、出席確認 ② 準備運動、補強運動 ・腕立て伏せ ・バイシクルクランチ ・ブリッジ ・首ブリッジ ③ 受け身 ・後ろ受け身、横受け身、前受け身 ④ 回転運動 ・前回り受け身 ⑤ 本時の説明	○本時のねらいを説明し、生徒が共通理解をもって取り組めるようにする。 ○けがのないように入念にウォームアップを行う。 ○正しく安全に行えるように個別指導する。 ○苦手な生徒に対して段階的にステップアップできるように指導していく。
展開 30分	<div data-bbox="368 907 1305 981" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自分の技を教え合い、新たな技を習得しよう！ </div> ⑥ ポイントの確認 ⑦ グループ学習（ジグゾー法） ・4～5人×4組（技混合）	○前回の復習も兼ねて、各自で前時のワークシートの復習をしてポイントを確認し、新しいメンバーにどのように教えるかを考える。 ○前時までのグループを基に、技混合の新たなグループを作成し、ジグゾー学習を行う。 ○前回の授業のワークシートを見直し、自分のグループの技のポイントと自分がどのようなことを意識して練習していたかを再確認し、本時のグループ学習に活かせるようにする。 ○ジグゾー学習が活性化するように、何からしていいかわからず行き詰まり、活動時間が減ることがないように見回り、声掛けを行う。 ○教え合うときに、抽象的に教えるのではなく、ポイントや自分の動きを言語化して的確に伝えられるようにする。 ○活動時は、ワークシートを用い、自分の考えるポイント、他者からのアドバイ

	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの復習 (2分) ・自分の動画を撮る (4分) <li style="text-align: center;">↓ ・技の教え合い (1人10分×2) <li style="padding-left: 20px;">ワークシートを基に、技をかけ合いながら、前時で自分が研究した技のポイント(くずし・体さばき)について教え合う。 <li style="text-align: center;">↓ ・もう一度自分の動画を撮る (4分) <li style="padding-left: 20px;">グループ学習を通して、今日一番の動画(本時で学んだ技)を作る。 	<p>ス・考えを記入する。</p> <p>○chrome bookでYouTubeを見て、手本を参考にすることも良いが、基本的には前時で使用した自分のワークシートを活用して、技のポイントやコツを教えるようにする。</p> <p>○自分が学んだ技をまだ学んでいない人に教えて、できるようにする体験を通して、全員に自己有能感を感じられるようにする。</p> <p>○前時までと同様にくずしと体さばきがポイントであると生徒が自ら気づくことができるような声かけ、指導をする。</p> <p>○最後は、教えてもらったことを意識して投げ技の動画を撮るようにする。</p> <p>○前時までとは異なる技を扱うため、より安全に配慮し、全体の見回り、声掛けは常に行う。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>⑧ 整理運動</p> <p>⑨ 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得意技のポイントの確認 ・ワークシートへの記録 ・Google Formへの記入 	<p>○ワークシートを使い、効果的に振り返りをさせる。</p> <p>○ワークシートの振り返りと記入方法について再度確認する。</p> <p>○次時の学習計画を確認し、見通しをもたせる</p>

評価規準 (評価方法)

【思考・判断・表現】

自分の技を仲間に教える際、自己や仲間の動きを(正確に)分析して、良い点や修正点を他者に(わかりやすく)伝えている。

※ () はA基準

[観察・ワークシート]

<B基準に達しない生徒への手立て>

その生徒が気づいていないポイントを見つけ、個別指導や前向きな声掛けをする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の連絡 ・来週までの課題を提示 (自分が本時で学んだことを次の時間 どのように教えるのかを考えてくる) 	
	⑩ 挨拶、解散	

(グループ分け)

○1・5組

〔グループ①〕

20502・20519・20521・20102

〔グループ②〕

20515・20517・20524・20103・20509

〔グループ③〕

20105・20108・20513・20512・20109

〔グループ④〕

20501・20506・20520・20510

○2・10組

〔グループ①〕

20202・21011・21030・20203・20210

〔グループ②〕

20201・20205・21009・21021・20208

〔グループ③〕

21020・21010・21024・21028・21022

〔グループ④〕

21001・21008・21025・21027

○3・6組

〔グループ①〕

20611・20614・20621・20306

〔グループ②〕

20601・20623・20303・20615

〔グループ③〕

20302・20307・20608・20618

〔グループ④〕

20301・20617・20622・20602

○4・7組

〔グループ①〕

20407・20708・20409・20403・20411

〔グループ②〕

20401・20717・20412・20415

〔グループ③〕

20710・20716・20707・20706

〔グループ④〕

20713・20711・20704・20714

○8・9組

〔グループ①〕

20802・20815・20909・20904・20913

〔グループ②〕

20805・20902・20817・20814・20906

〔グループ③〕

20903・20916・20813・20816・20807

〔グループ④〕

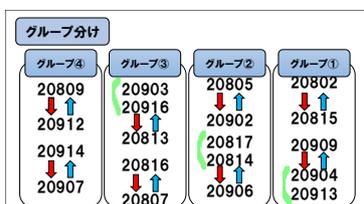
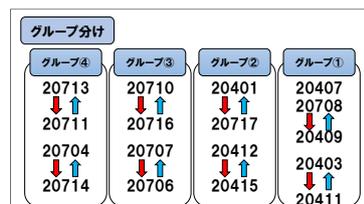
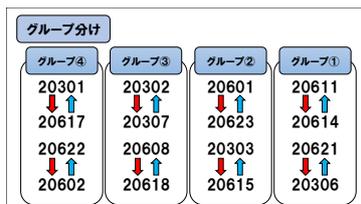
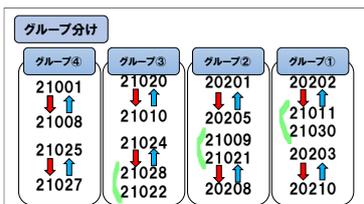
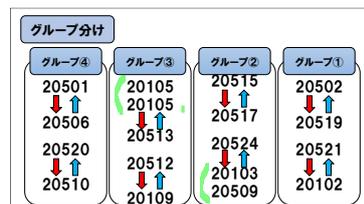
20809・20912・20914・20907

板書計画

**柔道
3時間目**

授業の進め方

時間	授業内容
①	オリエンテーション 投げ技の再確認
②	自分のグループの技の研究
③	教え合い活動①
④	教え合い活動②
⑤	教え合い活動③
⑥	教え合い活動④
⑦	動画作成 まとめ



- 授業の流れ**
- 自分の動画を撮る！ **【5分】**
 - 技の教え合い！ **【1人10分×2】**
↓前半 ↑後半
 - もう一度自分の動画を撮る！ **【5分】**
 - 振り返り **【10分】**

- 授業の流れ**
- YouTubeはできるだけ見ない！
 - 教えるときは自分のワークシートを参考に！（コツ）
 - 教えてもらうときはワークシートにしっかり記入する！
 - 毎回の動画とワークシートは評価対象に！

ワークシートの使い方

上の欄
教えてもらったこと、学んだことをできるだけ多く記入していくくずし、株まほき、タイミング、技のかけ方

下の欄
上のメモから、次の時間他の人にとりよかに教えていくのかを記入する相手に分かりやすく、具体的に！

○ 良い例

1歩目で上げ、2歩目で(外)下に押し込む

受けの両足は肩幅より広く、両足を揃えておく

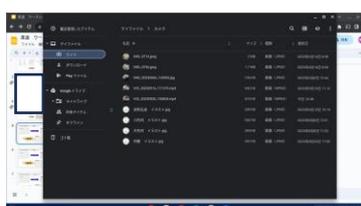
（内容は随時授業にてお伝えしていくが）相手に寄りかかるとは、受けを後方に蹴って、足で押し当たる時に重心を移動させる。タイミングは受けの重心が対する側の足に集まる瞬間に向けた方がいい。そのとき、後ろに押し込むように倒したら技をかけやすい。

× 悪い例

（内容は随時授業にてお伝えしていくが）相手に寄りかかるとは、受けを後方に蹴って、足で押し当たる時に重心を移動させる。タイミングは受けの重心が対する側の足に集まる瞬間に向けた方がいい。そのとき、後ろに押し込むように倒したら技をかけやすい。

・ショツと上げて、サツと対る、・たいいのタイミング、・センス、・ごうやってごう、...
【正確動作、正確な力】

- 振り返り**
- 柔道振り返りシートを記入する！
 - ワークシートに動画を貼りつける！



6. 本時（全7時間中の第4時）

時間	学習内容・学習活動	教師の指導・支援
導入 10分	① 集合、整列、挨拶、出席確認 ② 準備運動、補強運動 ・腕立て伏せ ・バイシクルクランチ ・ブリッジ ・首ブリッジ ③ 受け身 ・後ろ受け身、横受け身、前受け身 ④ 回転運動 ・前回り受け身 ⑤ 本時の説明	○本時のねらいを説明し、生徒が共通理解をもって取り組めるようにする。 ○けがのないように入念にウォームアップを行う。 ○正しく安全に行えるように個別指導する。 ○苦手な生徒に対して段階的にステップアップできるように指導していく。
展開 30分	<div data-bbox="368 913 1318 981" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自分の技を教え合い、新たな技を習得しよう！ </div> ⑥ ポイントの確認 ⑦ グループ学習（ジグゾー法） ・4～5人×4組（技混合）	○前回の復習も兼ねて、各自で前時のワークシートの復習をしてポイントを確認し、新しいメンバーにどのように教えるかを考える。 ○前時までのグループを基に、技混合の新たなグループを作成し、ジグゾー学習を行う。 ○前回の授業のワークシートを見直し、自分のグループの技のポイントと自分がどのようなことを意識して練習していたかを再確認し、本時のグループ学習に活かせるようにする。 ○ジグゾー学習が活性化するように、何からしていいかわからず行き詰まり、活動時間が減ることがないように見回り、声掛けを行う。 ○教え合うときに、抽象的に教えるのではなく、ポイントや自分の動きを言語化して的確に伝えられるようにする。 ○活動の際、ワークシートを用い、自分の考えるポイント、他者からのアドバイ

	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの復習 (2分) ・自分の動画を撮る (4分) <li style="text-align: center;">↓ ・技の教え合い (1人10分×2) <li style="padding-left: 20px;">ワークシートを基に、技をかけ合いながら、前時で自分が研究した技のポイント(くずし・体さばき)について教え合う。 <li style="text-align: center;">↓ ・もう一度自分の動画を撮る (4分) <li style="padding-left: 20px;">グループ学習を通して、今日一番の動画(本時で学んだ技)を作る。 	<p>ス・考えを記入する。</p> <p>○chrome bookでYouTubeを見て、手本を参考にすることも良いが、基本的には前時で使用した自分のワークシートを活用して、技のポイントやコツを教えるようにする。</p> <p>○自分が学んだ技をまだ学んでいない人に教えて、できるようにする体験を通して、全員に自己有能感を感じられるようにする。</p> <p>○前時までと同様にくずしと体さばきがポイントであると生徒が自ら気づくことができるような声かけ、指導をする。</p> <p>○最後は、教えてもらったことを意識して投げ技の動画を撮るようにする。</p> <p>○前時までとは異なる技を扱うため、より安全に配慮し、全体の見回り、声掛けは常に行う。</p>
<p>評価規準(評価方法)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>自己の役割を(理解し)積極的に引き受け、前回教えてもらったことを(十分に)責任をもって次のペアに教えている。</p> <p>※ ()はA基準</p> <p>[観察・動画]</p> <p><B基準に達しない生徒への手立て></p> <p>教え合い学習の際に、個別指導を行い、生徒が意欲的に取り組もうと思えるような前向きな声掛けを行う。</p>		
<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 整理運動 ⑨ 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。 ・得意技のポイントの確認 ・ワークシートへの記録 ・Google Formへの記入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを使い、効果的に振り返りをさせる。 ○ワークシートの振り返りと記入方法について再度確認する。 ○次時の学習計画を確認し、見通しをもたせる

	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の連絡 ・来週までの課題を提示 (自分が本時で学んだことを次の時間 どのように教えるのかを考えてくる) 	
	⑩ 挨拶、解散	

(グループ分け)

○1・5組

〔グループ①〕

20502・20521・20519・20102

〔グループ②〕

20515・20524・20517・20103・20509

〔グループ③〕

20105・20108・20512・20513・20109

〔グループ④〕

20501・20520・20506・20510

○2・10組

〔グループ①〕

20202・20203・21011・21030・20210

〔グループ②〕

20201・21009・21021・20205・20208

〔グループ③〕

21020・21024・21010・21028・21022

〔グループ④〕

21001・21025・21008・21027

○3・6組

〔グループ①〕

20611・20621・20614・20306

〔グループ②〕

20601・20303・20623・20615

〔グループ③〕

20302・20608・20307・20618

〔グループ④〕

20301・20622・20617・20602

○4・7組

〔グループ①〕

20407・20708・20403・20409・20411

〔グループ②〕

20401・20412・20717・20415

〔グループ③〕

20710・20707・20716・20706

〔グループ④〕

20713・20704・20711・20714

○8・9組

〔グループ①〕

20802・20909・20815・20904・20913

〔グループ②〕

20805・20817・20814・20902・20906

〔グループ③〕

20903・20916・20816・20813・20807

〔グループ④〕

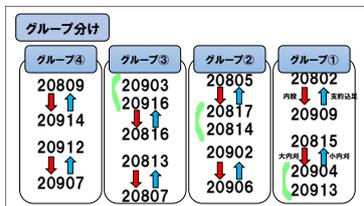
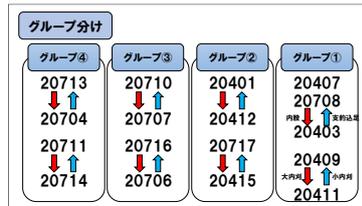
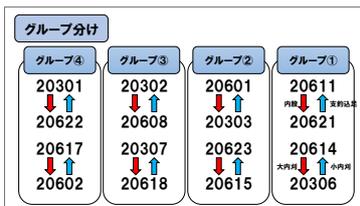
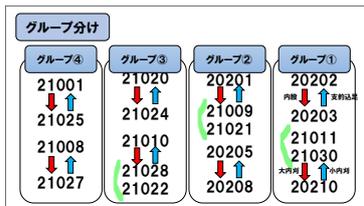
20809・20914・20912・20907

板書計画

**柔道
4時間目**

授業の進め方

時間	授業内容
①	オリエンテーション 投げ技の再確認
②	自分のグループの技の研究
③	教え合い活動①
④	教え合い活動②
⑤	教え合い活動③
⑥	教え合い活動④
⑦	動画作成 まとめ



- 授業の流れ**
- 自分の動画を撮る！ **【5分】**
 - 技の教え合い！ **【1人10分×2】**
↓前半 ↑後半
 - もう一度自分の動画を撮る！ **【5分】**
 - 振り回り **【10分】**

- 授業の流れ**
- YouTubeはできるだけ見ない！
 - 教えるときは自分のワークシートを参考に！（コツ）
 - 教えてもらうときはワークシートにしっかり記入する！
 - 毎回の動画とワークシートは評価対象に！

ワークシートの使い方

上の欄
教えてもらったこと、学んだことできるだけ多く記入していく
くすし、株まほき、タイミング、技のかけ方

下の欄
上のメモから、次の時間他の人にもように教えていくかを記入する
相手に分かりやすく、具体的に！

○良い例

1歩目で上にあげ、2歩目で(外)下に押し込む

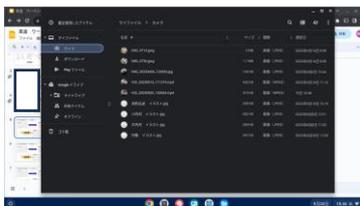
相手の握るときは、受けを後方に倒して、足で押し当たる側に重心を移動させる。タイミングは受けの重心が片側の足に集る瞬間に合った方がいい。そのとき、後ろに押し込むように倒したら技をかけやすい。

×悪い例

（矢印は説明欄にこのように書いているのよ）

・ショットと上げて、サント対する。だいたいこのタイミング。センス。ごうやっごう...
【正確な動作、順番を記す】

- 振り回り**
- 柔道振り回りシートを記入する！
 - ワークシートに動画を貼りつける！



6. 本時（全7時間中の第5時）

時間	学習内容・学習活動	教師の指導・支援
導入 10分	① 集合、整列、挨拶、出席確認 ② 準備運動、補強運動 ・腕立て伏せ ・バイシクルクランチ ・ブリッジ ・首ブリッジ ③ 受け身 ・後ろ受け身、横受け身、前受け身 ④ 回転運動 ・前回り受け身 ⑤ 本時の説明	○本時のねらいを説明し、生徒が共通理解をもって取り組めるようにする。 ○けがのないように入念にウォームアップを行う。 ○正しく安全に行えるように個別指導する。 ○苦手な生徒に対して段階的にステップアップできるように指導していく。
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 自分の技を教え合い、新たな技を習得しよう！ </div> ⑥ ポイントの確認 ⑦ グループ学習（ジグゾー法） ・4～5人×4組（技混合）	○前回までのワークシートで良かった人のワークシートを全体の前で紹介し、意識すべきポイントを再確認して、本時でどのように教えるかを考える。 ○前時までのグループを基に、技混合の新たなグループを作成し、ジグゾー学習を行う。 ○前回の授業のワークシートを見直し、自分のグループの技のポイントと自分がどのようなことを意識して練習していたかを再確認し、本時のグループ学習に活かせるようにする。 ○ジグゾー学習が活性化するように、何かからしていいかわからず行き詰まり、活動時間が減ることがないように見回り、声掛けを行う。 ○教え合うときに、抽象的に教えるのではなく、ポイントや自分の動きを言語化して的確に伝えられるようにする。 ○活動の際、ワークシートを用い、自分の考えるポイント、他者からのアドバイ

	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの復習 (2分) ・自分の動画を撮る (4分) <li style="text-align: center;">↓ ・技の教え合い (1人10分×2) <li style="padding-left: 20px;">ワークシートを基に、技をかけ合いながら、前時で自分が研究した技のポイント(くずし・体さばき)について教え合う。 <li style="text-align: center;">↓ ・もう一度自分の動画を撮る (4分) <li style="padding-left: 20px;">グループ学習を通して、今日一番の動画(本時で学んだ技)を作る。 	<p>ス・考えを記入する。</p> <p>○chrome bookでYouTubeを見て、手本を参考にすることも良いが、基本的には前時で使用した自分のワークシートを活用して、技のポイントやコツを教えるようにする。</p> <p>○自分が学んだ技をまだ学んでいない人に教えて、できるようにする体験を通して、全員に自己有能感を感じられるようにする。</p> <p>○前時までと同様にくずしと体さばきがポイントであると生徒が自ら気づくことができるような声かけ、指導をする。</p> <p>○最後は、教えてもらったことを意識して投げ技の動画を撮るようにする。</p> <p>○前時までとは異なる技を扱うため、より安全に配慮し、全体の見回り、声掛けは常に行う。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価規準(評価方法)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>自分の技を仲間に教える際、自己や仲間の動きを(正確に)分析して、良い点や修正点を他者に(わかりやすく)伝えている。</p> <p>※ ()はA基準</p> <p>[観察・ワークシート]</p> <p><B基準に達しない生徒への手立て></p> <p>その生徒が気づいていないポイントを見つけ、個別指導や前向きな声掛けをする</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを使い、効果的に振り返りをさせる。 ○ワークシートの振り返りと記入方法について再度確認する。 ○次時の学習計画を確認し、見通しをもたせる

	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の連絡 ・来週までの課題を提示 (自分が本時で学んだことを次の時間 どのように教えるのかを考えてくる) 	
	⑩ 挨拶、解散	

(グループ分け)

○1・5組

〔グループ①〕

20502・20519・20521・20102

〔グループ②〕

20515・20517・20524・20103・20509

〔グループ③〕

20105・20108・20513・20512・20109

〔グループ④〕

20501・20506・20520・20510

○2・10組

〔グループ①〕

20202・21011・21030・20203・20210

〔グループ②〕

20201・20205・21009・21021・20208

〔グループ③〕

21020・21010・21024・21028・21022

〔グループ④〕

21001・21008・21025・21027

○3・6組

〔グループ①〕

20611・20614・20621・20306

〔グループ②〕

20601・20623・20303・20615

〔グループ③〕

20302・20307・20608・20618

〔グループ④〕

20301・20617・20622・20602

○4・7組

〔グループ①〕

20407・20708・20409・20403・20411

〔グループ②〕

20401・20717・20412・20415

〔グループ③〕

20710・20716・20707・20706

〔グループ④〕

20713・20711・20704・20714

○8・9組

〔グループ①〕

20802・20815・20909・20904・20913

〔グループ②〕

20805・20902・20817・20814・20906

〔グループ③〕

20903・20916・20813・20816・20807

〔グループ④〕

20809・20912・20914・20907

板書計画

**柔道
5時間目**

授業の進め方

時間	授業内容
①	オリエンテーション 投げ技の再確認
②	自分のグループの技の研究
③	教え合い活動①
④	教え合い活動②
⑤	教え合い活動③
⑥	教え合い活動④
⑦	動画作成 まとめ

グループ分け

グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
20501 ↓ 21006 ↓ 20520 ↓ 20510	20105 ↓ 20105 ↓ 20513 ↓ 20109	20515 ↓ 20517 ↓ 20524 ↓ 20103 ↓ 20509	20502 ↓ 20519 ↓ 20521 ↓ 20102

グループ分け

グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
21001 ↓ 21008 ↓ 21025 ↓ 21027	21020 ↓ 21010 ↓ 21024 ↓ 21028 ↓ 21022	20201 ↓ 20205 ↓ 21009 ↓ 21021 ↓ 20208	20202 ↓ 21011 ↓ 21030 ↓ 20203 ↓ 20210

グループ分け

グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
20301 ↓ 20617 ↓ 20622 ↓ 20602	20302 ↓ 20307 ↓ 20608 ↓ 20618	20601 ↓ 20623 ↓ 20303 ↓ 20615	20611 ↓ 20614 ↓ 20621 ↓ 20306

グループ分け

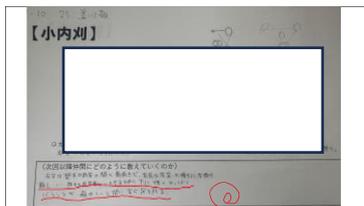
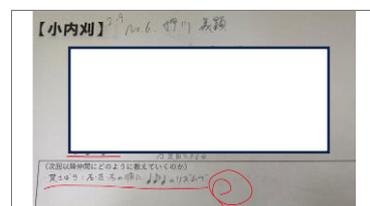
グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
20713 ↓ 20711 ↓ 20704 ↓ 20714	20710 ↓ 20716 ↓ 20707 ↓ 20706	20401 ↓ 20717 ↓ 20412 ↓ 20415	20407 ↓ 20708 ↓ 20409 ↓ 20403 ↓ 20411

グループ分け

グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
20809 ↓ 20912 ↓ 20914 ↓ 20907	20903 ↓ 20916 ↓ 20813 ↓ 20816 ↓ 20807	20805 ↓ 20902 ↓ 20817 ↓ 20814 ↓ 20906	20802 ↓ 20815 ↓ 20909 ↓ 20904 ↓ 20913

授業の流れ

- 自分の動画を撮る！ **【5分】**
- 技の教え合い！ **【1人10分×2】**
↓前半 ↑後半
- もう一度自分の動画を撮る！ **【5分】**
- 振り回り **【10分】**



投のポイント

- 体さばき
- くずし**
- タイミング**
- 勢い

授業の流れ

- YouTubeはできるだけ見ない！
- 教えるときは自分のワークシートを参考に！（コツ）
- 教えてもらうときはワークシートにしっかり記入する！
- 毎回の動画とワークシートは評価対象に！**

ワークシートの使い方

上の欄
教えてもらったこと、学んだことをできるだけ多く記入していく
くずし、体さばき、タイミング、技のかけ方

下の欄
上のメモから、次の時間他の人にもどのように教えていくのかを記入する
相手に分かりやすく、具体的に！

○良い例

1歩目で上にあげ、2歩目で(外)下に押し込む

×悪い例

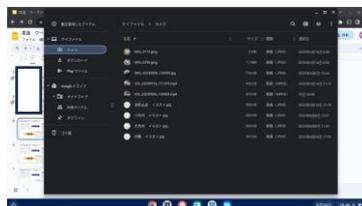
相手の肩を動かすときは、受けを後方に倒して、足で押し上げる時に重心を移動させる。タイミングは受けの重心が片側の足に乗る瞬間に合った方がいい。そのとき、後ろに押し込むように倒し、おまけをかける。

×悪い例

「シャツと上げて、サツと倒る」「おんないのタイミング」「センス」「こうやってこう...」
【正確な技、具体的な】

振り回り

- 柔道振り回りシートを記入する！
- ワークシートに動画を貼りつける！



6. 本時（全7時間中の第6時）

時間	学習内容・学習活動	教師の指導・支援
導入 10分	① 集合、整列、挨拶、出席確認 ② 準備運動、補強運動 ・腕立て伏せ ・バイシクルランチ ・ブリッジ ・首ブリッジ ③ 受け身 ・後ろ受け身、横受け身、前受け身 ④ 回転運動 ・前回り受け身 ⑤ 本時の説明	○本時のねらいを説明し、生徒が共通理解をもって取り組めるようにする。 ○けがのないように入念にウォームアップを行う。 ○正しく安全に行えるように個別指導する。 ○苦手な生徒に対して段階的にステップアップできるように指導していく。
展開 30分	<div data-bbox="363 909 1321 981" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> 自分の技を教え合い、4つの技を総復習しよう！ </div> ⑥ ポイントの確認 ⑦ グループ学習（ジグゾー法） ・4～5人×4組（技混合）	○前回の復習も兼ねて、各自で前時のワークシートの復習をしてポイントを確認し、新しいメンバーにどのように教えるかを考える。 ○次時の説明をしながら、次回までの見通しを立て、本時で意識すべきポイントを再確認する。 ○前時までのグループを基に、技混合の新たなグループを作成し、ジグゾー学習を行う。 ○前回の授業のワークシートを見直し、自分のグループの技のポイントと自分がどのようなことを意識して練習していたかを再確認し、本時のグループ学習に活かせるようにする。 ○ジグゾー学習が活性化するように、何からしていいかわからず行き詰まり、活動時間が減ることがないように見回り、声掛けを行う。 ○教え合うときに、抽象的に教えるのではなく、ポイントや自分の動きを言語化

	<ul style="list-style-type: none"> ・技の教え合い（1人5分×2） もう既に学んでいる相手に対してではあるが、前時で学んだ技のポイント（くずし・体さばき・タイミング）を意識しながらアウトプットを行う。 <li style="text-align: center;">↓ ・ワークシートの復習（5分） ・4つの技の総復習（10分） <li style="text-align: center;">↓ ・1番得意な技動画を撮る（5分） 今まで学んできた4つの技の中から1番得意な技を選択し、その中で今までで1番の動画を撮る。 	<p>して的確に伝えられるようにする。</p> <p>○4つの技の総復習をする際は、前時までのワークシートを活用しながら練習し、自分の1番得意な技を決める。</p> <p>○chrome bookでYouTubeを見て、手本を参考にすることも良いが、基本的には前時で使用した自分のワークシートを活用して、技のポイントやコツを再確認する。</p> <p>○前時までと同様にくずしと体さばき、タイミングがポイントであると生徒が自ら気づくことができるような声かけ、指導をする。</p> <p>○最後は、今まで学んできた4つの技の中で1番得意な技の動画を撮る。</p> <p>○4つの技を一気に扱うため、より安全に配慮し、全体の見回り、声掛けは常に行う。</p>
	<p>評価規準（評価方法）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>自分の技を仲間に教える際、自己や仲間の動きを（正確に）分析して、良い点や修正点を他者に（わかりやすく）伝えている。</p> <p>※（）はA基準</p> <p>〔観察・ワークシート〕</p> <p><B基準に達しない生徒への手立て></p> <p>その生徒が気づいていないポイントを見つけ、個別指導や前向きな声掛けをする。</p>	
<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 整理運動 ⑨ 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。 ・得意技のポイントの確認 ・ワークシートへの記録 ・Google Formへの記入 ・次時の連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを使い、効果的に振り返りをさせる。 ○今までのワークシートを全て回収する。 ○次時の学習計画を確認し、見通しをもたせる。

	<p>・来週までの課題を提示 (今まで学んだ4つの技のポイントを 復習し、次の時間どのように解説動画 をとるか考えてくる)</p> <p>⑩ 挨拶、解散</p>	
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------	--

(グループ分け)

○1・5組

〔グループ①〕

20502・20102・20521・20519

〔グループ②〕

20515・20103・20509・20524・20517

〔グループ③〕

20105・20108・20109・20512・20513

〔グループ④〕

20501・20510・20520・20506

○2・10組

〔グループ①〕

20202・20210・20203・21011・21030

〔グループ②〕

20201・20208・21009・21021・20205

〔グループ③〕

21020・21028・21022・21024・21010

〔グループ④〕

21001・21027・21025・21008

○3・6組

〔グループ①〕

20611・20306・20621・20614

〔グループ②〕

20601・20615・20303・20623

〔グループ③〕

20302・20618・20608・20307

〔グループ④〕

20301・20602・20622・20617

○4・7組

〔グループ①〕

20407・20708・20411・20403・20409

〔グループ②〕

20401・20415・20412・20717

〔グループ③〕

20710・20706・20707・20716

〔グループ④〕

20713・20714・20704・20711

○8・9組

〔グループ①〕

20802・20904・20913・20909・20815

〔グループ②〕

20805・20906・20817・20814・20902

〔グループ③〕

20903・20916・20807・20816・20813

〔グループ④〕

20809・20907・20914・20912

板書計画

**柔道
6時間目**

授業の進め方

時間	授業内容
①	オリエンテーション 投げ技の再確認
②	自分のグループの技の研究
③	教え合い活動①
④	教え合い活動②
⑤	教え合い活動③
⑥	教え合い活動④
⑦	動画作成 まとめ

グループ分け

グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
A 20501 ↓ D 20510	20105 ↓ 20105 ↓ 20109	20515 ↓ 20103 ↓ 20509	20502 ↓ 20102 ↓ 20521 ↓ 20519
C 20520 ↓ B 20506	20512 ↓ 20513	20524 ↓ 20517	

グループ分け

グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
A 21001 ↓ D 21027	21020 ↓ 21028 ↓ 21022	20201 ↓ 20208 ↓ 21009	20202 ↓ 20210 ↓ 20203 ↓ 21011 ↓ 21030
C 21025 ↓ B 21008	21024 ↓ 21010	21021 ↓ 20205	

グループ分け

グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
A 20301 ↓ D 20602	20302 ↓ 20618	20601 ↓ 20615	20611 ↓ 20306
C 20622 ↓ B 20617	20608 ↓ 20307	20303 ↓ 20623	20621 ↓ 20614

グループ分け

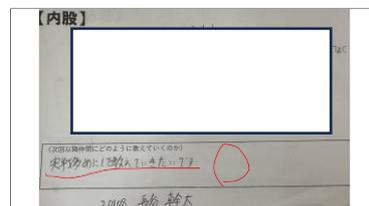
グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
A 20713 ↓ D 20714	20710 ↓ 20706	20401 ↓ 20415	20407 ↓ 20708 ↓ 20411
C 20704 ↓ B 20711	20707 ↓ 20716	20412 ↓ 20717	20403 ↓ 20409

グループ分け

グループ④	グループ③	グループ②	グループ①
A 20809 ↓ D 20907	20903 ↓ 20916 ↓ 20807	20805 ↓ 20906 ↓ 20817	20802 ↓ 20904 ↓ 20913 ↓ 20909
C 20914 ↓ B 20912	20816 ↓ 20813	20814 ↓ 20902	20815

授業の流れ

- ・前回の技の教え合い! (1人4分×2)
↓ 前半 ↑ 後半
- ・4つの技の総復習 (10分)
- ・1番得意な技の動画を撮る! (5分)
- ・振り廻り (10分)



投のポイント

- ・体さばき
- ・くずし
- ・タイミング
- ・勢い

授業の流れ

- ・YouTubeはできるだけ見ない!
- ・教えるときは自分のワークシートを参考に!(コソ)
- ・教えてもらうときはワークシートにしっかり記入する!
- ・毎回の動画とワークシートは評価対象に!

ワークシートの使い方

上の欄
教えてもらったこと、学んだことをできるだけ多く記入していく
くずし、体さばき、タイミング、技のかけ方!

下の欄
上のメモから、次の時間他の人にどのように教えていくのかを記入する
相手に分かりやすく、具体的に!

○ 良い例

1歩目で上にあげ、2歩目で(外)下に押し込む

受けの 受け手を握るように、押し付けている に乗る瞬間に

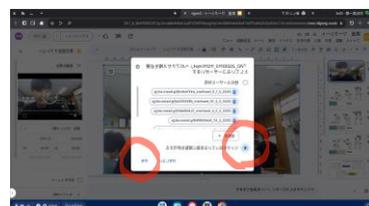
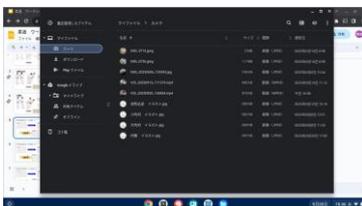
(この動作をできるように覚えていくのが)
相手の手を握るときは、受け手を握りに慣れて、足で押し広げる際に重心を移動させる。
タイミングは受けの重心が前足の足に乗る瞬間に対した方がいい。
そのとき、後ろに押し込むようにしたら技をかけやすい。

× 悪い例

(この動作は仲間の人にどのように教えるのか)
・シュッと上げて、サッと切る ・ないないのタイミング ・センス ・こうやってこう...
伝達目的、実演目的

振り廻り

- ・柔道振り廻りシートを記入する!
- ・ワークシートに動画を貼りつける!



6. 本時（全7時間中の第7時）

時間	学習内容・学習活動	教師の指導・支援
導入 10分	① 集合、整列、挨拶、出席確認 ② 準備運動、補強運動 ・腕立て伏せ ・バイシクルクラッチ ・ブリッジ ・首ブリッジ ③ 受け身 ・後ろ受け身、横受け身、前受け身 ④ 回転運動 ・前回り受け身 ⑤ 本時の説明	○本時のねらいを説明し、生徒が共通理解をもって取り組めるようにする。 ○けがのないように入念にウォームアップを行う。 ○正しく安全に行えるように個別指導する。 ○苦手な生徒に対して段階的にステップアップできるように指導していく。
展開 30分	<div data-bbox="368 909 1318 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 4つの投げ技の自分オリジナルの解説動画を作ろう！ </div> ⑥ ポイントの確認 ⑦ グループ学習（ジグゾー法） ・4～5人×4組（技混合） ・4つの技の総復習（10分） 今まで学んできた4つの技のポイント（くずし・体さばき・タイミング）を意識しながら最終確認を行う。	○各自で前時までのワークシートを見ながら、今までの4つの技のポイントを確認し、今日の解説動画でどのように伝えていくか考えをまとめる。 ○2時間目と同じグループに戻り、グループ学習を行う。 ○4つの技の総復習をする際は、前時までのワークシートを振り返りながら技を練習する。YouTubeを見て手本を参考にすることはなるべく控える。 ○くずしと体さばき、タイミングがポイントであると生徒が自ら気づくことができるような声かけ、指導をする。 場合によっては、一旦全員集合させ、事前に全体に指導することもある。 ○前時までのワークシートを振り返りながら、chrome book を使って1人4つの解説動画を撮る。 ○解説動画は1つの技につき1分以内の動画とし、動画の最後には実際に投げる動画を入れる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解説動画の取り方説明 ・ 4つの技の解説動画を撮る (20分) <p>【解説動画の取り方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画時間は1つの技につき1分以内 ・ 必ず1人4つの技の解説動画を撮る ・ 解説動画の中に自分が大事だと考えている技のポイントを最低3つ以上は入れる ・ 動画の最後に自分が実際に投げている動画を入れる 	<p>○解説動画は人の表現を真似するのではなく、自分が今まで学んできたことや、自分なりの言葉や表現を工夫して、自分オリジナルの動画を作る。</p> <p>また、抽象的にではなく、ポイントや自分の動きを言語化して分かりやすく伝えられるようにする。</p> <p>○今までの学習のまとめとして解説動画を作成し、成果を形として残すことで、全員に自己有能感を感じられるようにする。</p> <p>○1つの解説動画作成時間が長くなりすぎて、時間内に終わらないことがないように注意し、活動の様子を見ながら声かけ等をする。</p> <p>○解説動画作成の際、ふざけ合って怪我することがないように、より安全に配慮し、全体の見回り、声掛けは常に行う。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>評価規準（評価方法）</p> <p>【知識・技能】</p> <p>取は学習した4つの技のポイントを（十分に）理解し、（正確に）実践できている。受は（安全に）受け身を取ることができる。</p> <p>※（ ）はA基準</p> <p>[観察]</p> <p><B基準に達しない生徒への手立て></p> <p>総復習の時間の際にできていないポイントを見つけ、個別指導や声掛けで具体的に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを使い、効果的に振り返りをさせる。 ○今までのワークシートを全て回収する。 ○次時の学習計画を確認し、見通しをもたせる。

	<p>・来週までの課題を提示 (今まで学んだ4つの技をどのように 連絡、変化していくのかを考える。)</p> <p>⑩ 挨拶、解散</p>	
--	-------------------------------------------------------------------------------	--

(グループ分け)

○1・5組

〔A グループ〕

20502・20515・20105・20108・20501

〔B グループ〕

20519・20517・20513・20506

〔C グループ〕

20521・20524・20512・20520

〔D グループ〕

20102・20103・20509・20109・20510

○2・10組

〔A グループ〕

20202・20201・21020・21001

〔B グループ〕

21011・21030・20205・21010・21008

〔C グループ〕

20203・21009・21021・21024・21025

〔D グループ〕

20210・20208・21028・21022・21027

○3・6組

〔A グループ〕

20611・20601・20302・20301

〔B グループ〕

20614・20623・20307・20617

〔C グループ〕

20621・20303・20608・20622

〔D グループ〕

20306・20615・20618・20602

○4・7組

〔A グループ〕

20407・20401・20710・20713

〔B グループ〕

20409・20717・20716・20711

〔C グループ〕

20403・20412・20707・20704

〔D グループ〕

20411・20415・20706・20714

○8・9組

〔A グループ〕

20803・20805・20903・20916・20809

〔B グループ〕

20815・20902・20813・20912

〔C グループ〕

20909・20817・20814・20816・20914

〔D グループ〕

20904・20913・20906・20807・20907

板書計画

**柔道
6時間目**

授業の進め方

時間	授業内容
①	オリエンテーション 投げ技の再確認
②	自分のグループの技の研究
③	教え合い活動①
④	教え合い活動②
⑤	教え合い活動③
⑥	教え合い活動④
⑦	動画作成 まとめ

グループ分け

A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20502	20519	20521	20102
20515	20517	20524	20103
20105			20509
20108	20513	20512	20109
20501	20506	20520	20510

グループ分け

A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20202	21011	20203	20210
20201	21030	21009	20208
	20205	21021	21028
21020	21010	21024	21022
21001	21008	21025	21027

グループ分け

A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20611	20614	20621	20306
20601	20623	20303	20615
20302	20307	20608	20618
20301	20617	20622	20602

グループ分け

A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20407	20409	20403	20411
20401	20717	20412	20415
20710			20706
20713	20716	20707	
20708	20711	20704	20714

グループ分け

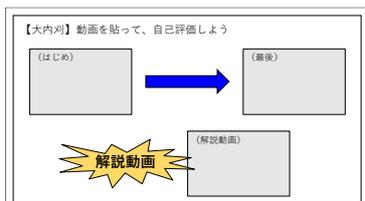
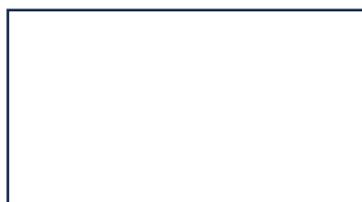
A大内列	B内股	C小内列	D支釣込足
20802	20815	20909	20904
20805	20902	20817	20913
20903	20813	20814	20906
20916	20812	20816	20807
20809		20914	20907

- 授業の流れ**
- ・4つの技の総復習 **(10分)**
 - ・解説動画の取り方説明
 - ・4つの技の解説動画を撮る！ **(15分)**
 - ・振り回り **(10分)**

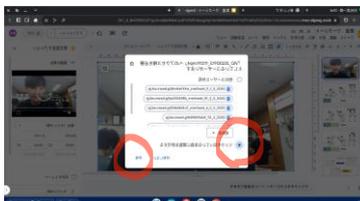
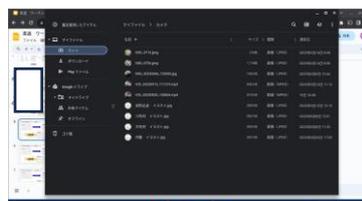
- 解説動画の取り方**
- ・動画時間は1つの技につき**1分以内!**
 - ・必ず1人**4つの技**の解説動画を撮る!
 - ・解説動画の中に自分が大事だと考えている技のポイントを**最低3つ以上**を入れる
 - ・動画の最後に**自分が実際に投じている動画**を入れる

- 評価のポイント**
- ・投のポイントを理解し、**分かりやすく**説明しているかどうか
※オリジナルリティー◎
 - ・投げのポイントを実践できているか
 - ・過去の動画からの**変化・成長**

- 投のポイント**
- ・体さばき
 - ・**くずし**
 - ・**タイミング**
 - ・勢い



- 振り回り**
- ・柔道振り回りシートを記入する!
 - ・ワークシートに動画を貼りつける!



第3章 結果と考察

3.1 検証授業の実際（総括的授業評価）

3.1.1 検証授業の実際

今回、「表現力を養う体育授業のあり方に関する研究」という研究主題のもと、K 県立 S 高等学校で検証授業をさせていただいた。本単元では、生徒の表現力の向上、またそれに伴う技能の向上を目的とし、ジグゾー法の視点を取り入れたグループ学習、ペア学習を展開した。本単元の構成意図として、生徒が主体的に柔道に取り組み、常に誰かと対話できるように毎時間グループ学習、ペア学習を展開した。しかし、ただ単にグループを展開し、課題も明確でなければ、生徒は主体的に行動せず、対話も生まれない。そのため、依然学んだ技の精度を上げて試合ができるようになるといった目標を掲げ、更に取り扱う技を既習技のうち苦手の4つ（大内刈・小内刈・支釣込足・内股）とした。また、一人一人が責任を待って取り組めるように、ジグゾー法の視点を取り入れたグループ学習、ペア学習を展開し、教え合い活動を行った。こうすることで、柔道が苦手な生徒でも、自分の持ち技を他者に教えて、他者の技能の向上に貢献することができる。そして教え合い活動により、4つの技のインプットとアウトプットができ、表現力と技能を共に高めることができる。実際に7時間の検証授業を行い、大方予定していた学習指導案通りに進めることができた。柔道によるけがや事故が起こらないよう、生徒の安全に配慮しながら授業を行い、予定通り生徒主体の授業が展開できた。しかし、3つ予定と違うことがあったため、それを報告する。

1つ目は、生徒の欠席したときの対応である。今回の検証授業では、毎時間ジグゾー法の視点を取り入れたグループ学習、ペア学習を展開していた。そのため、グループ、ペアの組み合わせは複雑であり、毎時間一人一人のペアとグループを決め、それ通りに行ってもらった必要があった。しかし、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行により毎時間の欠席者が想定していた数より多く、グループ、ペアの組み合わせを急遽変更することが多々あった。当初は、教え合い活動の際は基本1対1で行う予定だったが、欠席者がいた場合には、それに応じて2対1での教え合い活動もあった。しかし、2対1の教え合い活動も1対1と同様に非常に活動的に行われていた。予定では、2対1の教え合い活動だと2人側の方が、他人任せな考えになり、1対1と比べて責任感が落ち有効ではないと考えていた。しかし、2対1の教え合い活動では、1人が教えてもらう間にもう1人がメモをしたり、1人が実演する間にもう1人が動画を撮影したりするなど、2人で役割分担をしながら活動を進めていた。そのため、欠席したときの対応や2対1の教え合い活動は想定外であったが、非常に効果的であったと考える。

2つ目は、活動時間の時間配分である。今回の検証授業では、毎時間ジグゾー法の視点を取り入れたグループ学習、ペア学習を展開していたため、学習活動時間を細かく設定していた。当初は、3時間目～5時間目の教え合い活動の時間は1人10分、ペアで20分と設定していた。しかし、3時間目のとき、多くの生徒は持ち時間が長そうにしている様子であった。また、全体的に見ても時間ギリギリであったことや、既習技の教え合い活動であること

から、4,5時間目は教え合い活動の時間を1人8分、ペアで16分とした。その結果、生徒は1人の持ち時間が短くなったことで、短い時間で学んだことを確実に教えようと活動が活発的になった。また、その削った時間を授業最後の動画撮影時間にまわすことで、生徒は動画を撮りなおすことができるようになり、納得いく動画を作りやすくなった。

3つ目は、ワークシートへの記入についてである。今回の検証授業では、毎時間ワークシート（紙、chrome book）を活用した。紙のワークシートには上にメモ欄、下に次回どのように教えるか記述する欄を設けている。当初、上の欄は授業中に記述し、下の欄は課題として授業後に各自記述するようにしていた。しかし、教え合い活動中に下の課題の欄も記述している生徒が数名見受けられ、技の研究や教え合いの活動に集中できていない様子であった。また、普段の他教科からの課題も非常に多く生徒の負担が大きくなることや、課題を後回しにしたり忘れていたりした際に授業の効果が薄れてしまうことから、授業の最後のまとめの時間に行うこととした。その結果、授業の最後に下の欄を書けるといった安心感からか、集中して教え合い活動に取り組む様子が伺え、良かったと考える。

以上の3点が予定していた学習指導案とは違い、変更したポイントである。しかし、上記にも示した通り、大方予定していた学習指導案通りに検証授業を進めることができた。

3.1.2 診断的・総括的授業評価の結果と考察

診断的授業評価と総括的授業評価の分析結果は表 3-1 の通りである。たのしむ（情意目標）、できる（運動目標）、まなぶ（認識目標）、まもる（社会的行動目標）、合計得点に分類し、単元前と単元後で比較した。「たのしむ」は0.7点の有意な向上 $\{t(79)=-4.47\}$ 、「できる」は1.13点の有意な向上 $\{t(79)=-5.39\}$ 、「まなぶ」は1.18点の有意な向上 $\{t(79)=-6.65\}$ 、「まもる」は0.18点の向上 $\{t(79)=-1.47\}$ 、「合計得点」は3.19点の有意な向上 $\{t(79)=-7.92\}$ が見られた。全体的に向上し、「たのしむ（情意目標）」、「できる（運動目標）」、「まなぶ（認識目標）」、「まもる（社会的行動目標）」はそれぞれ有効な結果が得られた。これは、毎時間の授業で、取り扱う技、ペアの組み合わせを変えていったことや、柔道が苦手な生徒でも、自分が学んだものを、まだ学んでいない人に教えることで、自己有能感を感じることができ、学習意欲の向上につながったと考えられる。また、毎時間ペア、グループ学習を展開し、常にけがや事故がないように安全に注意するよう指導していたため、最初から評価が高かった社会的行動目標を最後まで維持することができた。

表 3-1 診断的授業評価と総括的授業評価の分析結果

項目名	単元前		単元後		t値
	平均得点	SD	平均得点	SD	
Q7 仲良くなるチャンス	2.84	0.43	2.89	0.36	-1.27
Q11 心理的充実	2.68	0.57	2.89	0.36	-3.49*
Q12 明るい雰囲気	2.64	0.60	2.88	0.37	-3.67*
Q13 楽しく勉強	2.79	0.47	2.85	0.45	-1.00
Q17 精一杯の運動	2.83	0.44	2.96	0.19	-2.78*
たのしむ (情意目標)	13.76	1.68	14.46	1.16	-4.47*
Q1 できる自信	2.40	0.69	2.65	0.62	-3.36*
Q3 積極的発言	2.28	0.59	2.48	0.62	-2.38*
Q4 自発的運動	2.60	0.61	2.86	0.35	-3.61*
Q16 運動の有能感	2.24	0.78	2.45	0.71	-2.69*
Q19 挑戦意欲	2.56	0.61	2.78	0.50	-3.23*
できる (運動目標)	12.08	2.03	13.21	1.96	-5.39*
Q8 工夫して勉強	2.61	0.61	2.83	0.41	-3.02*
Q10 新しい発見	2.83	0.41	2.90	0.30	-1.75
Q14 俊敏性	2.53	0.64	2.78	0.53	-3.36*
Q15 めあてを持つ	2.24	0.77	2.65	0.55	-5.36*
Q18 知識を生かす	2.55	0.63	2.78	0.50	-3.27*
まなぶ (認識目標)	12.75	1.93	13.93	1.66	-6.65*
Q2 ルールを守る	2.96	0.19	2.95	0.22	0.44
Q5 勝負を認める	2.86	0.44	2.90	0.34	-0.77
Q6 勝つための手段	2.75	0.58	2.83	0.47	-1.14
Q9 自分勝手	2.90	0.30	2.94	0.24	-1.14
Q20 約束ごとを守る	2.93	0.27	2.96	0.19	-1.14
まもる (社会的行動目標)	14.40	1.15	14.58	0.95	-1.47
合計得点	52.99	4.81	56.18	4.47	-7.92*

(*p<.05)

その他にも、独自で質問を作成し、単元終了後に総括的授業評価と合わせてアンケート調査を行った。質問調査の内容は表 3-2 の通りである

表 3-2 質問調査の内容

質問	内容
1	柔道は好きですか。
2	自分の投げ技の技能についてどのように考えているか。
3	自分の得意技（2つ）は何か。
4	7回の授業を終えて、自分の考えを表現する力は向上したと思う。
5	7回の授業を終えて、自分の投げ技（大内刈、小内刈、支釣込足、内股）は向上したと思う。
6	技能を高めていく上で自分の考えを相手に伝えることは必要だと思う。
7	インプット・アウトプットを繰り返し、自分の表現力を高めていくことで、技能が向上したと思う。
8	ワークシート（紙）は技能向上に役立ちましたか。
9	ワークシート（chrome book）は技能向上に役立ちましたか。

質問1「柔道は好きですか。」は単元前と単元後で、図 3-1 のように変化している。単元後には、「はい」と回答した人が 50%を超えており、「いいえ」「どちらでもない」と回答した人の数が減少した。この結果から、今回の検証授業を通して、柔道に対して良いイメージをもつ生徒が増え、生徒の学習意欲を向上させることができたといえる。

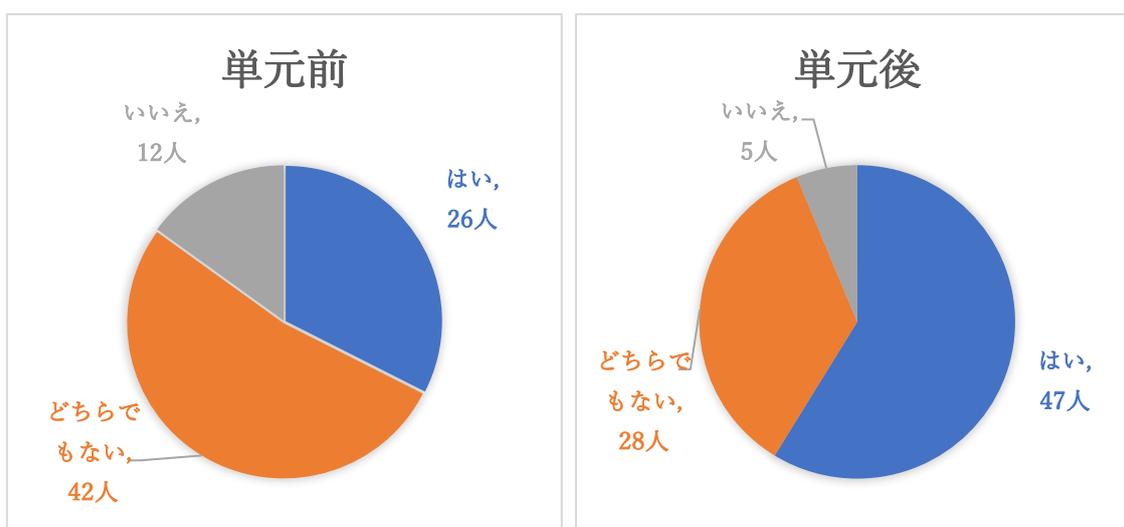


図 3-1 質問 1 の結果

質問 2「自分の投げ技の技能についてどのように考えているか。」は単元前と単元後で、図 3-2 のように変化している。単元後には、「技のやり方も分かって、上手くできる」と回答した人が非常に増えており、「技のやり方が分からなく、できない」と回答した人の数が 0 人になった。この結果から、今回の検証授業を通して、やり方について理解できたや、技能を高めることができたと感じた生徒が増え、生徒自身が自分の成長を感じることできた授業であったことが伺える。

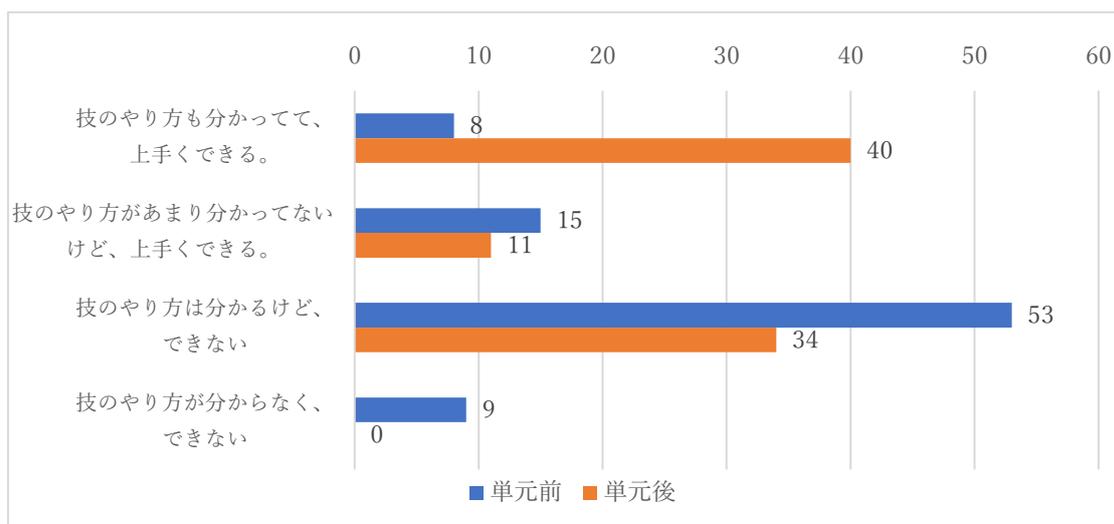


図 3-2 質問 2 の結果

質問 3「自分の得意技（2つ）は何か。」は単元前と単元後で、図 3-3 のように変化している。単元前と単元後を比較すると、「支釣込足」「大内刈」「小内刈」「内股」が得意技であると回答した人の数が増えている。これは、本単元では、得意ではないとされていた支釣込足、大内刈、小内刈、内股の 4 つの技しか取り扱わなかったため、このような結果がでたと考えられる。しかし、生徒の授業に取り組む姿や、生徒の成長の様子から考えると、単にそうとは言えず、今回の検証授業を通して支釣込足、大内刈、小内刈、内股の 4 つの技の技能を高め、他の技よりも得意であると感じることができたと考えられる。

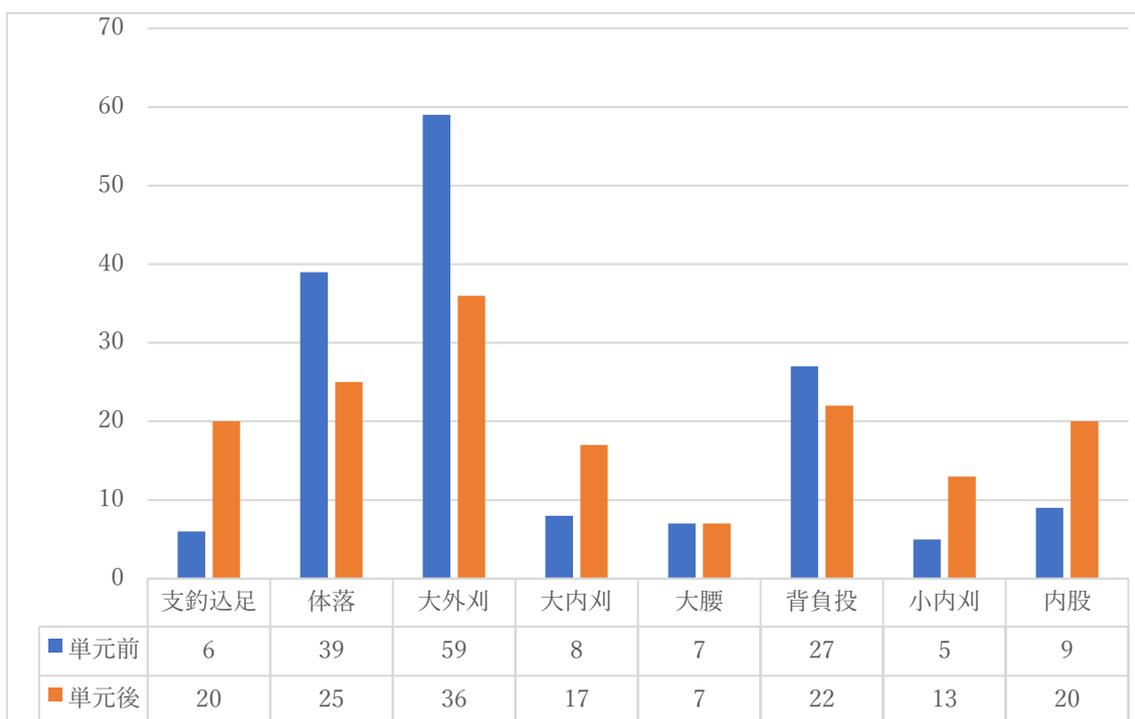


図 3-3 質問 3 の結果

質問 4「7回の授業を終えて、自分の考えを表現する力は向上したと思う。」の単元後の結果は図 3-4 の通りである。この結果から、ジグゾー法の視点を用いたグループ活動を通して、生徒自身が自分の表現力における成長を感じることでできた授業であったことが伺える。

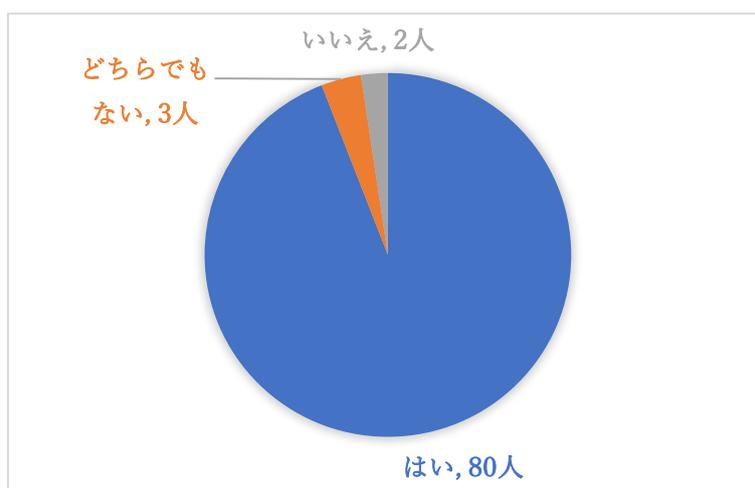


図 3-4 質問 4 の結果

質問5「7回の授業を終えて、自分の投げ技（大内刈、小内刈、支釣込足、内股）は向上したと思う。」の単元後の結果は図3-5の通りである。この結果から、ジグゾー法の視点を
用いたグループ活動を通して、生徒自身が自分の技能における成長を感じることでできた
授業であったことが伺える。

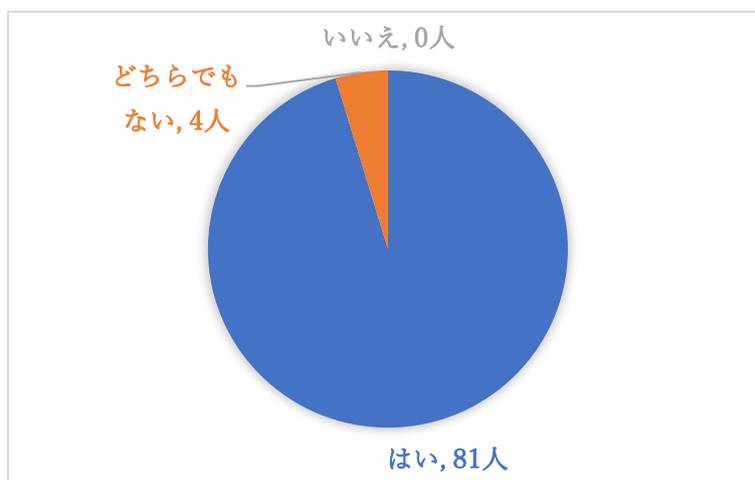


図 3-5 質問 5 の結果

質問6「技能を高めていく上で自分の考えを相手に伝えることは必要だと思う。」の単元
後の結果は図3-6、質問7「インプット・アウトプットを繰り返し、自分の表現力を高めて
いくことで、技能が向上したと思う。」の単元後の結果は図3-7の通りである。この結果か
ら、今回の検証授業を通して、技能を高めるには、対話を通してインプットとアウトプット
を繰り返し、自分の中の知識や情報を整理することが大事であると、生徒自身が感じるこ
とのできた授業であったことが伺える。

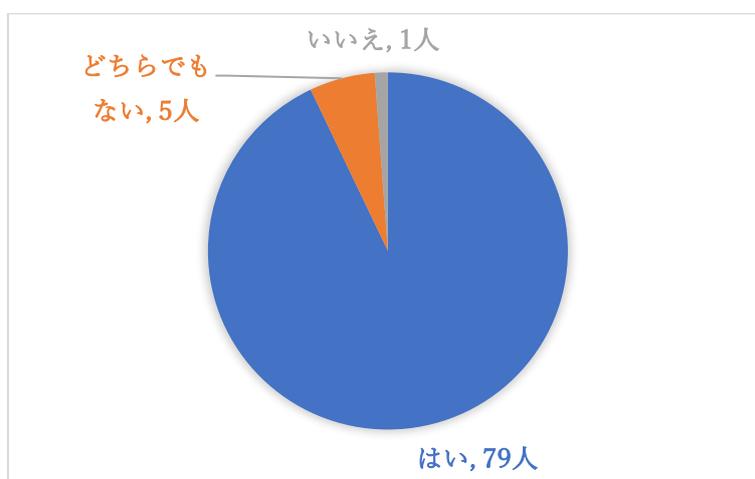


図 3-6 質問 6 の結果

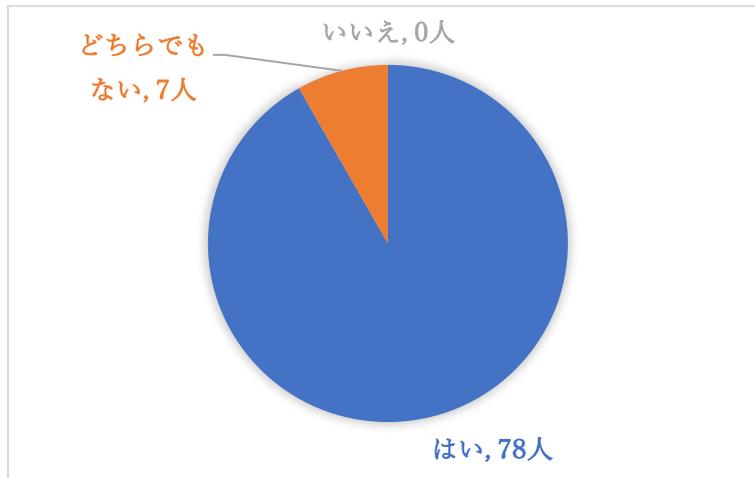


図 3-7 質問 7 の結果

質問 8「ワークシート（紙）は技能向上に役立ちましたか。」の単元後の結果は図 3-8、質問 9「ワークシート（chrome book）は技能向上に役立ちましたか。」の単元後の結果は図 3-9 の通りである。この結果から、技能を高めることにワークシートは有効であり、生徒自身もワークシートによって自分の成長を感じることができたことが伺える。

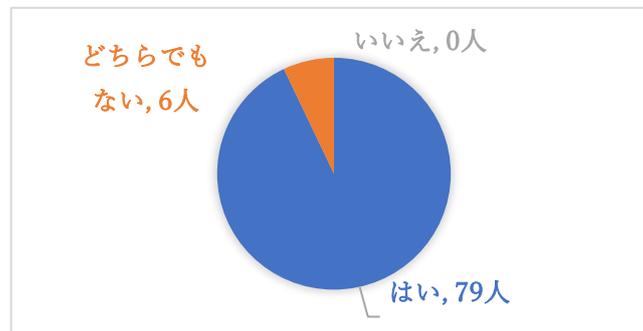


図 3-8 質問 8 の結果

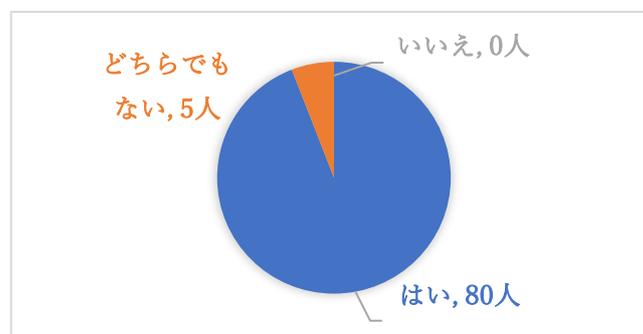


図 3-9 質問 9 の結果

3.2 「表現力」に関する結果と考察

3.2.1 投げ技ごとの表現力

3.2.1.1 大内刈

大内刈に係る総合的な表現力の分析結果は図 3-10 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、大内刈に係る総合的な表現力は 4.39 点の有意な向上が見られた $\{t(68)=-5.99\}$ 。

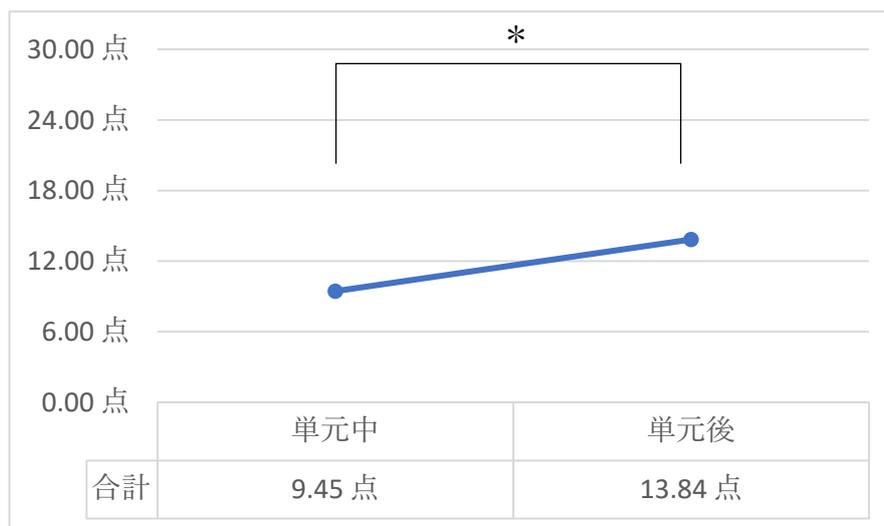


図 3-10 大内刈に係る総合的な表現力 (* $p < .05$)

大内刈のくずしに係る表現力の分析結果は図 3-11 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、大内刈のくずしに係る表現力は 1.1 点の有意な向上が見られた $\{t(68)=-3.72\}$ 。

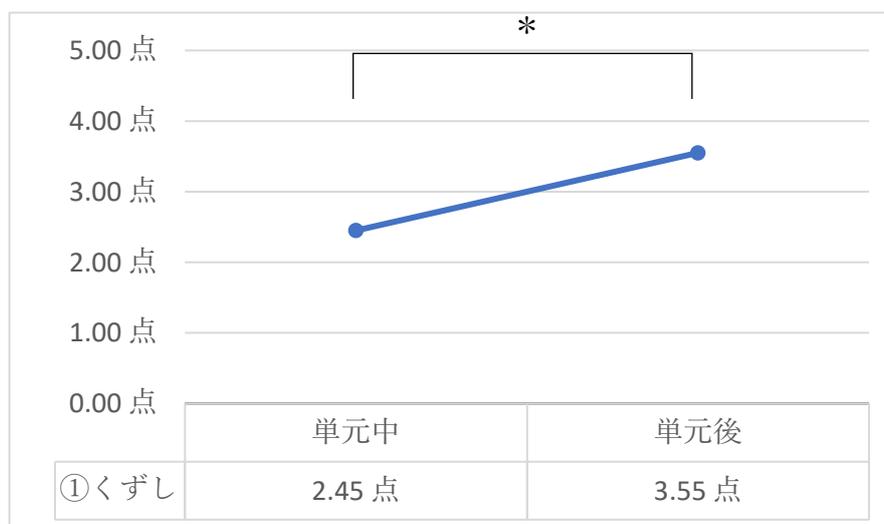


図 3-11 大内刈のくずしに係る表現力

大内刈の手さばきに係る表現力の分析結果は図 3-12 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、大内刈の手さばきに係る表現力は 1.23 点の有意な向上が見られた $\{t(68)=-4.79\}$ 。

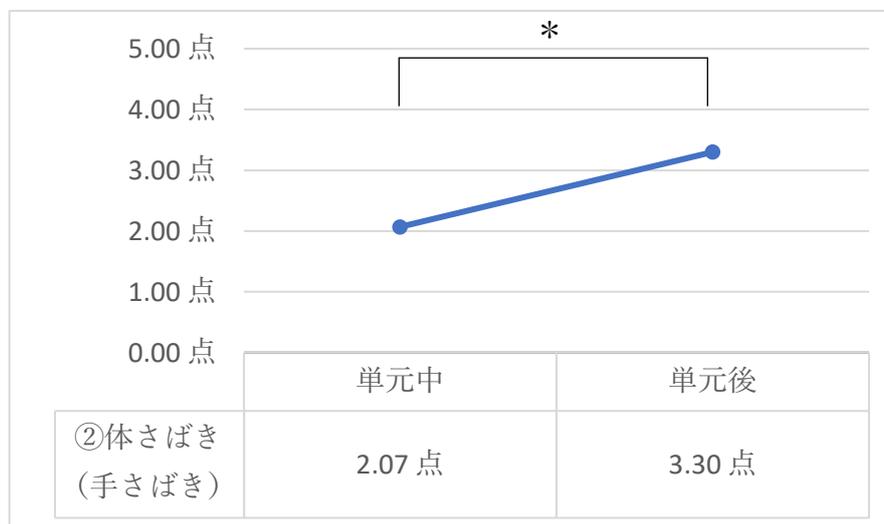


図 3-12 大内刈の手さばきに係る表現力 (* $p<.05$)

大内刈の足さばきに係る表現力の分析結果は図 3-13 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、大内刈の足さばきに係る表現力は 1.29 点の有意な向上が見られた $\{t(68)=-4.50\}$ 。

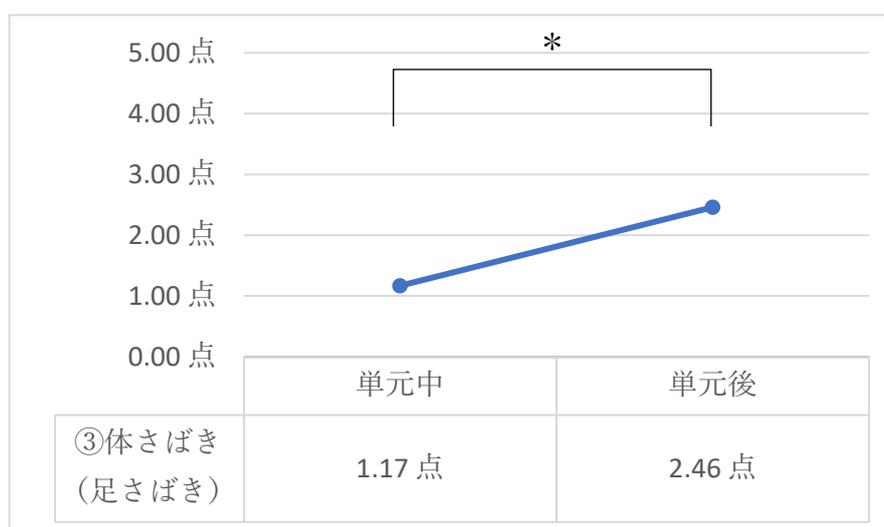


図 3-13 大内刈の足さばきに係る表現力 (* $p<.05$)

大内刈のタイミングに係る表現力の分析結果は図 3-14 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、大内刈のタイミングに係る表現力は 0.12 点の低下が見られた $\{t(68)=0.38\}$ 。

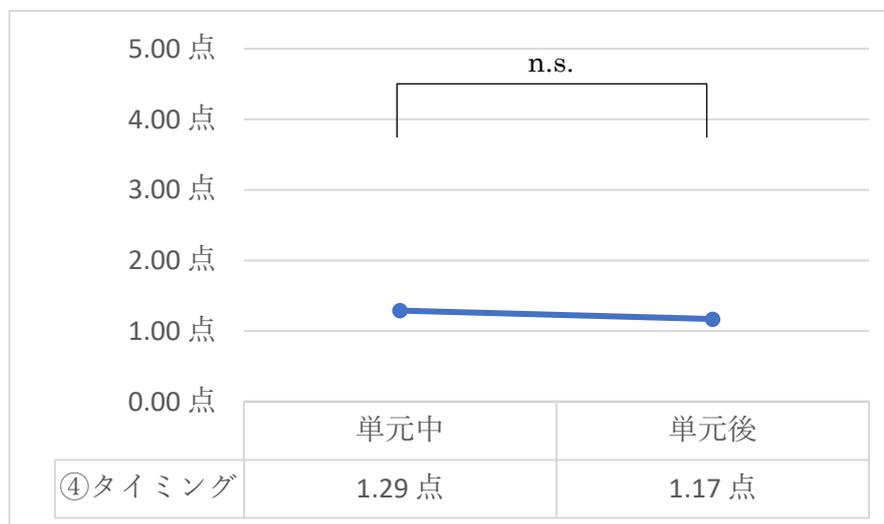


図 3-14 大内刈のタイミングに係る表現力 (* $p<.05$)

大内刈の技のかけ方に係る表現力の分析結果は図 3-15 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、大内刈の技のかけ方に係る表現力は 1.07 点の有意な向上が見られた $\{t(68)=-3.50\}$ 。

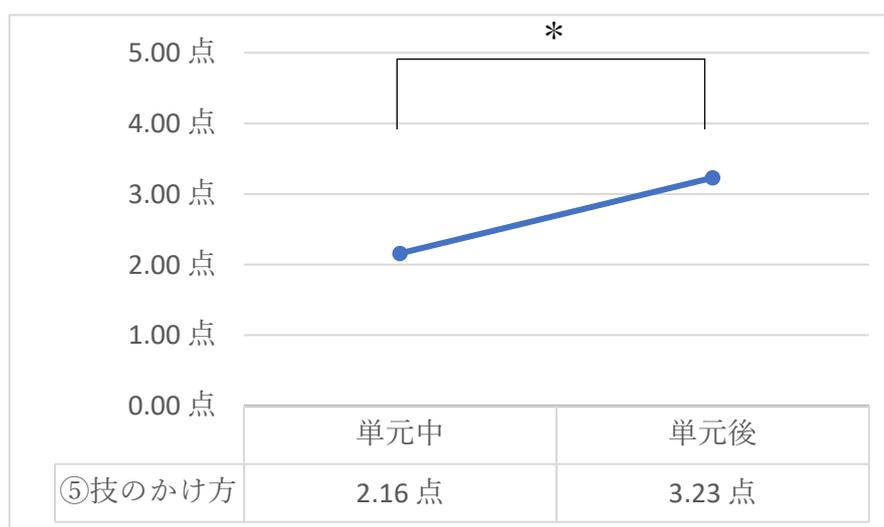


図 3-15 大内刈の技のかけ方に係る表現力 (* $p<.05$)

大内刈の出来栄に係る表現力の分析結果は図 3-16 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、大内刈の出来栄に係る表現力は 0.18 点の低下が見られた $\{t(68)=1.48\}$ 。

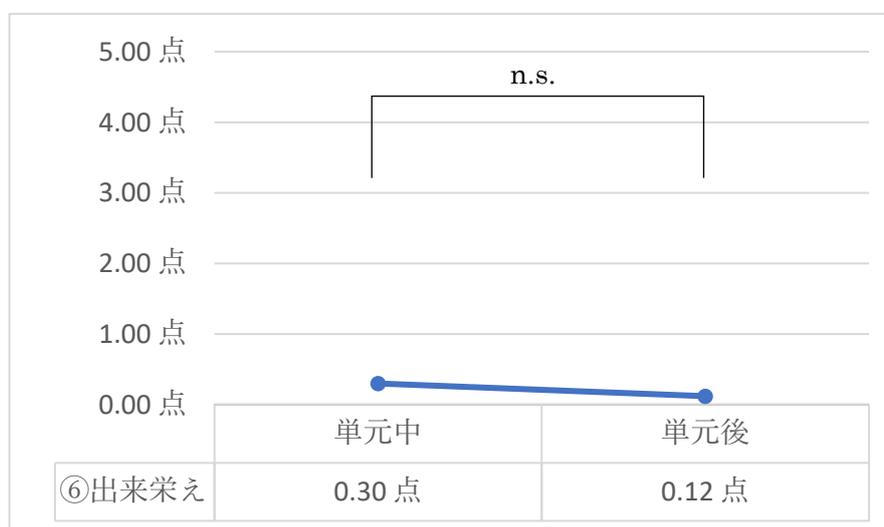


図 3-16 大内刈の出来栄に係る表現力 (* $p<.05$)

以上の結果から、大内刈に係る表現力は単元を通して有意に向上し、そのうち 6 項目中 4 項目が有意に向上した。大内刈は、まず基本の体さばきとくずしを意識することと、くずしは刈る足の方に相手の重心を持っていくことを強調して最初に指導した。そのため、体さばきとくずしの点数は単元中、他の項目と比べて高かった。また、授業の回数を重ねるにつれ、体さばきやくずしの説明がより具体的になっていったことが伺えた。教え合い活動の際には、大内刈の基本である体さばきとくずしを重点的に教えている様子が伺え、くずしや体さばきの向上につながったと考えられる。また、基本である体さばきとくずしができるようになってきたら、前に倒すように足を刈るという技のかけ方について教えている生徒も多く見られた。しかし、単元中、単元後どちらもタイミングと出来栄の点数が低かった。これは、活動時間が短かったことや解説動画の時間が 1 分以内だったことから、紙に書く時間や説明する時間が短く、タイミングや出来栄の説明が後回しになり、点数が低かったことが推測される。

3.2.1.2 小内刈

小内刈に係る総合的な表現力の分析結果は図 3-17 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、小内刈に係る総合的な表現力は 5.26 点の有意な向上が見られた $\{t(71)=-7.22\}$ 。

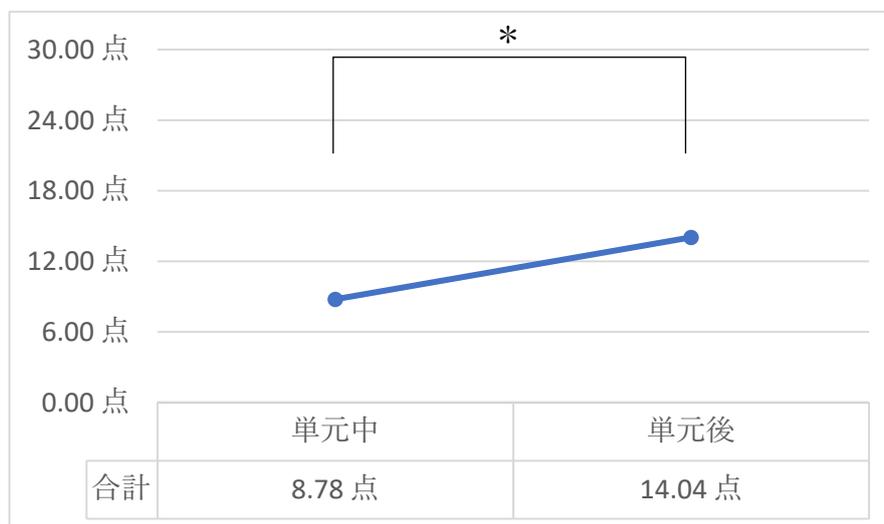


図 3-17 小内刈に係る総合的な表現力 (* $p<.05$)

小内刈のくずしに係る表現力の分析結果は図 3-18 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、小内刈のくずしに係る表現力は 1.57 点の有意な向上が見られた $\{t(71)=-5.66\}$ 。

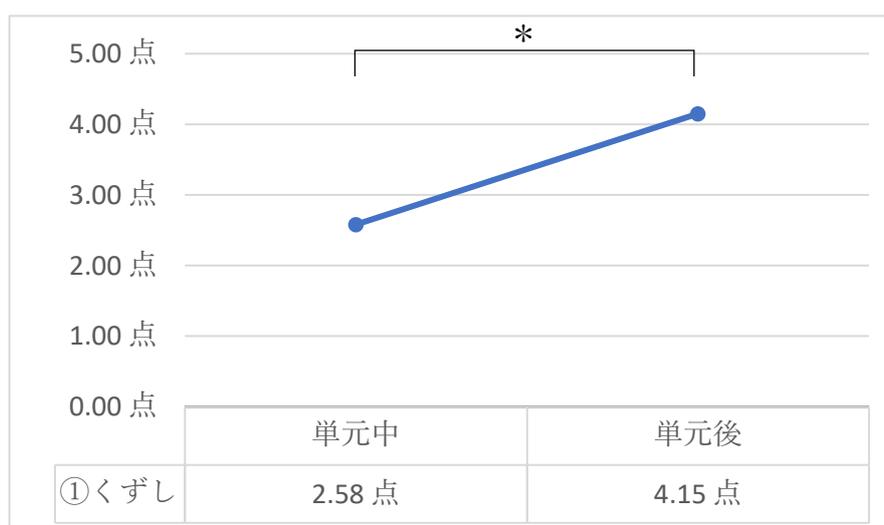


図 3-18 小内刈のくずしに係る表現力 (* $p<.05$)

小内刈の手さばきに係る表現力の分析結果は図 3-19 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、小内刈の手さばきに係る表現力は 1.04 点の有意な向上が見られた { $t(71)=-5.42$ }。

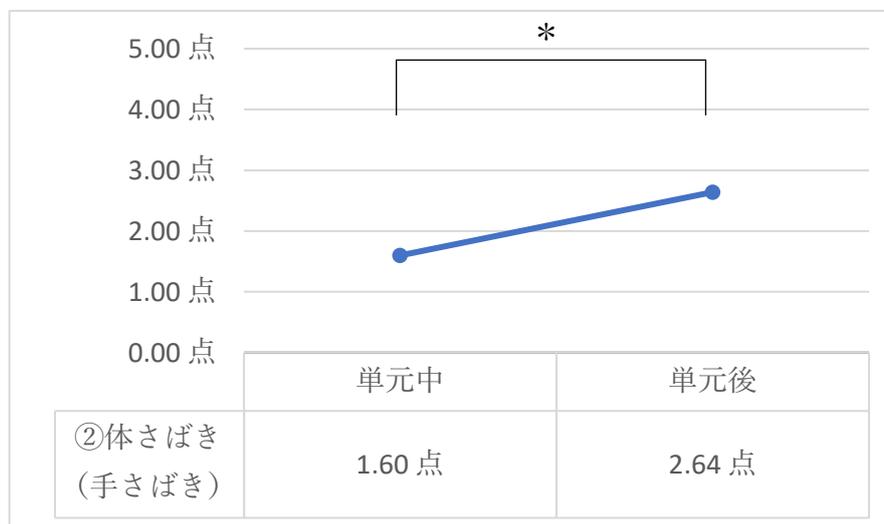


図 3-19 小内刈の手さばきに係る表現力 (* $p<.05$)

小内刈の足さばきに係る表現力の分析結果は図 3-20 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、小内刈の足さばきに係る表現力は 1.41 点の有意な向上が見られた { $t(71)=-5.29$ }。

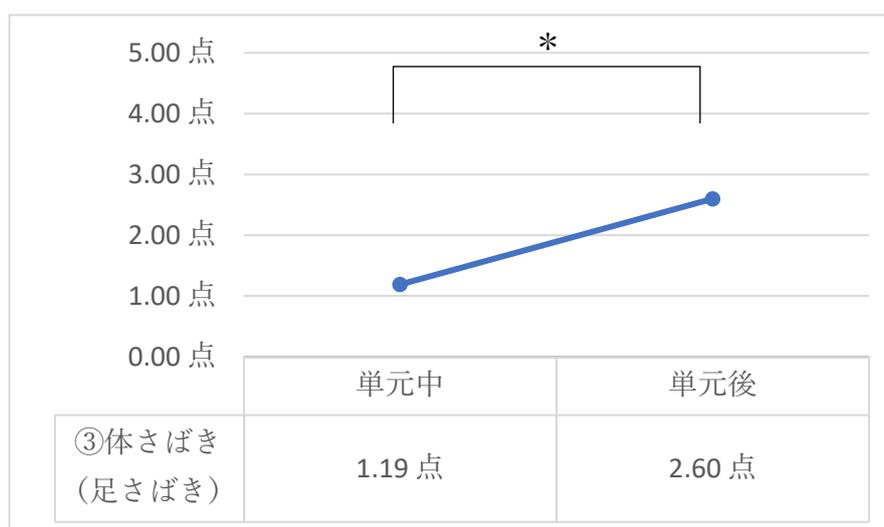


図 3-20 小内刈の足さばきに係る表現力 (* $p<.05$)

小内刈のタイミングに係る表現力の分析結果は図 3-21 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、小内刈のタイミングに係る表現力の点数は変わらなかった { $t(71)=0$ }。

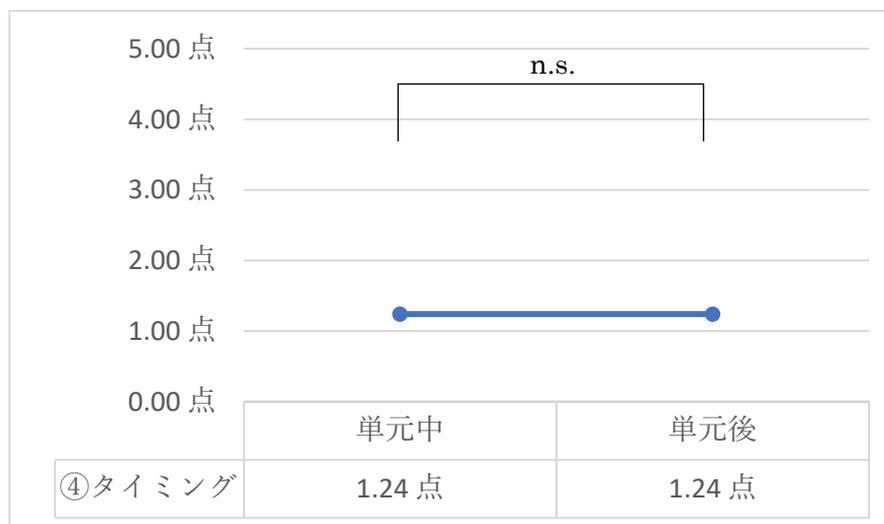


図 3-21 小内刈のタイミングに係る表現力 (* $p<.05$)

小内刈の技のかけ方に係る表現力の分析結果は図 3-22 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、小内刈の技のかけ方に係る表現力は 1.43 点の有意な向上が見られた { $t(71)=-5.89$ }。

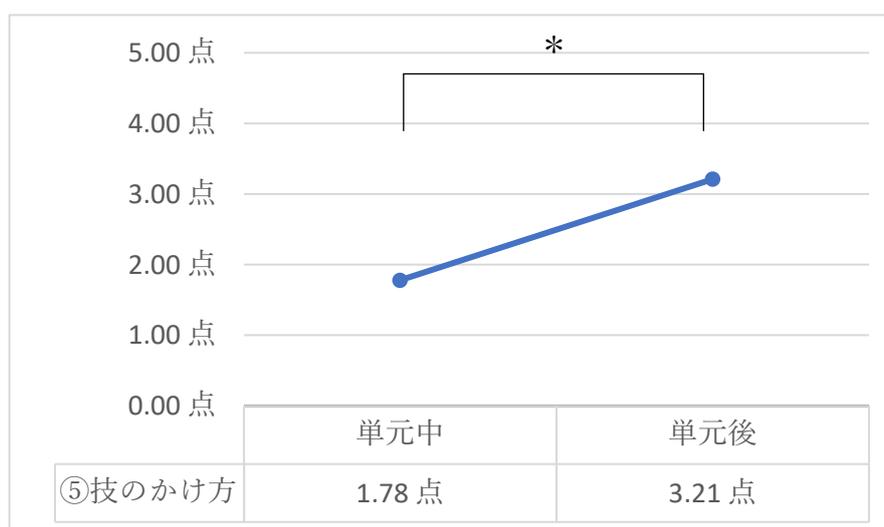


図 3-22 小内刈の技のかけ方に係る表現力 (* $p<.05$)

小内刈の出来栄に係る表現力の分析結果は図 3-23 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、小内刈の出来栄に係る表現力は 0.18 点の低下が見られた { $t(71)=1.23$ }。

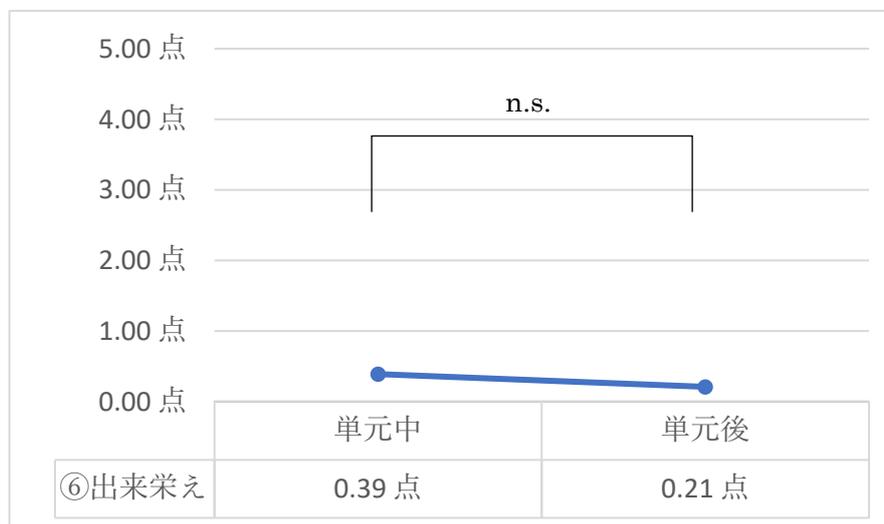


図 3-23 小内刈の出来栄に係る表現力 (* $p<.05$)

以上の結果から、小内刈に係る表現力は単元を通して有意に向上し、そのうち 6 項目中 4 項目が有意に向上した。小内刈は、大内刈と同様にまず基本の体さばきとくずしを意識することと、くずしは刈る足の方に相手の重心を持っていくことを強調して最初に指導した。しかし、小内刈の体さばきは大内刈と似ているので、頭の中でごっちゃになり、くずしの点数は単元中、他の項目と比べて高かったが、体さばきの点数は低かった。しかし、授業の回数を重ねるにつれ、体さばきやくずしの説明がより具体的になっていった。教え合い活動の際には、小内刈の基本である体さばきとくずしを重点的に教えている様子が伺え、くずしや体さばきの向上につながったと考えられる。また、小内刈では、前に倒すように足を刈ると綺麗に刈りやすいと考えている生徒が多く、技のかけ方について教えている生徒が多く見られた。それが、技のかけ方の向上につながっているのではないかと考えられる。しかし、単元中、単元後どちらもタイミングと出来栄の点数が低かった。これは、活動時間が短かったことや解説動画の時間が 1 分以内だったことから、紙に書く時間や説明する時間が短く、タイミングや出来栄の説明が後回しになり、点数が低かったことが推測される。

3.2.1.3 支釣込足

支釣込足に係る総合的な表現力の分析結果は図 3-24 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、支釣込足に係る総合的な表現力は 5.7 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-8.07\}$ 。

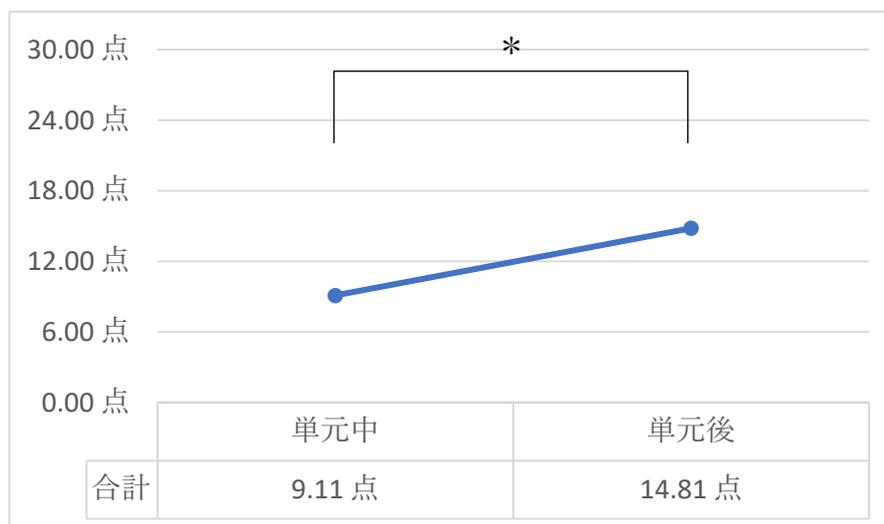


図 3-24 支釣込足に係る総合的な表現力 (* $p<.05$)

支釣込足のくずしに係る表現力の分析結果は図 3-25 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、支釣込足のくずしに係る表現力は 1.52 点の有意な向上が見られた。 $\{t(69)=-5.98\}$ 。

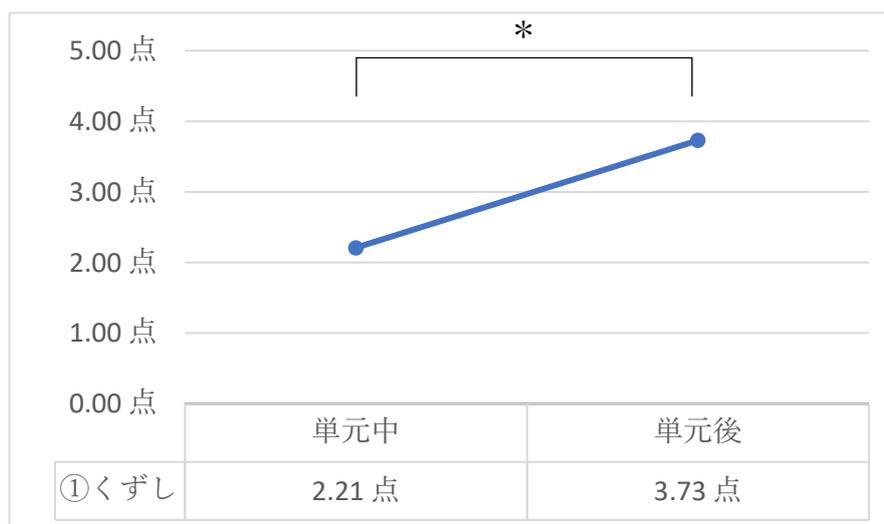


図 3-25 支釣込足のくずしに係る表現力 (* $p<.05$)

支釣込足の手さばきに係る表現力の分析結果は図 3-26 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、支釣込足の手さばきに係る表現力は 2.09 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-7.54\}$ 。

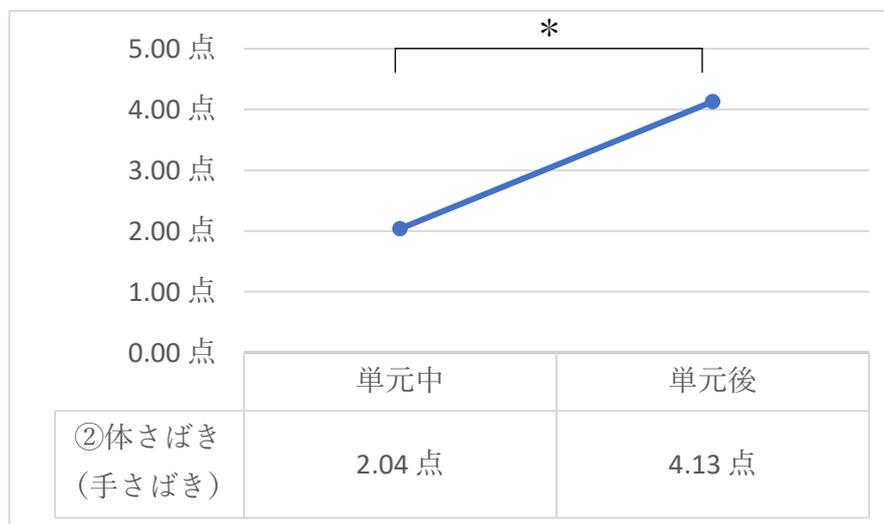


図 3-26 支釣込足の手さばきに係る表現力 (* $p<.05$)

支釣込足の足さばきに係る表現力の分析結果は図 3-27 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、支釣込足の足さばきに係る表現力は 1.81 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-7.50\}$ 。

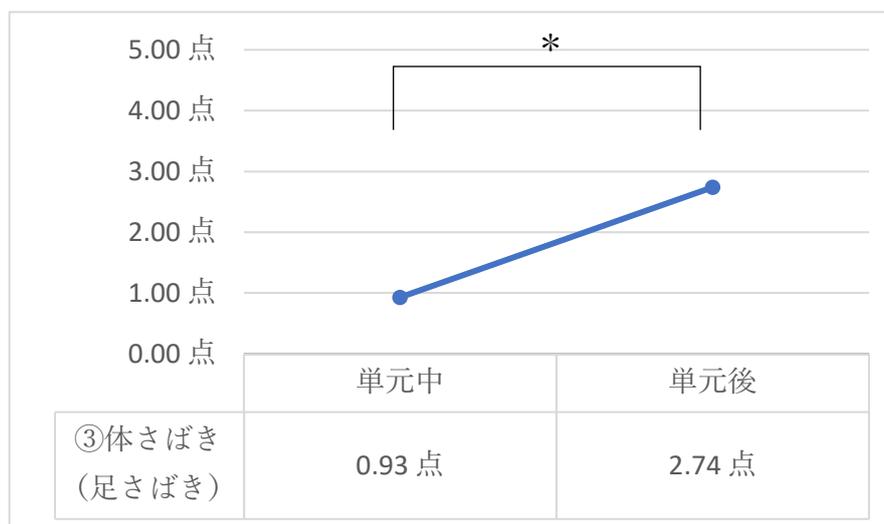


図 3-27 支釣込足の足さばきに係る表現力 (* $p<.05$)

支釣込足のタイミングに係る表現力の分析結果は図 3-28 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、支釣込足のタイミングに係る表現力は 0.55 点の低下が見られた $\{t(69)=1.85\}$ 。

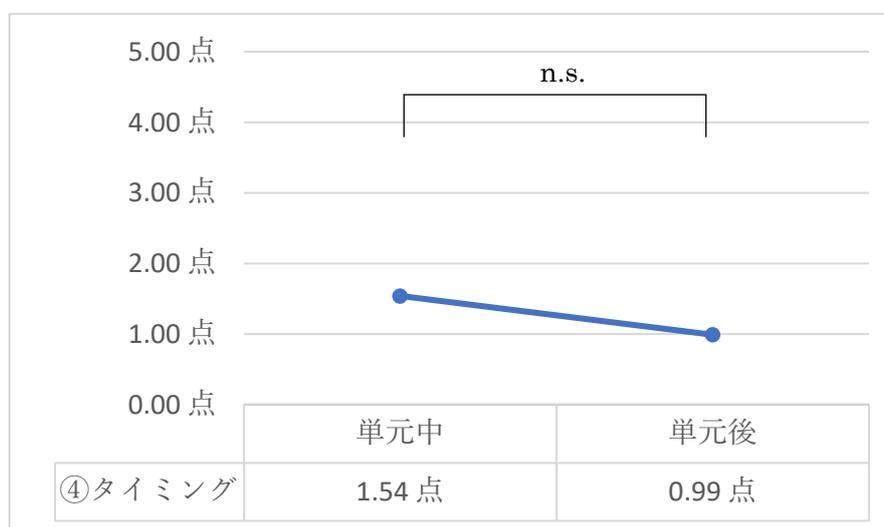


図 3-28 支釣込足のタイミングに係る表現力 (* $p<.05$)

支釣込足の技のかけ方に係る表現力の分析結果は図 3-29 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、支釣込足の技のかけ方に係る表現力は 0.89 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-4.18\}$ 。

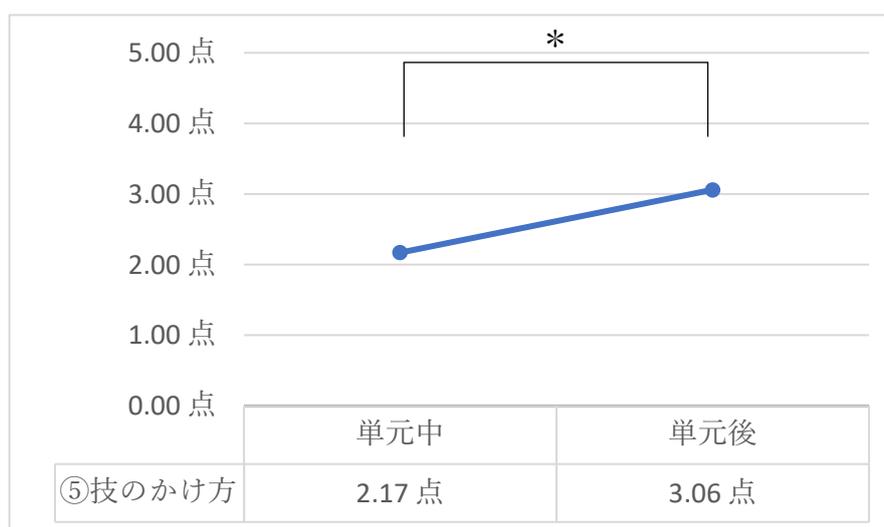


図 3-29 支釣込足の技のかけ方に係る表現力 (* $p<.05$)

支釣込足の出来栄に係る表現力の分析結果は図 3-30 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、支釣込足の出来栄に係る表現力は 0.04 点の低下が見られた { $t(69)=0.45$ }。

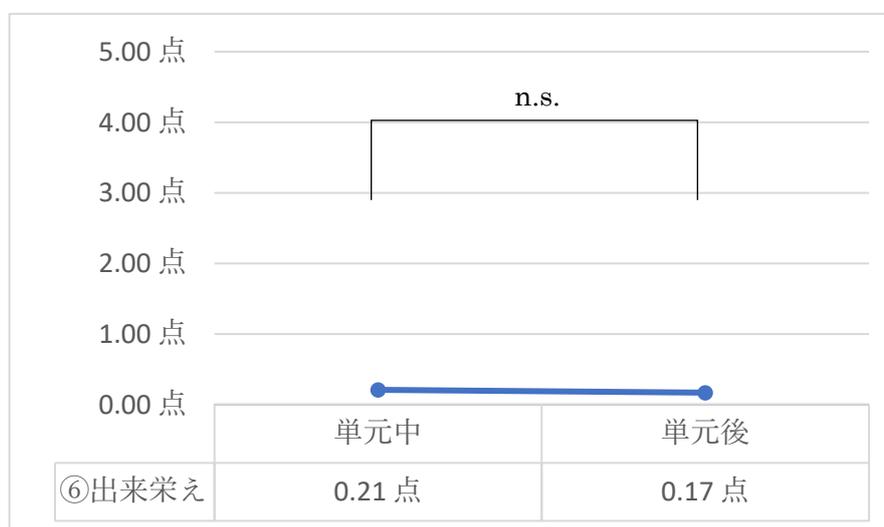


図 3-30 支釣込足の出来栄に係る表現力 (* $p<.05$)

以上の結果から、支釣込足に係る表現力は単元を通して有意に向上し、そのうち 6 項目中 4 項目が有意に向上した。支釣込足は、まず基本の体さばきとくずしを意識することと、くずしは相手の重心を前方に持っていくことを強調して最初に指導した。そのため、手さばきとくずしの点数は単元中、他の項目と比べて高かった。一方で足さばきに関しては、1 年次に取り扱った投げ技に支釣込足と同じ足さばきの技がなかったことから、支釣込足の足さばきの言語化が難しく、足さばきの点数は低かったのではないかと考えられる。しかし、授業の回数を重ねるにつれ、体さばきやくずしの説明がより具体的になっていった。教え合い活動の際には、支釣込足の基本である体さばきとくずしを重点的に教えている様子が伺え、くずしや体さばきの向上につながったと考えられる。また、基本である体さばきとくずしができるようになってきたら、相手の足を支える位置についての会話が増え、技のかけ方を教えている生徒も多く見られた。しかし、単元中、単元後どちらもタイミングと出来栄の点数が低かった。これは、活動時間が短かったことや解説動画の時間が 1 分以内だったことから、紙に書く時間や説明する時間が短く、タイミングや出来栄の説明が後回しになり、点数が低かったことが推測される。

3.2.1.4 内股

内股に係る総合的な表現力の分析結果は図 3-31 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、内股に係る総合的な表現力は 7.1 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-9.63\}$ 。

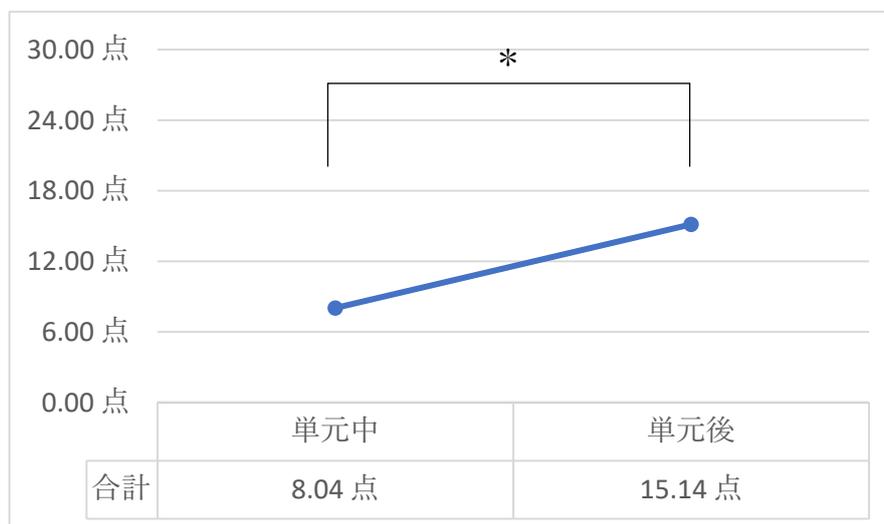


図 3-31 内股に係る総合的な表現力 (* $p<.05$)

内股のくずしに係る表現力の分析結果は図 3-32 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、内股のくずしに係る表現力は 1.47 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-6.03\}$ 。

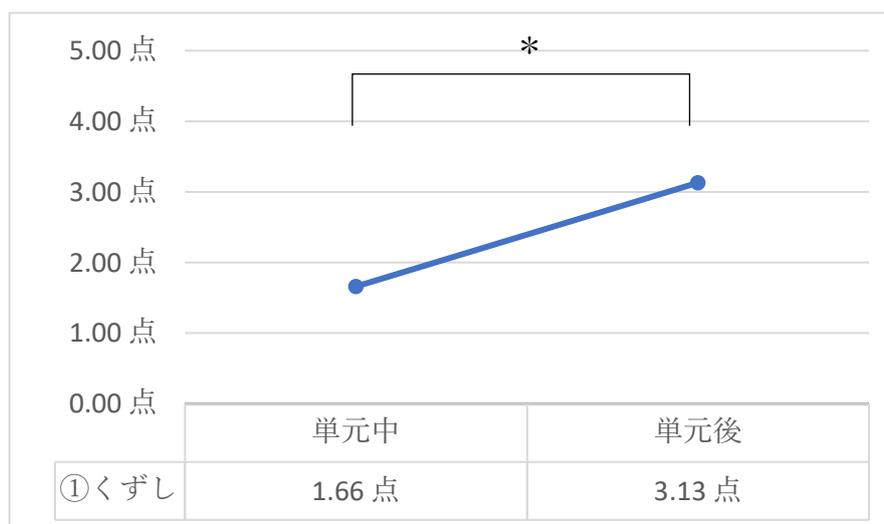


図 3-32 内股のくずしに係る表現力 (* $p<.05$)

内股の手さばきに係る表現力の分析結果は図 3-33 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、内股の手さばきに係る表現力は 1.87 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-6.24\}$ 。

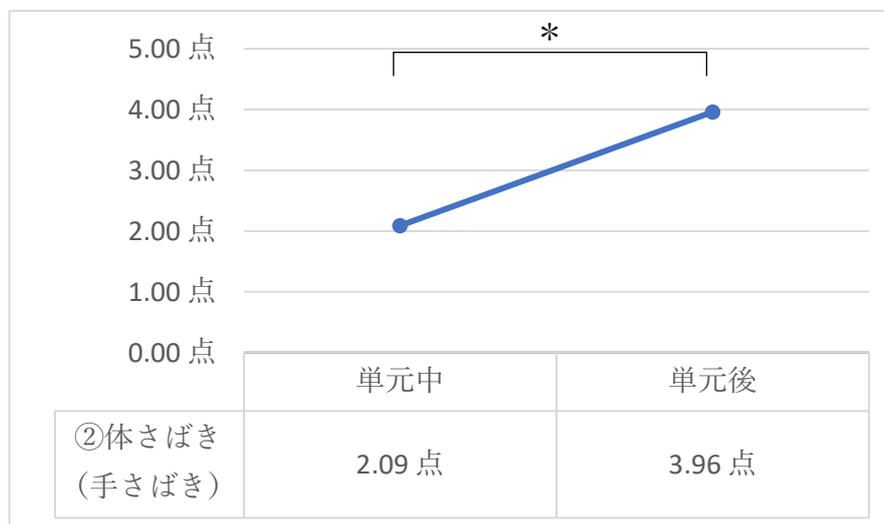


図 3-33 内股の手さばきに係る表現力 (* $p<.05$)

内股の足さばきに係る表現力の分析結果は図 3-34 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、内股の足さばきに係る表現力は 1.9 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-7.42\}$ 。

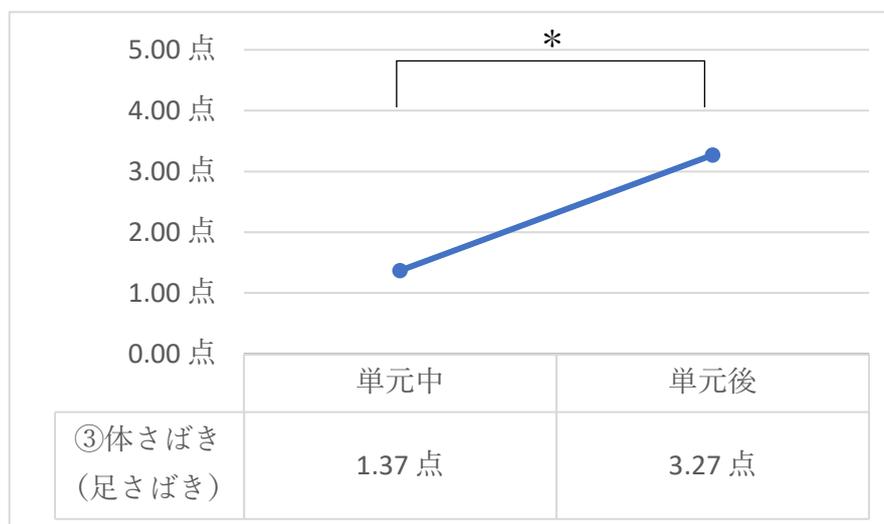


図 3-34 内股の足さばきに係る表現力 (* $p<.05$)

内股のタイミングに係る表現力の分析結果は図 3-35 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、内股のタイミングに係る表現力は 0.74 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-3.12\}$ 。

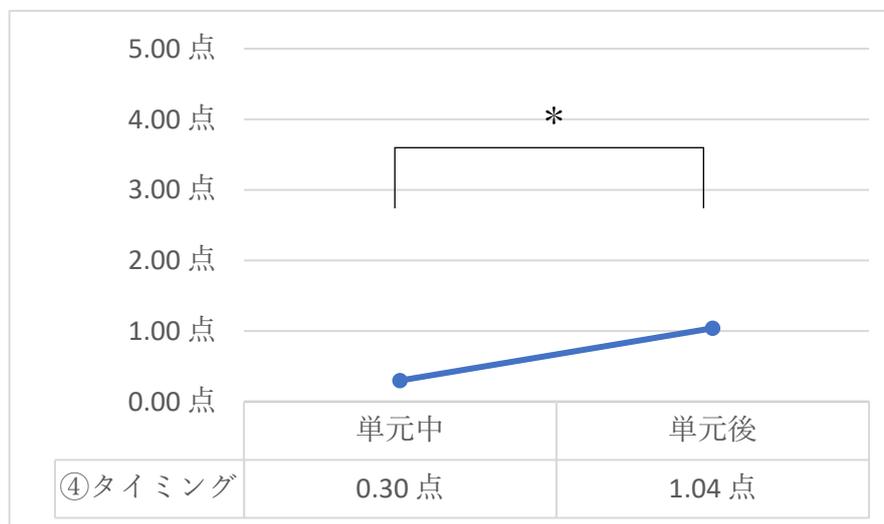


図 3-35 内股のタイミングに係る表現力 (* $p<.05$)

内股の技のかけ方に係る表現力の分析結果は図 3-36 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、内股の技のかけ方に係る表現力は 0.83 点の有意な向上が見られた $\{t(69)=-3.50\}$ 。

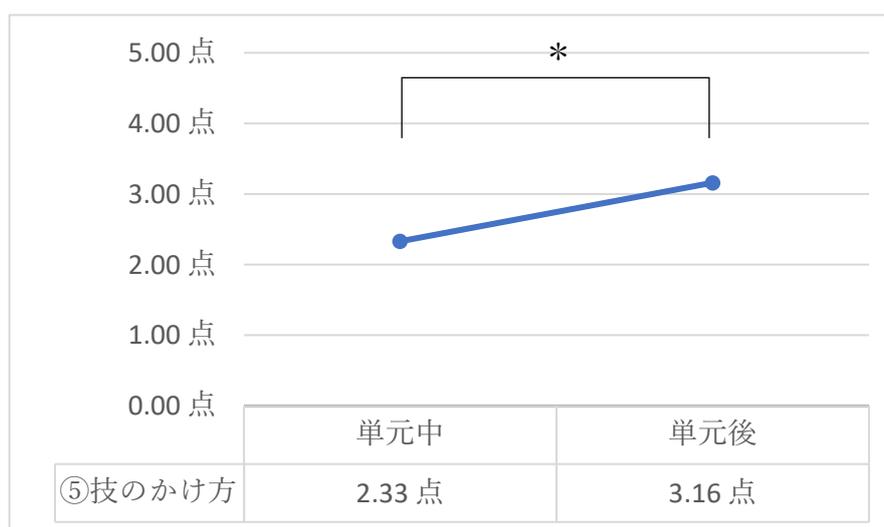


図 3-36 内股の技のかけ方に係る表現力 (* $p<.05$)

内股の出来栄に係る表現力の分析結果は図 3-37 の通りである。教え合い活動時に使用した紙のワークシート（単元中）、単元終了後に撮影した解説動画（単元後）を比較し、内股の出来栄に係る表現力は 0.29 点の向上が見られた $\{t(69)=-1.77\}$ 。

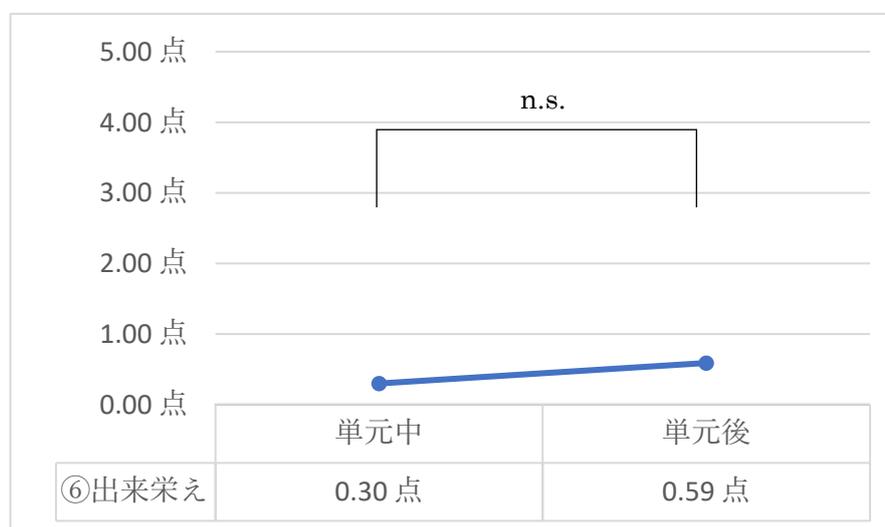


図 3-37 内股の出来栄に係る表現力 (* $p<.05$)

以上の結果から、内股に係る表現力は単元を通して向上し、そのうち 6 項目中 5 項目が有意に向上した。内股は、他の技と同様にまず基本の体さばきとくずしを意識することを指導したが、それに加えて、自分の腰に相手を乗せて背負うように投げることを強調して最初に指導した。そのため、技のかけ方の点数は単元中、体さばきやくずしと比べて高かった。また、授業の回数を重ねるにつれ、体さばきやくずしの説明がより具体的になっていった。教え合い活動の際には、内股の基本である体さばきとくずしを重点的に教えている様子が伺え、くずしや体さばきの向上につながったと考えられる。しかし、単元中、単元後どちらもタイミングと出来栄の点数が低かった。これは、活動時間が短かったことや解説動画の時間が 1 分以内だったことから、紙に書く時間や説明する時間が短く、タイミングや出来栄の説明が後回しになり、点数が低かったことが推測される。一方で、内股にのみ、タイミングに有意な向上が見られた。内股は 4 つの技で最もタイミングが重要視されるため、タイミングの重要性に気づく生徒が増えたことが向上につながったと考えられる。

3.2.2 時間ごとの表現力

3.2.2.1 点数

時間ごとの総合的な表現力の分析結果は図 3-38 の通りである。総合的な表現力を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 0.48 点の低下 { $t(60)=0.70$ }、3 時間目から 4 時間目は 0.64 点の向上 { $t(60)=-1.08$ }、4 時間目から 5 時間目は 1.57 点の有意な低下 { $t(60)=2.23$ }、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 7.42 点の有意な向上 { $t(60)=-8.33$ }、2 時間目から 7 時間目は 6.01 点の有意な向上 { $t(60)=-7.79$ } が見られた。全体的に見ると 2 時間目から 4 時間目まで表現力は大きく変化せず、5 時間目で有意な低下、最後の 7 時間目の解説動画で急激な向上が見られた。

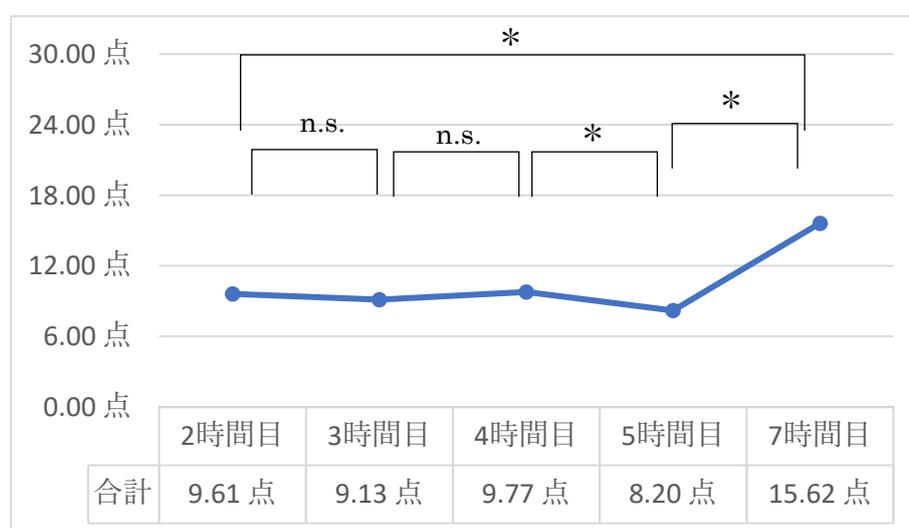


図 3-38 時間ごとの表現力の合計の推移 (* $p<.05$)

時間ごとのくずしに係る表現力の分析結果は図 3-39 の通りである。くずしに係る表現力を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 0.07 点の低下 { $t(60)=0.23$ }、3 時間目から 4 時間目は 0.13 点の低下 { $t(60)=0.50$ }、4 時間目から 5 時間目は 0.38 点の低下 { $t(60)=1.29$ }、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 1.76 点の有意な向上 { $t(60)=-6.84$ }、2 時間目から 7 時間目は 1.18 点の有意な向上 { $t(60)=-4.57$ } が見られた。全体的に見ると 2 時間目から 5 時間目まで表現力は大きく変化せず、最後の 7 時間目の解説動画で急激な向上が見られた。

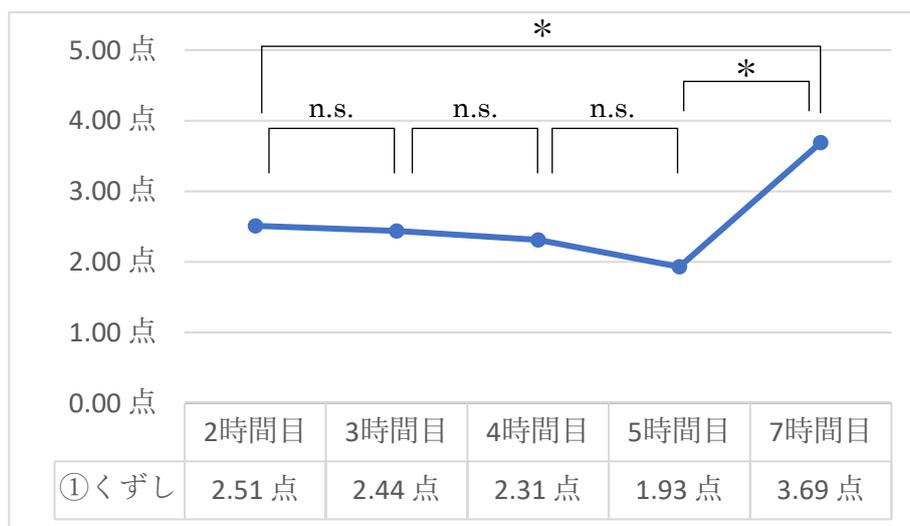


図 3-39 時間ごとのくずしの表現力の推移 (* $p<.05$)

時間ごとの手さばきに係る表現力の分析結果は図 3-40 の通りである。手さばきに係る表現力を時間ごとに比較した。2時間目から3時間目は0.01点の低下 { $t(60)=0.05$ }、3時間目から4時間目は0.2点の低下 { $t(60)=0.90$ }、4時間目から5時間目は0.16点の低下 { $t(60)=0.58$ }、5時間目から解説動画を撮影した7時間目は1.78点の有意な向上 { $t(60)=-7.04$ }、2時間目から7時間目は1.41点の有意な向上 { $t(60)=-5.15$ } が見られた。全体的に見ると2時間目から5時間目まで表現力は大きく変化せず、最後の7時間目の解説動画で急激な向上が見られた。

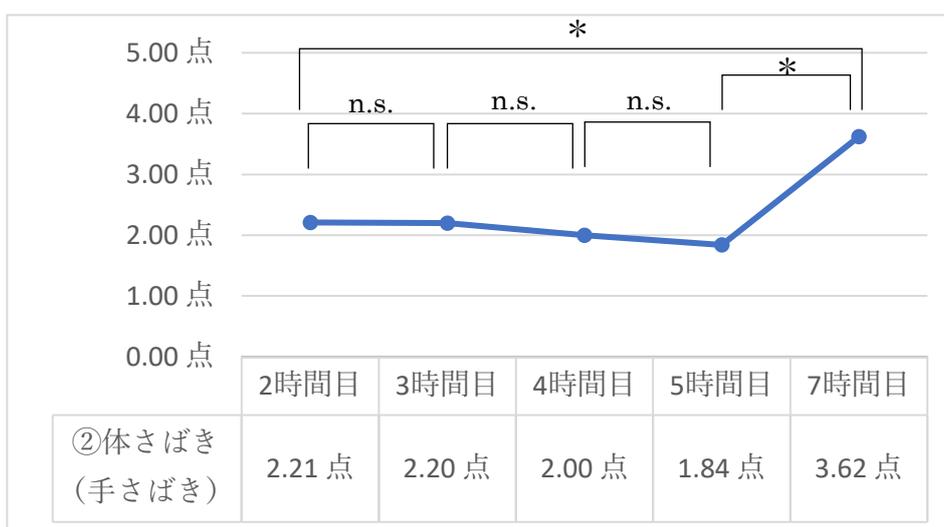


図 3-40 時間ごとの手さばきの表現力の推移 (* $p<.05$)

時間ごとの足さばきに係る表現力の分析結果は図 3-41 の通りである。足さばきに係る表現力を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 0.49 点の有意な低下 { $t(60)=2.06$ }、3 時間目から 4 時間目は 0.18 点の向上 { $t(60)=-0.73$ }、4 時間目から 5 時間目は 0.18 点の低下 { $t(60)=0.58$ }、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 1.77 点の有意な向上 { $t(60)=-6.68$ }、2 時間目から 7 時間目は 1.31 点の有意な向上 { $t(60)=-4.89$ } が見られた。全体的に見ると 3 時間目で表現力が有意に低下し、3 時間目から 5 時間目まで大きく変化せず、最後の 7 時間目の解説動画で急激な向上が見られた。

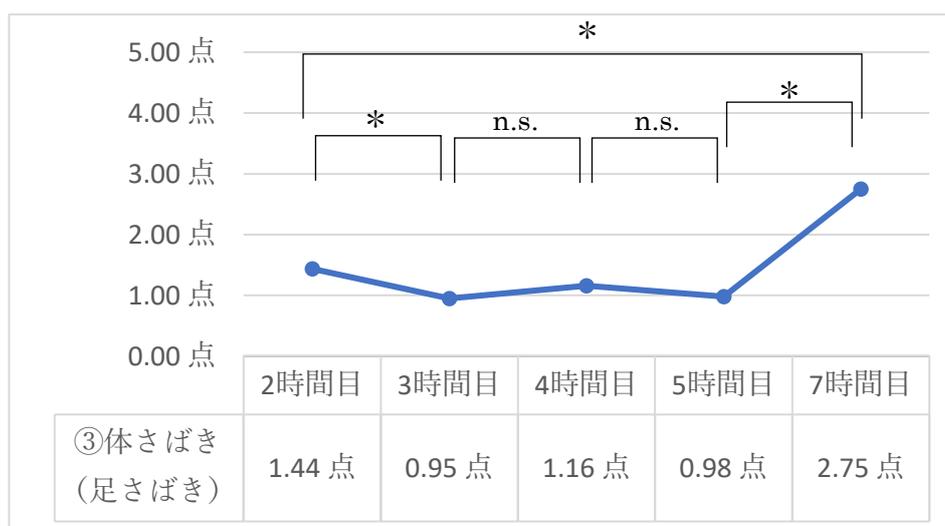


図 3-41 時間ごとの足さばきの表現力の推移 (* $p<.05$)

時間ごとのタイミングに係る表現力の分析結果は図 3-42 の通りである。タイミングに係る表現力を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 0.39 点の向上 { $t(60)=-1.90$ }、3 時間目から 4 時間目は 0.64 点の向上 { $t(60)=-1.82$ }、4 時間目から 5 時間目は 0.39 点の低下 { $t(60)=1.06$ }、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 0.06 点の低下 { $t(60)=0.19$ }、2 時間目から 7 時間目は 0.58 点の有意な向上 { $t(60)=-2.65$ } が見られた。全体的に見ると、本単元での有意な向上は見られるが、4 時間目での表現力が最大値を取り、1 時間ごとの変化は見られなかった。

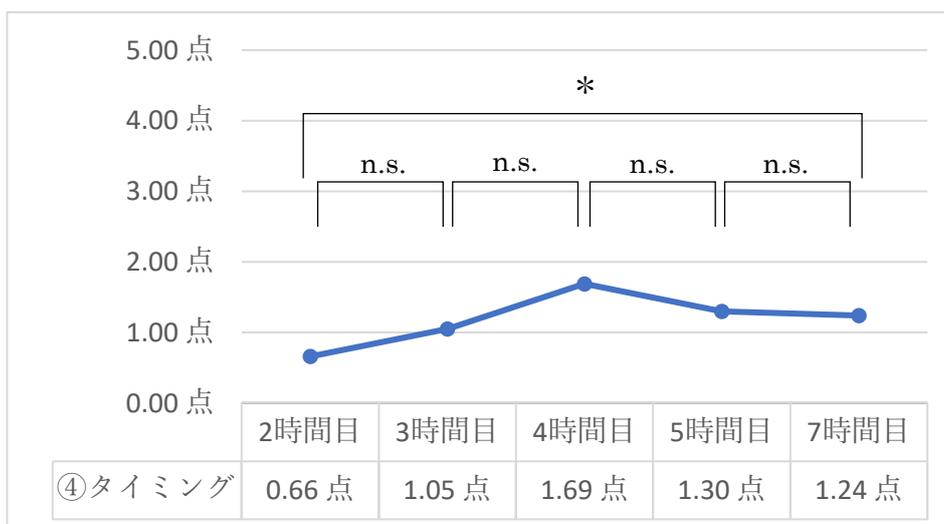


図 3-42 時間ごとのタイミングの表現力の推移 (* $p<.05$)

時間ごとの技のかけ方に係る表現力の分析結果は図 3-43 の通りである。技のかけ方に係る表現力を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 0.24 点の低下 { $t(60)=0.82$ }、3 時間目から 4 時間目は 0.07 点の低下 { $t(60)=0.23$ }、4 時間目から 5 時間目は 0.51 点の低下 { $t(60)=1.84$ }、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 1.52 点の有意な向上 { $t(60)=-5.38$ }、2 時間目から 7 時間目は 0.7 点の有意な向上 { $t(60)=-2.86$ } が見られた。全体的に見ると 2 時間目から 5 時間目まで表現力が緩やかに低下し、最後の 7 時間目の解説動画で急激な向上が見られた。

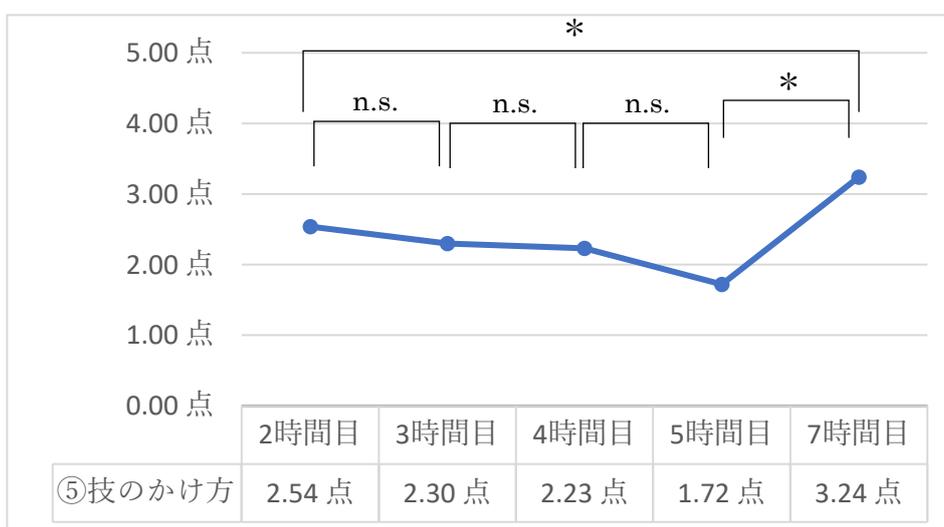


図 3-43 時間ごとの技のかけ方の表現力の推移 (* $p<.05$)

時間ごとの技の出来栄に係る表現力の分析結果は図 3-44 の通りである。技の出来栄に係る表現力を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 0.05 点の低下 { $t(60)=0.38$ }、3 時間目から 4 時間目は 0.18 点の向上 { $t(60)=-1.12$ }、4 時間目から 5 時間目は 0.05 点の向上 { $t(60)=-0.23$ }、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 0.17 点の低下 { $t(60)=1.13$ }、2 時間目から 7 時間目は 0.01 点の向上 { $t(60)=-0.17$ } が見られた。全体的に見ると、単元を通して大きな変化は見られなかった。

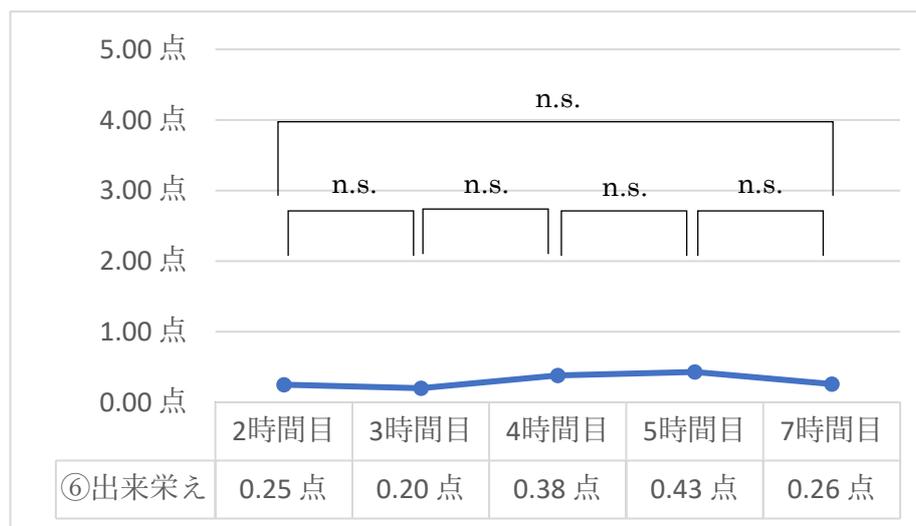


図 3-44 時間ごとの出来栄の表現力の推移 (* $p<.05$)

以上の結果から、表現力は単元を通して有意に向上し、そのうち 6 項目中 5 項目が有意に向上した。まず全ての技に関して、基本の体さばきとくずしを意識することと、くずしは刈る足の方に相手の重心を持っていくことを強調して最初に指導した。そのため、2 時間目の時点で体さばきとくずしの点数は他の項目と比べて高かった。しかし、生徒の上半身を重視して説明している様子から足さばきは低かった。また、2 時間目の時点で技のかけ方の点数が一番高く、最初は、基本である体さばきとくずしより技のかけ方を教えようとしていたことが伺える。1 時間ごと細かく見ると、必ずしも授業の回数を重ねるにつれて表現力が向上しているとは言えない。しかし、これは毎時間の成長がなかったということではなく、他にもいくつか原因があると考えられる。その 1 つは作業量の多さである。毎時間練習をしながら紙のワークシートに記入しなくてはならなかったことや、次回の技の説明の仕方を課題として出していたことから、生徒の負担が大きく、ワークシートにあまり記入していない生徒も多々見受けられた。また、もう完全に理解しているものはわざわざ書かず、新たな情報だけ記入している生徒の様子も伺えた。そのため、教え合い活動の時間である 2 時間目から 5 時間目を見ると点数が下がっているものが多々見受けられるが、必ずしも表現力が低下しているとは言い切れないと考える。結果として、単元全体を通して表現力の向上が見られ、生徒たちは、紙のワークシートに書かずとも、一生懸命授業に取り組み、表現力の向

上に役立てていることが伺える。

3.2.2.2 未記入率

時間ごとの総合的な未記入率の分析結果は図 3-45 の通りである。総合的な未記入率を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 1.91%の上昇、3 時間目から 4 時間目は 5.74%の低下、4 時間目から 5 時間目は 8.2%の上昇、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 24.39%の低下、2 時間目から 7 時間目は 20.02%の低下が見られた。全体的に見ると 2 時間目から 5 時間目まで未記入率は大きく変化せず、最後の 7 時間目の解説動画で急激な低下が見られた。

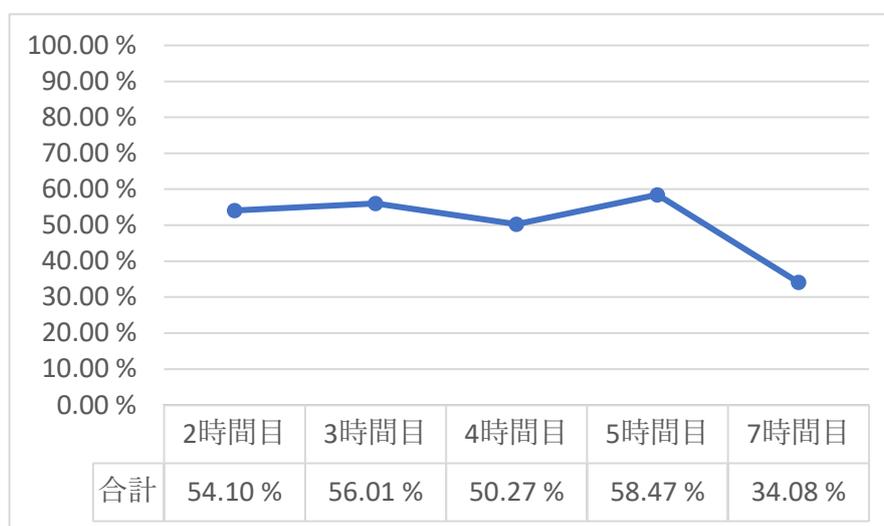


図 3-45 時間ごとの総合的な未記入率の推移

時間ごとのくずしの未記入率の分析結果は図 3-46 の通りである。くずしの未記入率を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 6.56%の低下、3 時間目から 4 時間目は 3.28%の低下、4 時間目から 5 時間目は 11.48%の上昇、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 27.05%の低下、2 時間目から 7 時間目は 25.41%の低下が見られた。全体的に見ると 2 時間目から 4 時間目まで未記入率が緩やかに低下し、5 時間目で上昇、そして最後の 7 時間目の解説動画では再び急激な低下が見られた。

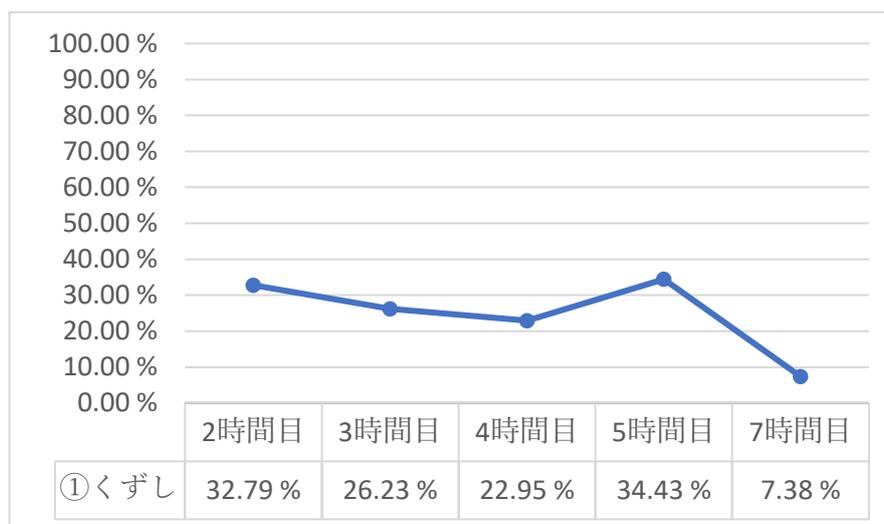


図 3-46 時間ごとのくずしの未記入率の推移

時間ごとの手さばきの未記入率の分析結果は図 3-47 の通りである。手さばきの未記入率を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 4.92%の上昇、3 時間目から 4 時間目は 3.28%の低下、4 時間目から 5 時間目は 6.56%の上昇、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 40.98%の低下、2 時間目から 7 時間目は 32.78%の低下が見られた。全体的に見ると 2 時間目から 5 時間目まで未記入率が緩やかに上昇し、最後の 7 時間目の解説動画で急激な低下が見られた。

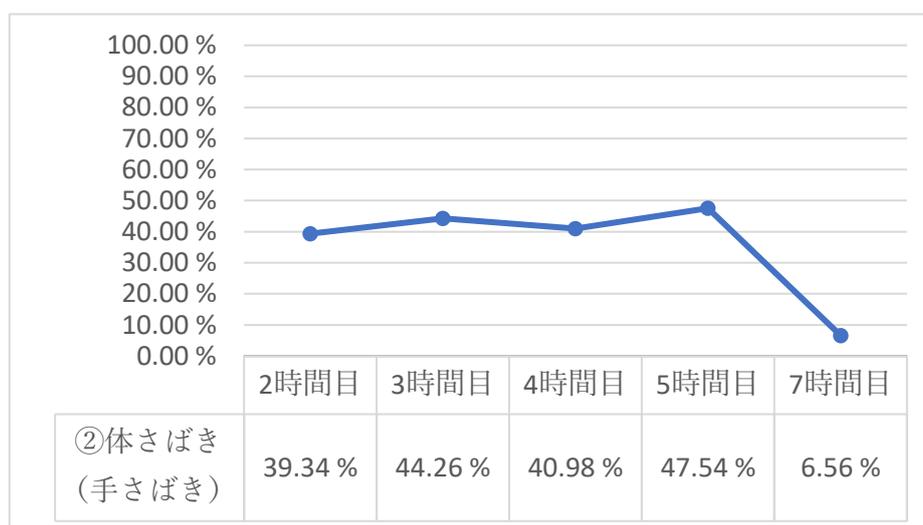


図 3-47 時間ごとの手さばきの未記入率の推移

時間ごとの足さばきの未記入率の分析結果は図 3-48 の通りである。足さばきの未記入率を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 16.39%の上昇、3 時間目から 4 時間目は 1.64%の低下、4 時間目から 5 時間目は 8.2%の上昇、5 時間目から解説動画を撮影した 7

時間目は 48.77%の低下、2 時間目から 7 時間目は 25.82%の低下が見られた。全体的に見ると 2 時間目から 5 時間目まで未記入率が上昇し、最後の 7 時間目の解説動画で急激な低下が見られた。

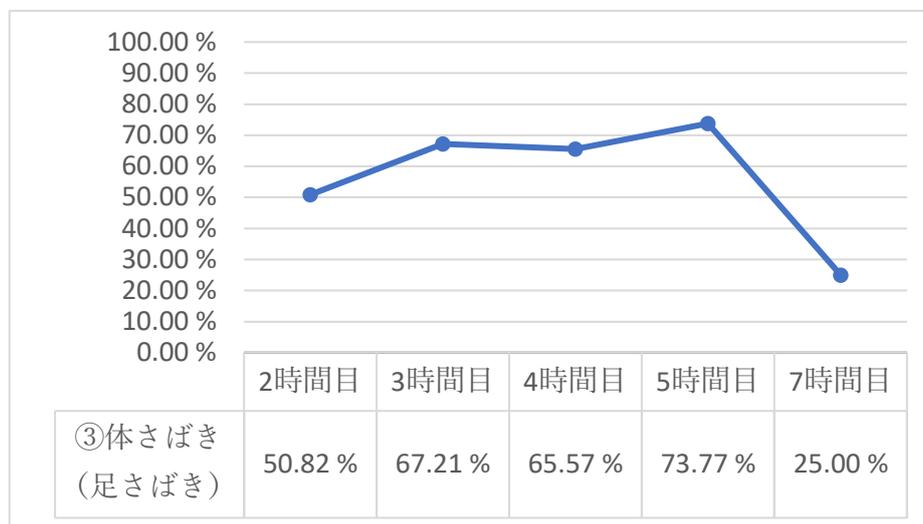


図 3-48 時間ごとの足さばきの未記入率の推移

時間ごとのタイミングの未記入率の分析結果は図 3-49 の通りである。タイミングの未記入率を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 9.84%の低下、3 時間目から 4 時間目は 14.75%の低下、4 時間目から 5 時間目は 3.28%の上昇、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 8.6%の上昇、2 時間目から 7 時間目は 12.71%の低下が見られた。全体的に見ると 2 時間目から 4 時間目まで未記入率が低下し、その後、単元後まで緩やかな上昇が見られた。

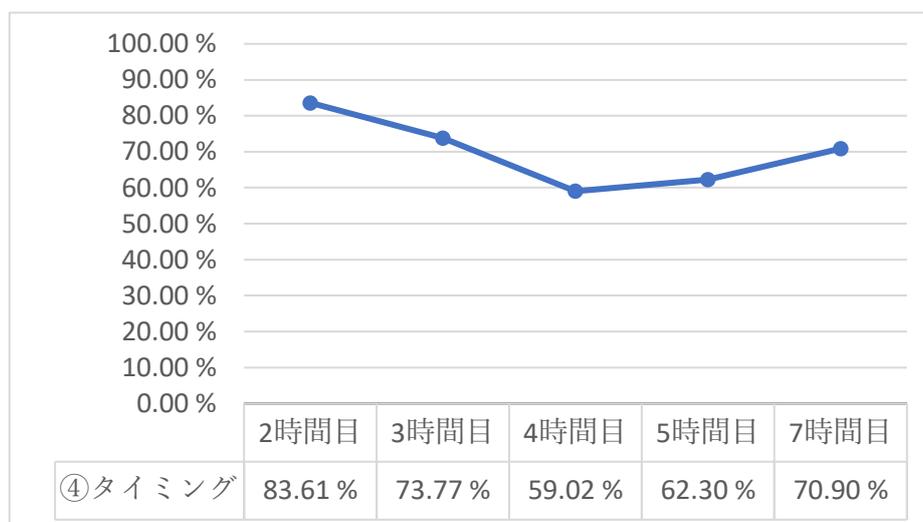


図 3-49 時間ごとのタイミングの未記入率の推移

時間ごとの技のかけ方の未記入率の分析結果は図 3-50 の通りである。技のかけ方の未記入率を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 4.92%の上昇、3 時間目から 4 時間目は 6.56%の低下、4 時間目から 5 時間目は 21.31%の上昇、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 43.03%の低下、2 時間目から 7 時間目は 23.36%の低下が見られた。全体的に見ると 2 時間目から 4 時間目まで未記入率は大きく変化せず、5 時間目で上昇、そして最後の 7 時間目の解説動画では再び急激な低下が見られた。

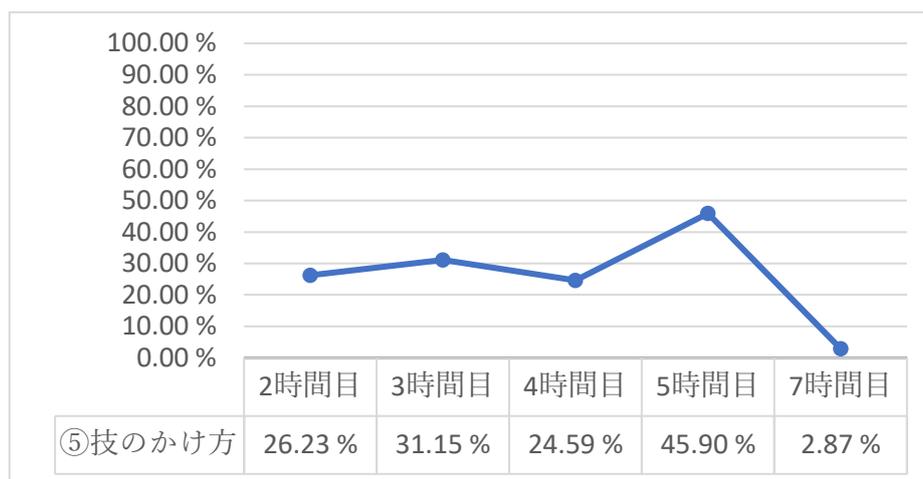


図 3-50 時間ごとの技のかけ方の未記入率の推移

時間ごとの出来栄の未記入率の分析結果は図 3-51 の通りである。出来栄の未記入率を時間ごとに比較した。2 時間目から 3 時間目は 1.64%の上昇、3 時間目から 4 時間目は 4.92%の低下、4 時間目から 5 時間目は 1.63%の低下、5 時間目から解説動画を撮影した 7 時間目は 4.91%の上昇、2 時間目から 7 時間目は変化なしが見られた。全体的に見ると、本単元を通して大きな変化は見られなかった。

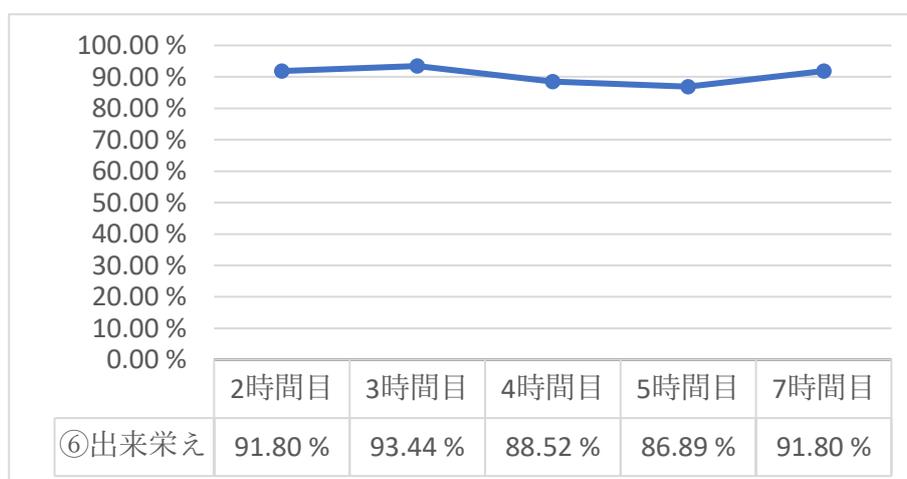


図 3-51 時間ごとの出来栄の未記入率の推移

以上の結果から、総合的な未記入率は単元を通して低下、そのうち 6 項目中 5 項目が未記入率の低下を示し、様々な観点から投げ技を表現する力が向上したことがいえる。まず全ての技に関して、基本の体さばきとくずしを意識することと、くずしは刈る足の方に相手の重心を持っていくことを強調して最初に指導した。そのため、2 時間目の時点で手さばきとくずしの未記入率は他の項目と比べて低かった。しかし、生徒の上半身を重視して説明している様子から足さばきの未記入率は高かった。これは、2.2.1 点数からも同じことが考察される。また、2 時間目の時点で技のかけ方の未記入率が一番低く、最初は、基本である体さばきとくずしより技のかけ方を教えようとしていたことが伺える。1 時間ごと細かく見ると、必ずしも授業の回数を重ねるにつれて未記入率が低下し、様々な観点から表現できるようになっているとは言えない。しかし、これも 2.2.1 点数の考察で挙げたように作業量の多さが影響しているものと考えられる。また、授業を重ねるにつれ、体さばきの未記入率は緩やかに上昇する一方で、くずし、タイミング、出来栄えの未記入率は緩やかに低下している。ここから、回を追うごとに投げ技の基本である体さばきができるようになっていて、理解している体さばきについてはわざわざワークシートには記入しなくて良いと生徒が思っていること、また体さばきよりもくずしやタイミング、出来栄えを優先的に教えようとしている生徒が少しずつ増えていったことが推測される。更に、単元後を見ると体さばきと技のかけ方の未記入率が 10%を切り、ほとんどの生徒が投げ技における体さばきと技のかけ方の重要性を理解していることが伺える。しかし、出来栄えについては、単元後も未記入率が高く、単元を通してほとんど変化は見られなかった。これは、単に勢いについて重要であると考えた生徒が少なかったというわけではなく、投げ技において勢いが重要であることに生徒が気づいていなかったことが原因であると、生徒の授業の様子から考えられる。投げ技において勢いは重要であると生徒自身が気づくような声掛けを、教師からもっとする必要があった。

3.3 「技能」に関する結果

3.3.1 大内刈

大内刈に係る総合的な技能の分析結果は図 3-52 の通りである。大内刈に係る総合的な技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 5.69 点の有意な向上 $\{t(64)=-9.55\}$ 、指導後から単元後は 0.39 点の向上 $\{t(64)=-0.63\}$ 、指導前から単元後は 6.08 点の有意な向上 $\{t(64)=-9.00\}$ が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

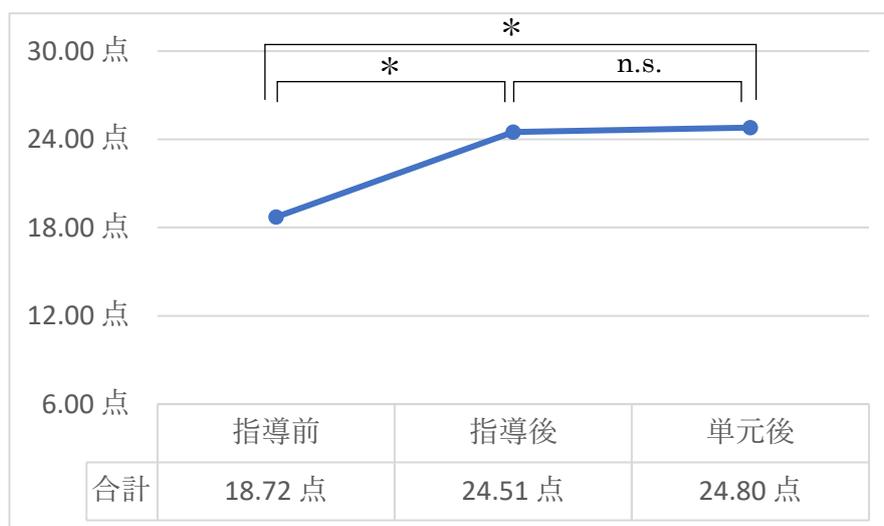


図 3-52 大内刈に係る総合的な技能の推移 (* $p<.05$)

大内刈のくずしに係る技能の分析結果は図 3-53 の通りである。大内刈のくずしに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.46 点の有意な向上 $\{t(64)=-7.19\}$ 、指導後から単元後は 0.2 点の低下 $\{t(64)=1.19\}$ 、指導前から単元後は 1.26 点の有意な向上 $\{t(64)=-6.12\}$ が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

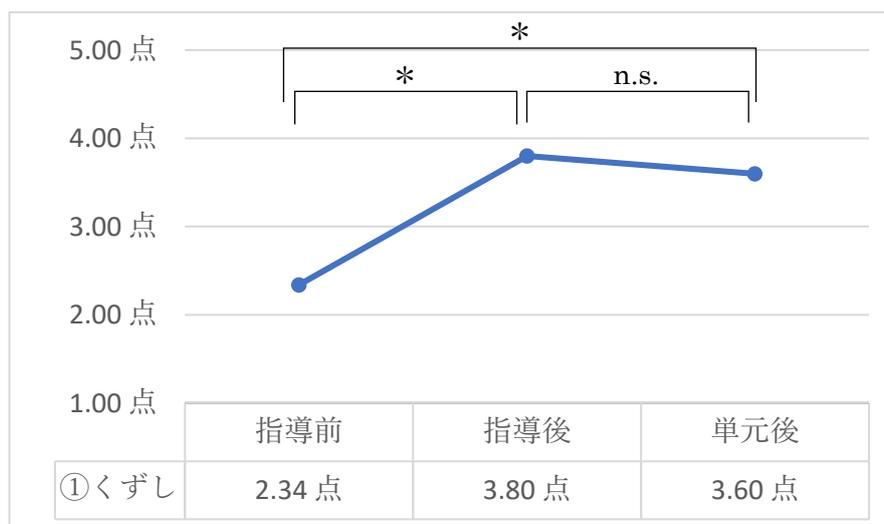


図 3-53 大内刈のくずしに係る技能の推移 (* $p<.05$)

大内刈の手さばきに係る技能の分析結果は図 3-54 の通りである。大内刈の手さばきに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.26 点の有意な向上 { $t(64)=-6.63$ }、指導後から単元後は 0.11 点の低下 { $t(64)=0.83$ }、指導前から単元後は 1.15 点の有意な向上 { $t(64)=-5.95$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

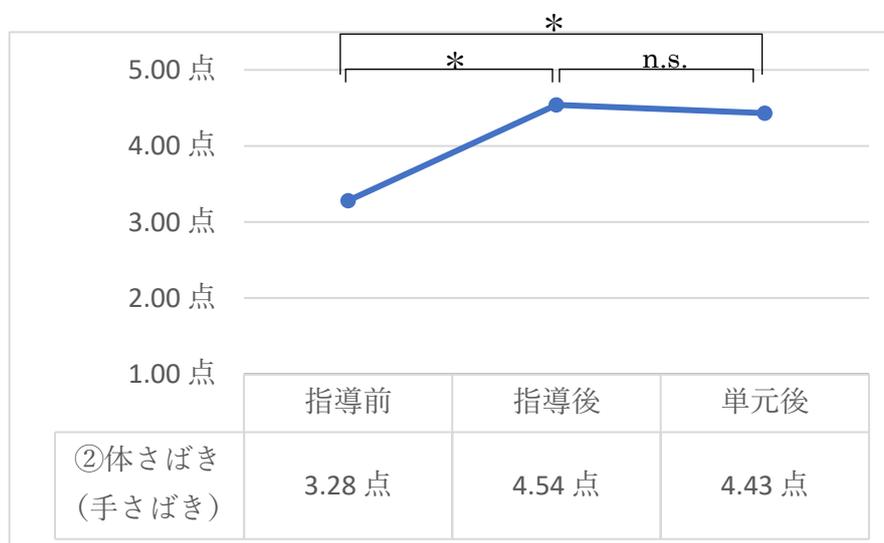


図 3-54 大内刈の手さばきに係る技能の推移 (* $p<.05$)

大内刈の足さばきに係る技能の分析結果は図 3-55 の通りである。大内刈の足さばきに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 0.63 点の有意な向上 { $t(64)=-2.85$ }、指導後から単元後は 0.15 点の向上 { $t(64)=-0.96$ }、指導前から単元後は 0.78 点の有意な向上 { $t(64)=-3.32$ } が見られた。指導前と指導後、指導後と単元後共に技能が向上し、単元を通して技能の向上が見られる。

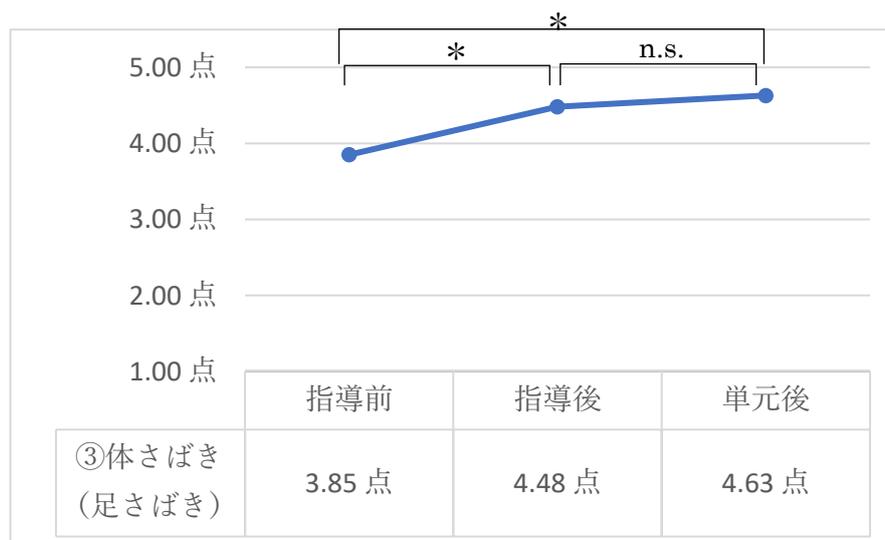


図 3-55 大内刈の足さばきに係る技能の推移 (* $p<.05$)

大内刈のタイミングに係る技能の分析結果は図 3-56 の通りである。大内刈のタイミングに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 0.97 点の有意な向上 { $t(64)=-6.82$ }、指導後から単元後は変化なし { $t(64)=0$ }、指導前から単元後は 0.97 点の有意な向上 { $t(64)=-6.67$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では変化は見られなかった。

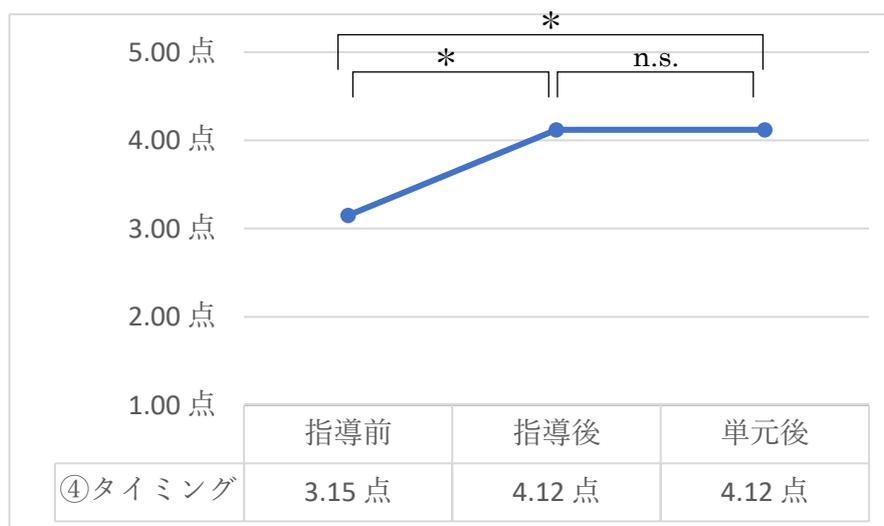


図 3-56 大内刈のタイミングに係る技能の推移 (* $p < .05$)

大内刈の技のかけ方に係る技能の分析結果は図 3-57 の通りである。大内刈の技のかけ方に係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 0.34 点の有意な向上 { $t(64)=-2.22$ }、指導後から単元後は 0.39 点の有意な向上 { $t(64)=-2.54$ }、指導前から単元後は 0.73 点の有意な向上 { $t(64)=-3.93$ } が見られた。指導前と指導後、指導後と単元後共に技能が向上し、単元を通して技能の向上が見られる。

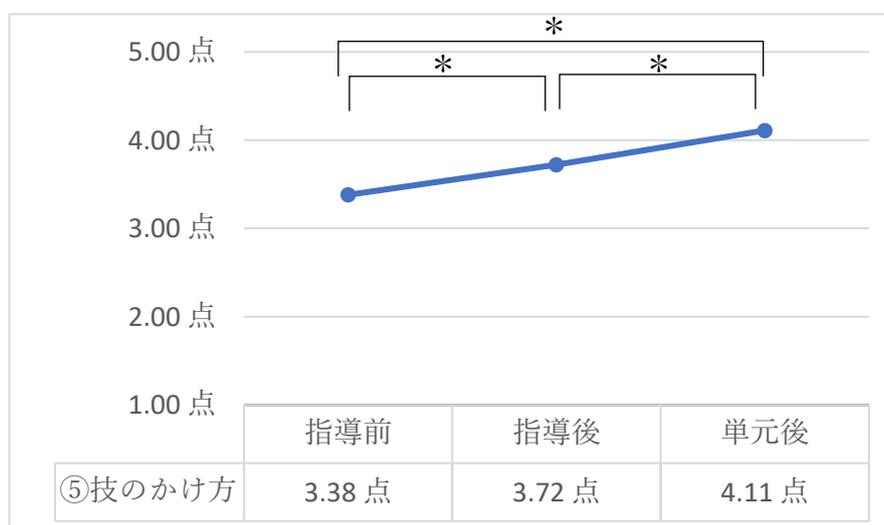


図 3-57 大内刈の技のかけ方に係る技能の推移 (* $p < .05$)

大内刈の出来栄に係る技能の分析結果は図 3-58 の通りである。大内刈の出来栄に係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.13 点の有意な向上 { $t(64)=-8.05$ }、指導後から単元後は 0.06 点の向上 { $t(64)=-0.48$ }、指導前から単元後は 1.19 点の有意な向上 { $t(64)=-7.04$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

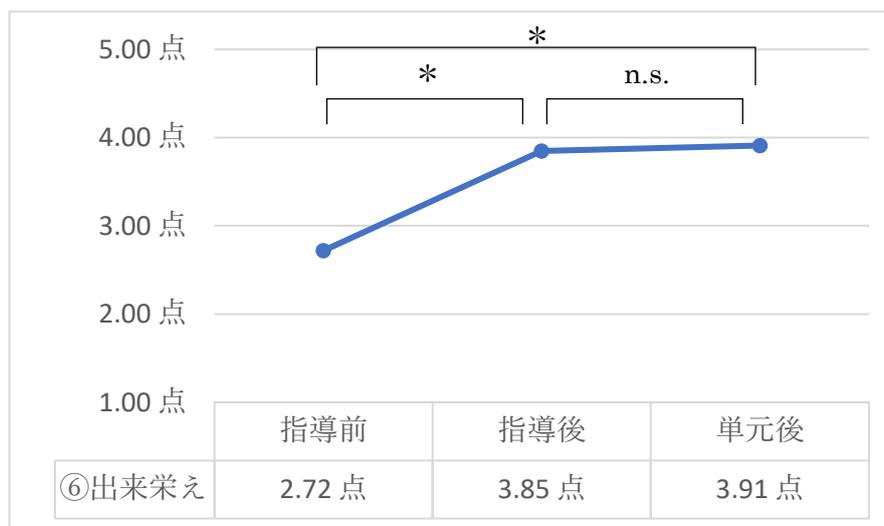


図 3-58 大内刈の出来栄に係る技能の推移 (* $p<.05$)

以上の結果から、大内刈の技能は単元を通して有意に向上し、そのうち 6 項目すべてが有意に向上した。大内刈は、まず基本の体さばきとくずしを意識することと、くずしは刈る足の方に相手の重心を持っていくことを強調して最初に指導した。生徒たちはくずしが重要であることは理解しているが体さばきにより意識がいったため、くずしを実践できている生徒は少なかった。そのため、指導前の体さばきの点数は、他の項目と比べて高く、くずしは低かったと考えられる。また、指導前は大内刈のやり方に自信がなく恐る恐る投げていた生徒が多かったが、指導後は大内刈の正しいやり方やコツを教えてもらって、自信をもって勢いよく投げている生徒が多かった。このような生徒の様子から、出来栄の向上につながったと考えられる。授業後と単元後を比較すると、技のかけ方には有意な向上があり、その他は変化が見られなかった。このことから、教え合い活動で習得した大内刈の技能は維持できており、技能の定着を図ることができたといえる。更に、単元後には体さばきの点数は 4.5 点近くあり、生徒のほとんどが投げ技の基本である体さばきをできるようになったことが伺える。

3.3.2 小内刈

小内刈に係る総合的な技能の分析結果は図 3-59 の通りである。小内刈に係る総合的な技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 8.01 点の有意な向上 $\{t(61)=-14.10\}$ 、指導後から単元後は 1.58 点の有意な低下 $\{t(61)=3.85\}$ 、指導前から単元後は 6.43 点の有意な向上 $\{t(61)=-9.49\}$ が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では一定の低下が見られた。

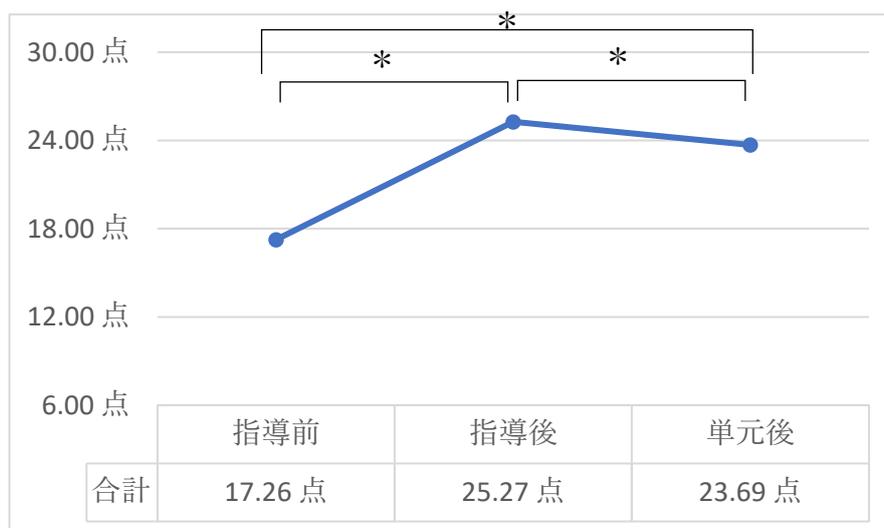


図 3-59 小内刈に係る総合的な技能の推移 (* $p<.05$)

小内刈のくずしに係る技能の分析結果は図 3-60 の通りである。小内刈のくずしに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.68 点の有意な向上 $\{t(61)=-9.21\}$ 、指導後から単元後は 0.47 点の有意な低下 $\{t(61)=2.70\}$ 、指導前から単元後は 1.21 点の有意な向上 $\{t(61)=-5.73\}$ が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では一定の低下が見られた。

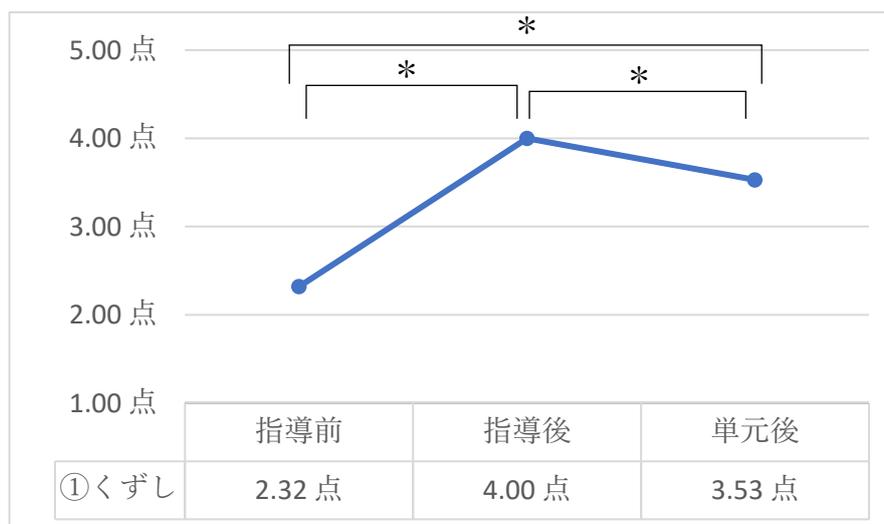


図 3-60 小内刈のくずしに係る技能の推移 (*p<.05)

小内刈の手さばきに係る技能の分析結果は図 3-61 の通りである。小内刈の手さばきに係る技能、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.85 点の有意な向上 { $t(61)=-10.51$ }、指導後から単元後は 0.08 点の低下 { $t(61)=0.96$ }、指導前から単元後は 1.77 点の有意な向上 { $t(61)=-10.56$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

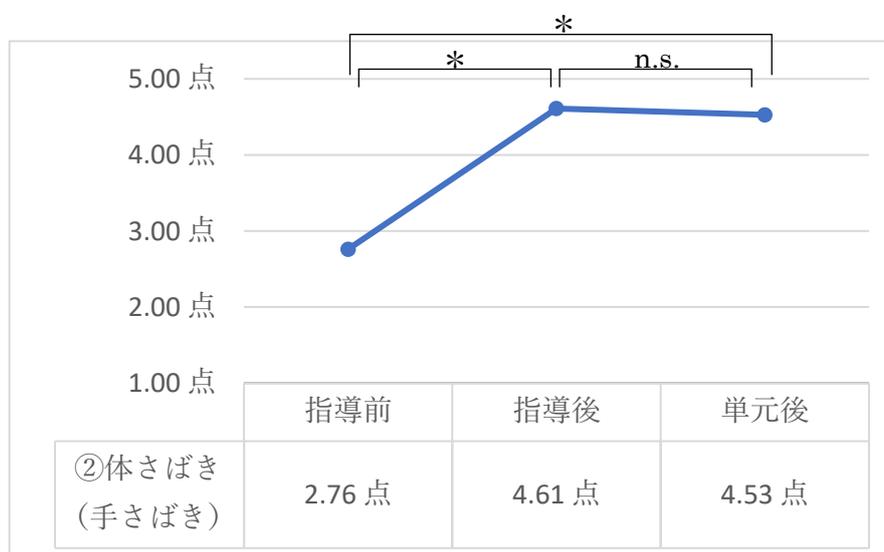


図 3-61 小内刈の手さばきに係る技能の推移 (*p<.05)

小内刈の足さばきに係る技能の分析結果は図 3-62 の通りである。小内刈の足さばきに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.03 点の有意な向上 { $t(61)=-4.61$ }、指導後から単元後は 0.03 点の低下 { $t(61)=0.16$ }、指導前から単元後は 1 点の有意な向上 { $t(61)=-4.06$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

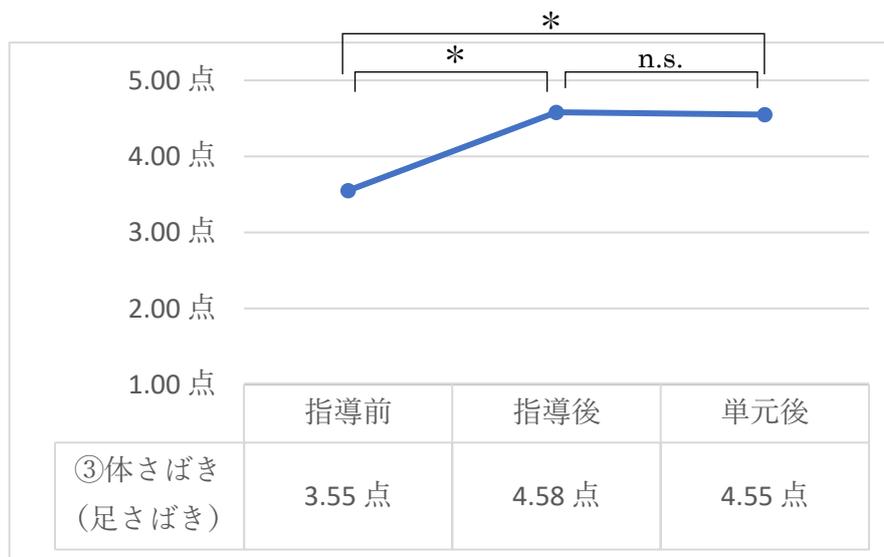


図 3-62 小内刈の足さばきに係る技能の推移 (* $p<.05$)

小内刈のタイミングに係る技能の分析結果は図 3-63 の通りである。小内刈のタイミングに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.16 点の有意な向上 { $t(61)=-7.35$ }、指導後から単元後は 0.25 点の低下 { $t(61)=1.76$ }、指導前から単元後は 0.91 点の有意な向上 { $t(61)=-5.75$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

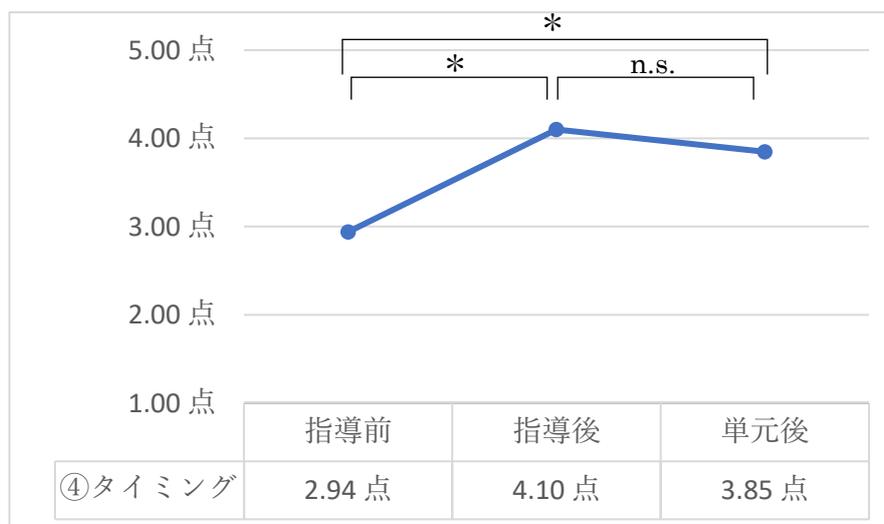


図 3-63 小内刈のタイミングに係る技能の推移 (* $p<.05$)

小内刈の技のかけ方に係る技能の分析結果は図 3-64 の通りである。小内刈の技のかけ方に係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 0.9 点の有意な向上 { $t(61)=-5.41$ }、指導後から単元後は 0.23 点の低下 { $t(61)=1.65$ }、指導前から単元後は 0.67 点の有意な向上 { $t(61)=-3.43$ } が見られた。指導前と指導後では技能が向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

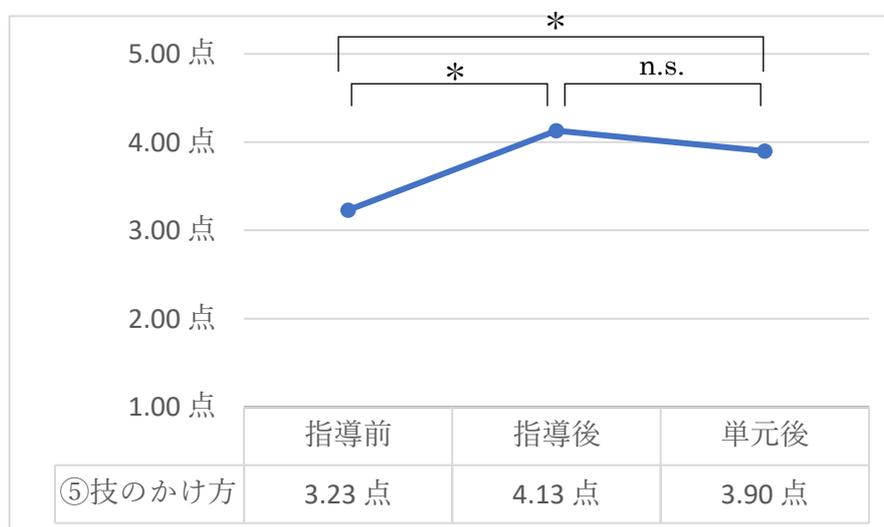


図 3-64 小内刈の技のかけ方に係る技能の推移 (* $p<.05$)

小内刈の出来栄に係る技能の分析結果は図 3-65 の通りである。小内刈の出来栄に係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.38 点の有意な向上 { $t(61)=-10.60$ }、指導後から単元後は 0.53 点の有意な低下 { $t(61)=4.75$ }、指導前から単元後は 0.85 点の有意な向上 { $t(61)=-6.04$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では一定の低下が見られた。

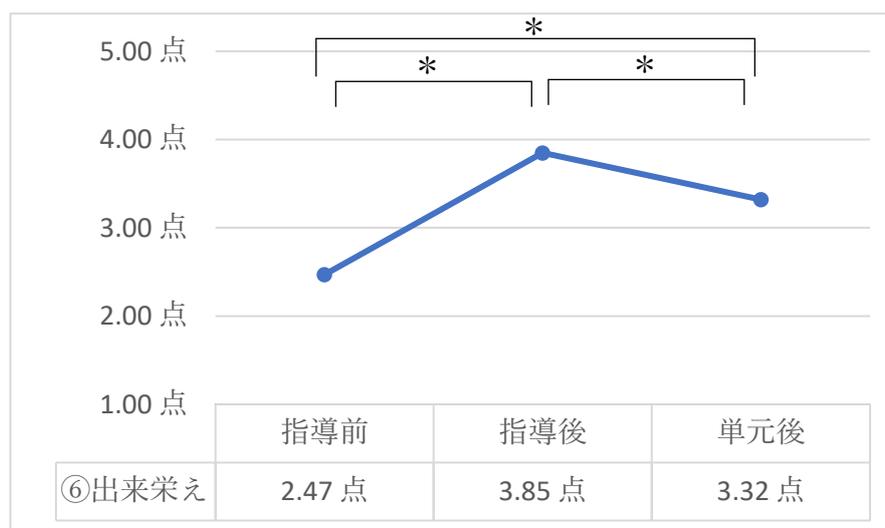


図 3-65 小内刈の出来栄に係る技能の推移 (* $p<.05$)

以上の結果から、小内刈の技能は単元を通して有意に向上し、そのうち 6 項目すべてが有意に向上した。小内刈は、大内刈と同様にまず基本の体さばきとくずしを意識することと、くずしは刈る足の方に相手の重心を持っていくことを強調して最初に指導した。生徒たちはくずしが重要であることは理解しているが体さばきにより意識がいったため、くずしを実践できている生徒は少なかった。また、足さばきは大内刈と同じだが、手さばきは大内刈と反対であることから、頭の中でそれらがごっちゃになり手さばきのやり方を間違えている生徒の様子が伺えた。そのため、指導前の足さばきの点数は、他の項目と比べて高く、手さばきとくずしは低かったと考えられる。また、指導前は小内刈のやり方に自信がなく恐る恐る投げていた生徒が多かったが、指導後は小内刈の正しいやり方やコツを教えてもらって、自信をもって勢いよく投げていた生徒が多かった。このような生徒の様子から、出来栄の有意な向上につながったと考えられる。授業後と単元後を比較すると、くずし、出来栄に有意な低下が、総合的にも有意な低下が見られた。これは、大内刈とやり方が似ているため、頭の中で正確に整理できていなかったことや、それによる自信の低下で迷いが生まれて技の勢いが低下したことが原因であると生徒の様子から推測される。しかし、単元後には体さばきの点数は 4.5 点近くあり、生徒のほとんどが投げ技の基本である体さばきをできるようになったことが伺える。

3.3.3 支釣込足

支釣込足に係る総合的な技能の分析結果は図 3-66 の通りである。支釣込足に係る総合的な技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 6.93 点の有意な向上 { $t(64)=-12.34$ }、指導後から単元後は 0.5 点の低下 { $t(64)=1.18$ }、指導前から単元後は 6.43 点の有意な向上 { $t(64)=-10.26$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

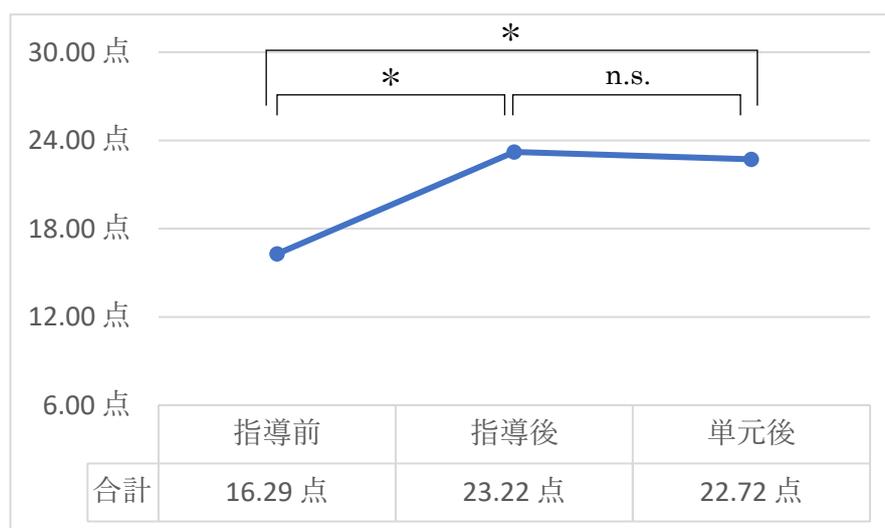


図 3-66 支釣込足に係る総合的な技能の推移 (* $p<.05$)

支釣込足のくずしに係る技能の分析結果は図 3-67 の通りである。支釣込足のくずしに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.56 点の有意な向上 { $t(64)=-9.22$ }、指導後から単元後は 0.05 点の低下 { $t(64)=0.30$ }、指導前から単元後は 1.51 点の有意な向上 { $t(64)=-7.99$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

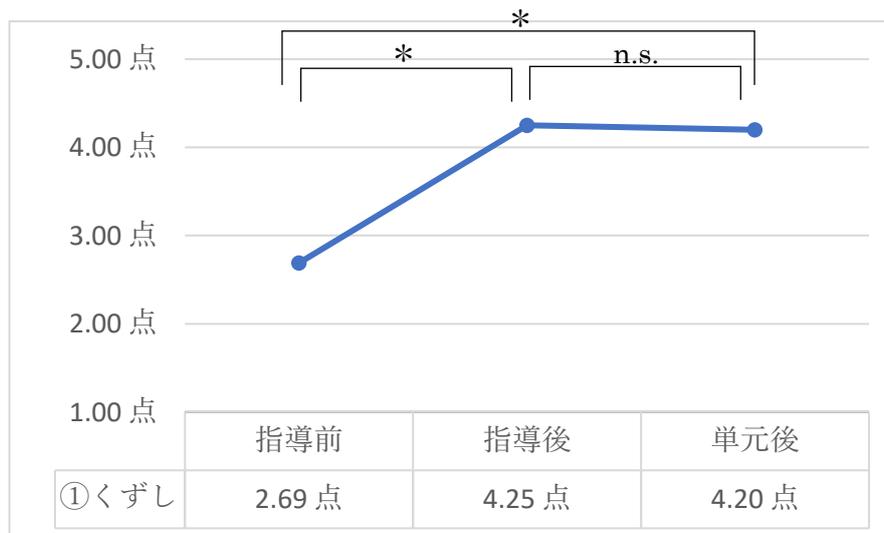


図 3-67 支釣込足のくずしに係る技能の推移 (* $p < .05$)

支釣込足の手さばきに係る技能の分析結果は図 3-68 の通りである。支釣込足の手さばきに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.43 点の有意な向上 { $t(64)=-8.57$ }、指導後から単元後は 0.09 点の低下 { $t(64)=0.86$ }、指導前から単元後は 1.34 点の有意な向上 { $t(64)=-7.23$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

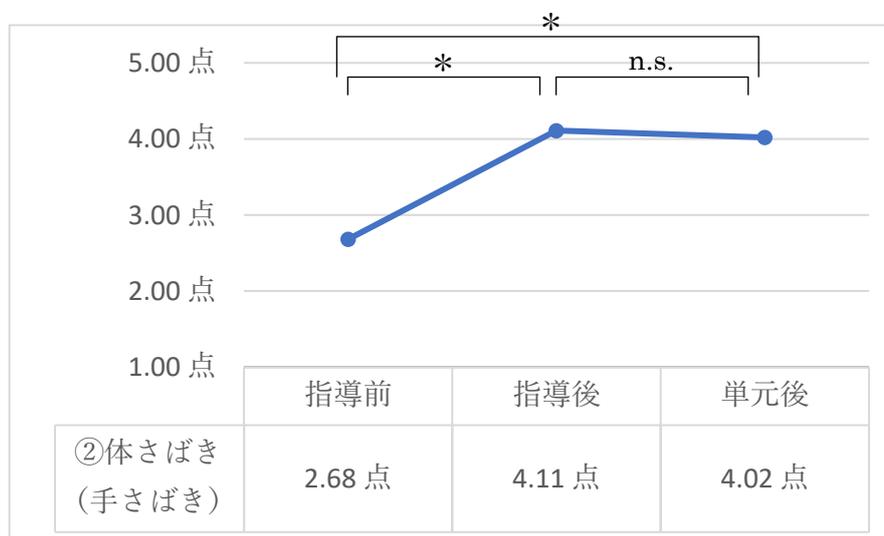


図 3-68 支釣込足の手さばきに係る技能の推移 (* $p < .05$)

支釣込足の足さばきに係る技能の分析結果は図 3-69 の通りである。支釣込足の足さばきに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 0.77 点の有意な向上 { $t(64)=-5.71$ }、指導後から解説動画は 0.08 点の低下 { $t(64)=0.82$ }、指導前から解説動画は 0.69 点の有意な向上 { $t(64)=-5.20$ } が見られた。指導前と指導後では技能が向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から解説動画では大きな変化は見られなかった。

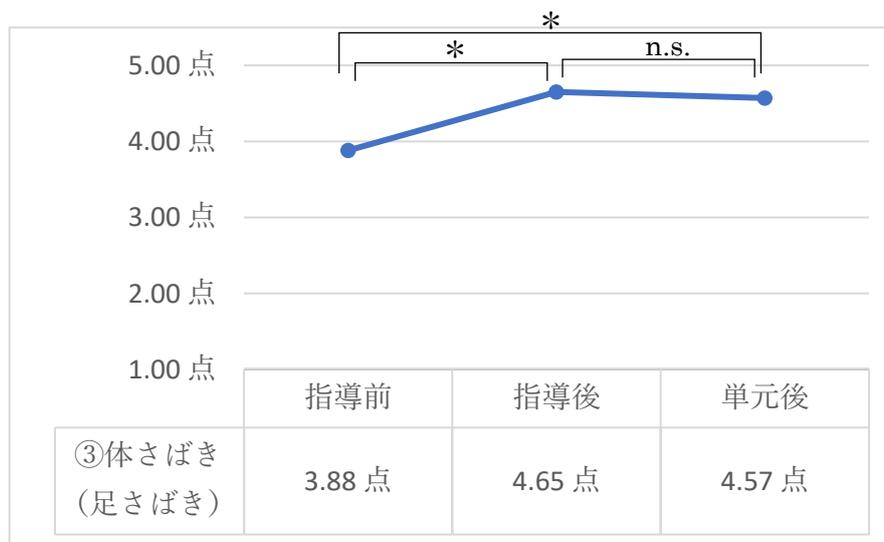


図 3-69 支釣込足の足さばきに係る技能の推移 (* $p<.05$)

支釣込足のタイミングに係る技能の分析結果は図 3-70 の通りである。支釣込足のタイミングに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.2 点の有意な向上 { $t(64)=-9.22$ }、指導後から単元後は 0.03 点の低下 { $t(64)=0.22$ }、指導前から単元後は 1.17 点の有意な向上 { $t(64)=-8.59$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

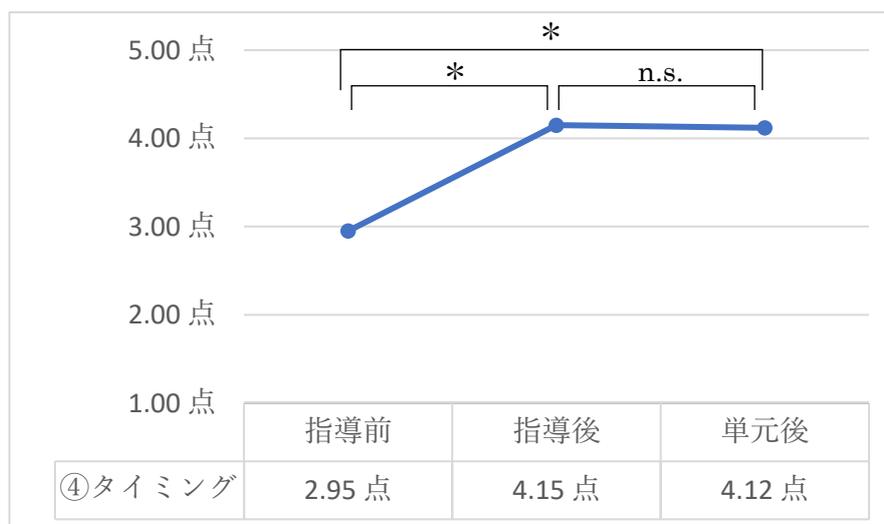


図 3-70 支釣込足のタイミングに係る技能の推移 (* $p < .05$)

支釣込足の技のかけ方に係る技能の分析結果は図 3-71 の通りである。支釣込足の技のかけ方に係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 0.63 点の有意な向上 { $t(64)=-5.04$ }、指導後から単元後は 0.02 点の低下 { $t(64)=0.13$ }、指導前から単元後は 0.61 点の有意な向上 { $t(64)=-4.84$ } が見られた。指導前と指導後では技能が向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

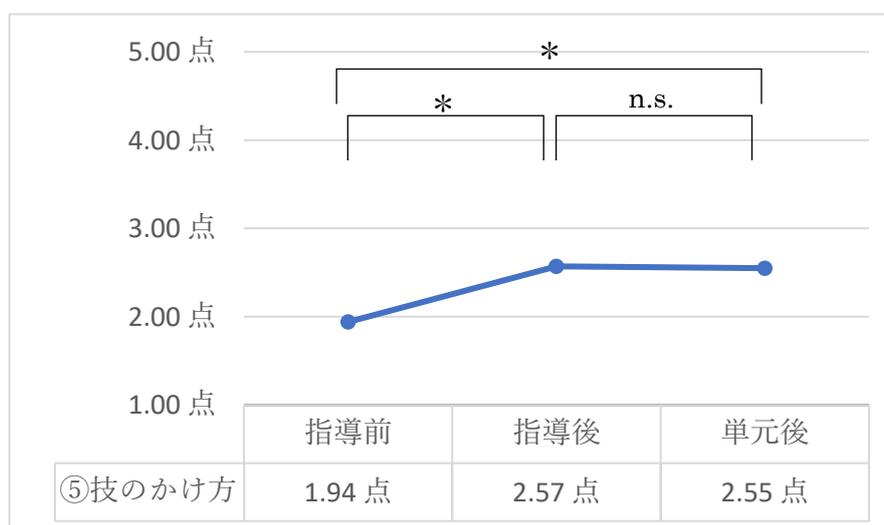


図 3-71 支釣込足の技のかけ方に係る技能の推移 (* $p < .05$)

支釣込足の出来栄に係る技能の分析結果は図 3-72 の通りである。支釣込足の出来栄に係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.34 点の有意な向上 { $t(64)=-8.00$ }、指導後から単元後は 0.23 点の低下 { $t(64)=1.71$ }、指導前から単元後は 1.11 点の有意な向上 { $t(64)=-6.68$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

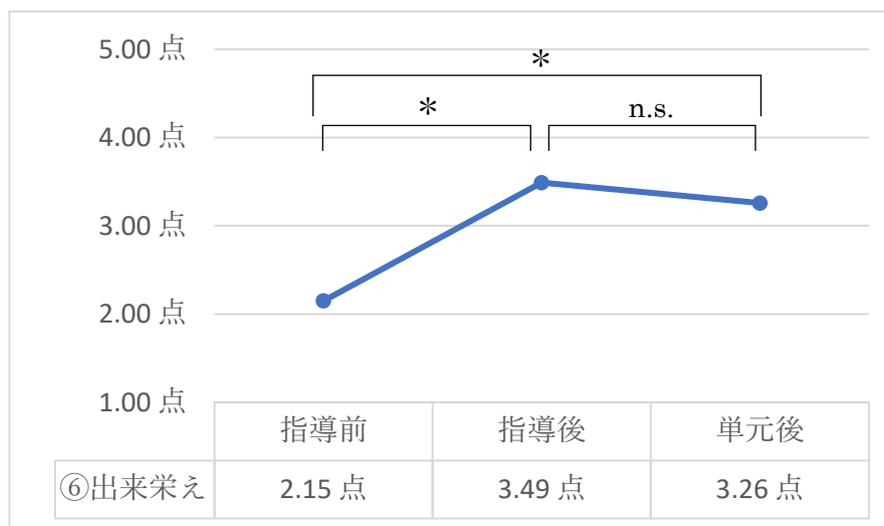


図 3-72 支釣込足の出来栄に係る技能の推移 (* $p<.05$)

以上の結果から、支釣込足の技能は単元を通して有意に向上し、そのうち 6 項目すべてが有意に向上した。支釣込足は、まず基本の体さばきとくずしを意識することと、くずしは相手の重心を前方に持っていくことを強調して最初に指導した。生徒たちはくずしが重要であることは理解しているが体さばきにより意識がいったため、くずしを実践できている生徒は少なかった。また、手さばきは釣り手と引き手がそれぞれ別の動かし方をするため、両方同時に動かすことが難しく、片方しかできていない生徒が多かった。そのため、指導前の足さばきの点数は、他の項目と比べて高く、手さばきとくずしは低かったと考えられる。また、指導前は支釣込足のやり方に自信がなく恐る恐る投げていた生徒が多かったが、指導後は支釣込足の正しいやり方やコツを教えてもらって、自信をもって勢いよく投げている生徒が多かった。このような生徒の様子から、出来栄の有意な向上につながったと考えられる。授業後と単元後と比較すると、6 項目すべてに変化が見られなかった。このことから、教え合い活動で習得した支釣込足の技能は維持できていると、技能の定着を図ることができたといえる。更に、単元後にはくずしの点数が 4 点を超え、多くの生徒が投げ技で重要とされるくずしをできるようになったことが伺える。

3.3.4 内股

内股に係る総合的な技能の分析結果は図 3-73 の通りである。内股に係る総合的な技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 6.25 点の有意な向上 $\{t(59)=-10.48\}$ 、指導後から単元後は 0.04 点の向上 $\{t(59)=-0.05\}$ 、指導前から単元後は 6.29 点の有意な向上 $\{t(59)=-9.70\}$ が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

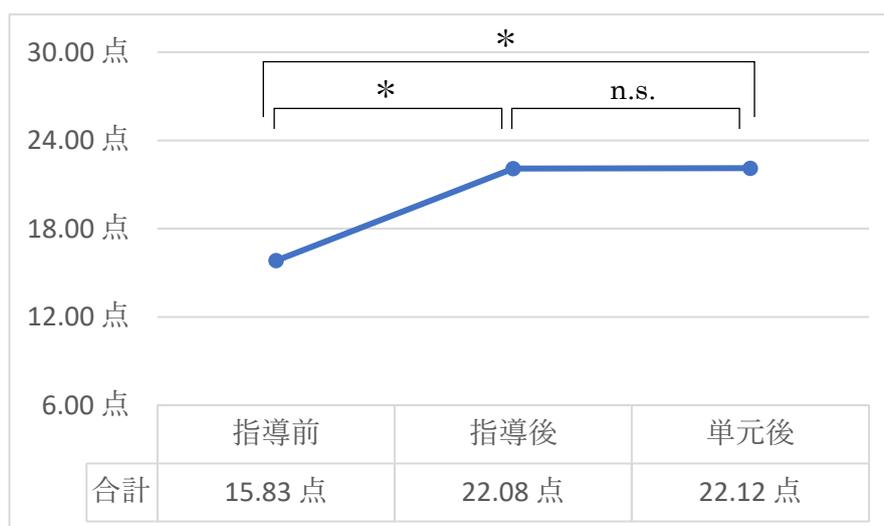


図 3-73 内股に係る総合的な技能の推移 (* $p<.05$)

内股のくずしに係る技能の分析結果は図 3-74 の通りである。内股のくずしに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.45 点の有意な向上 $\{t(59)=-7.22\}$ 、指導後から単元後は 0.1 点の向上 $\{t(59)=-0.50\}$ 、指導前から単元後は 1.55 点の有意な向上 $\{t(59)=-7.14\}$ が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

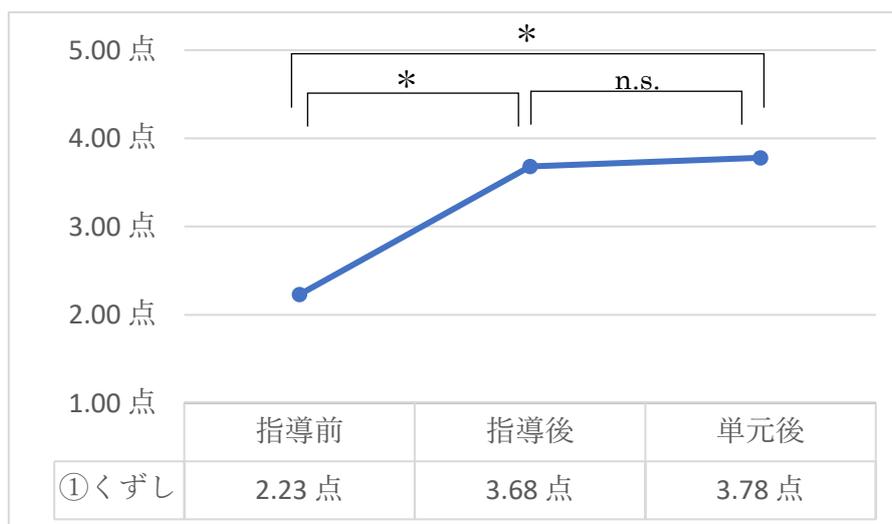


図 3-74 内股のくずしに係る技能の推移 (* $p < .05$)

内股の手さばきに係る技能の分析結果は図 3-75 の通りである。内股の手さばきに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 0.92 点の有意な向上 { $t(59) = -5.55$ }、指導後から単元後は 0.34 点の有意な低下 { $t(59) = 2.08$ }、指導前から単元後は 0.58 点の有意な向上 { $t(59) = -3.01$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では一定の低下が見られた。

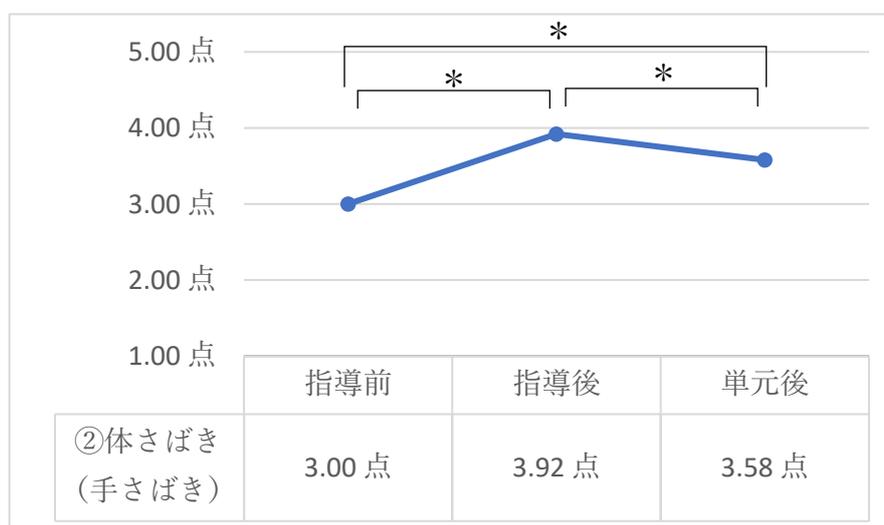


図 3-75 内股の手さばきに係る技能の推移 (* $p < .05$)

内股の足さばきに係る技能の分析結果は図 3-76 の通りである。内股の足さばきに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 0.92 点の有意な向上 { $t(59)=-5.49$ }、指導後から単元後は 0.28 点の有意な向上 { $t(59)=-2.10$ }、指導前から単元後は 1.2 点の有意な向上 { $t(59)=-7.23$ } が見られた。指導前と指導後、指導後と単元後共に技能が向上し、単元を通して技能の向上が見られる。

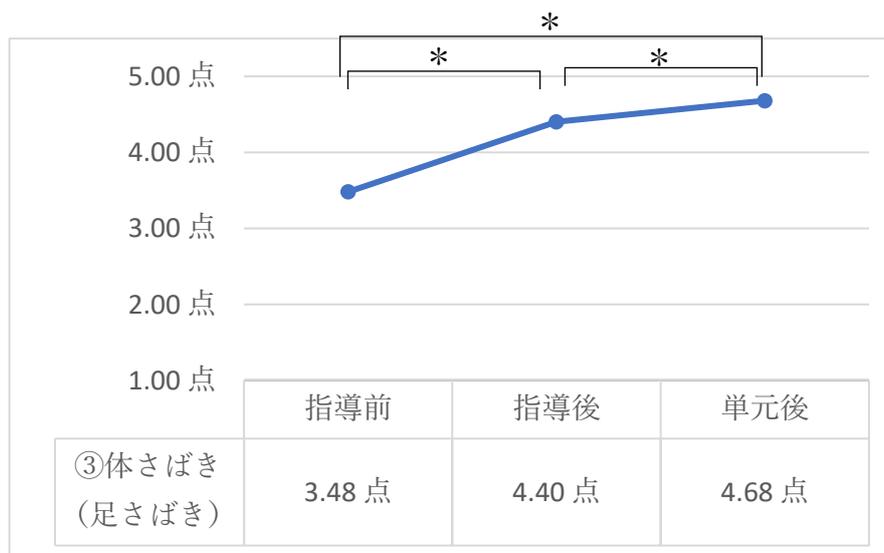


図 3-76 内股の足さばきに係る技能の推移 (* $p<.05$)

内股のタイミングに係る技能の分析結果は図 3-77 の通りである。内股のタイミングに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 0.57 点の有意な向上 { $t(59)=-3.71$ }、指導後から単元後は 0.08 点の向上 { $t(59)=-0.52$ }、指導前から単元後は 0.65 点の有意な向上 { $t(59)=-4.39$ } が見られた。指導前と指導後では技能が向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

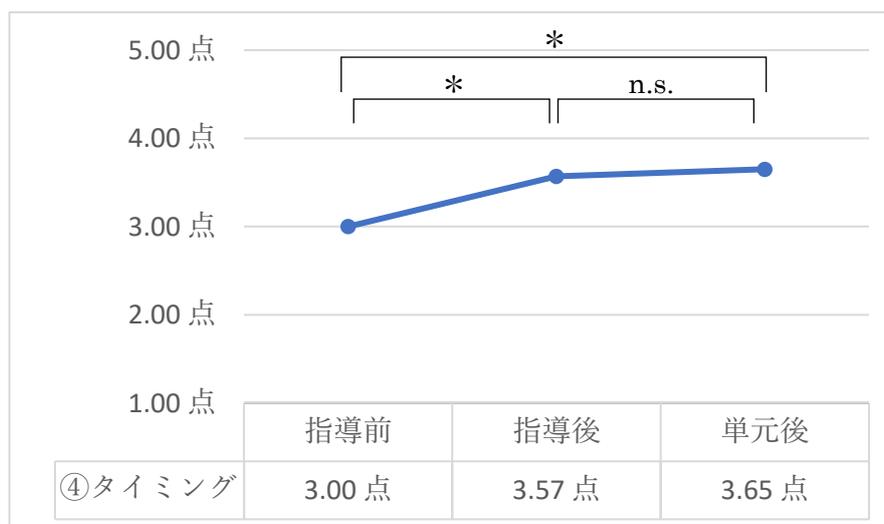


図 3-77 内股のタイミングに係る技能の推移 (* $p < .05$)

内股の技のかけ方に係る技能の分析結果は図 3-78 の通りである。内股の技のかけ方に係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.21 点の有意な向上 { $t(59) = -6.77$ }、指導後から単元後は 0.05 点の低下 { $t(59) = 0.27$ }、指導前から単元後は 1.16 点の有意な向上 { $t(59) = -4.95$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

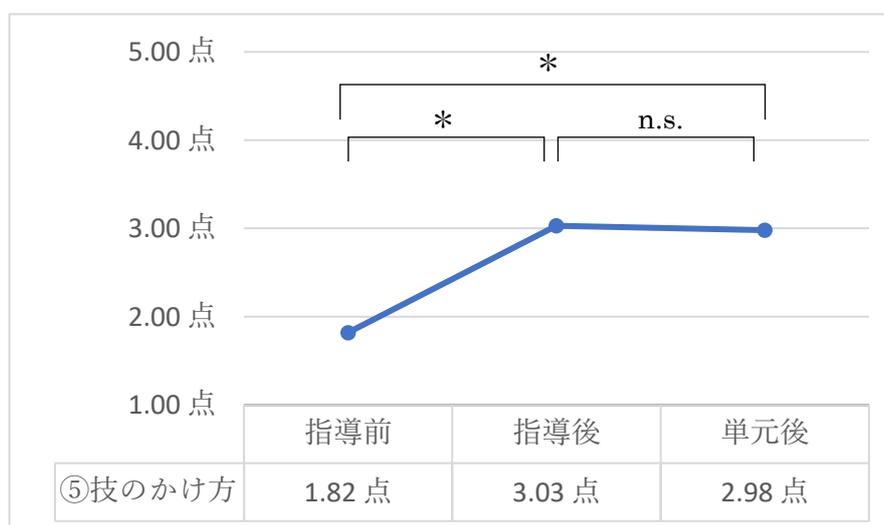


図 3-78 内股の技のかけ方に係る技能の推移 (* $p < .05$)

内股の出来栄えに係る技能の分析結果は図 3-79 の通りである。内股の出来栄えに係る技能を、授業の最初（指導前）と最後（指導後）、解説動画を撮影した 7 時間目（単元後）で比較した。指導前から指導後は 1.18 点の有意な向上 { $t(59)=-8.48$ }、指導後から単元後は 0.05 点の低下 { $t(59)=0.42$ }、指導前から単元後は 1.13 点の有意な向上 { $t(59)=-7.59$ } が見られた。指導前と指導後では技能が大きく向上し、単元を通して技能の向上が見られる。しかし、指導後から単元後では大きな変化は見られなかった。

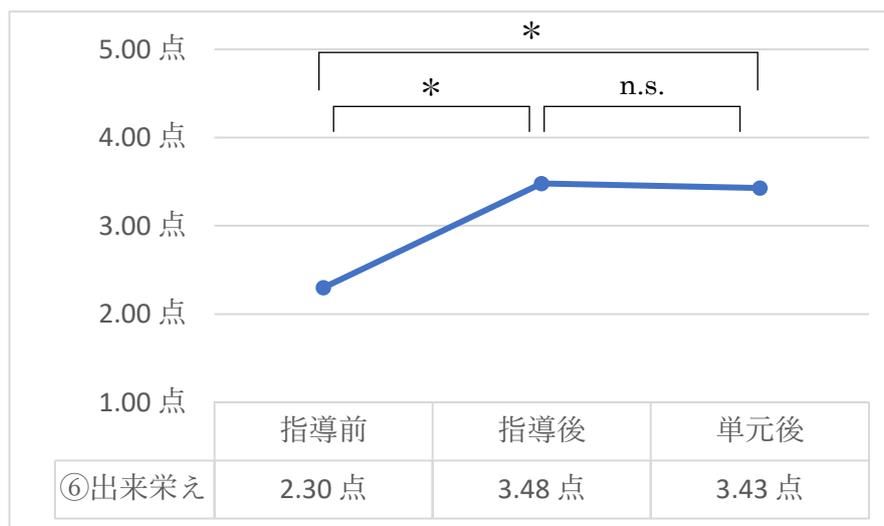


図 3-79 内股の出来栄えに係る技能の推移 (* $p<.05$)

以上の結果から、内股の技能は単元を通して有意に向上し、そのうち 6 項目すべてが有意に向上した。内股は、他の技と同様にまず基本の体さばきとくずしを意識することを指導したが、それに加えて、自分の腰に相手を乗せて背負うように投げることを強調して最初に指導した。生徒たちはくずしと相手を腰に乗せることが重要であることは理解しているが体さばきにより意識がいていたため、くずしと相手を腰に乗せることを実践できている生徒は少なかった。そのため、指導前の体さばきの点数は、他の項目と比べて高く、くずしと技のかけ方は低かったと考えられる。また、指導前は内股のやり方に自信がなく恐る恐る投げていた生徒が多かったが、指導後は内股の正しいやり方やコツを教えてもらって、自信をもって勢いよく投げていた生徒が多かった。このような生徒の様子から、出来栄えの有意な向上につながったと考えられる。授業後と単元後を比較すると、内股の合計はほとんど変化が見られなかった。このことから、教え合い活動で習得した内股の技能のほとんど維持できており、技能の定着を図ることができたといえる。しかし、足さばきには有意な向上が見られる一方で、手さばきには有意な低下が見られた。これは、相手を自分の腰に乗せるために、相手に密着しながら足さばきをする意識が向上し、それに反して手さばきの意識が少し低下したことが原因であると生徒の様子から推測される。

3.4 「表現力」と「技能」の関係性の結果と考察

投げ技ごとの技の表現力と技能の相関係数を算出したものが表 3-3 である。単元終了後に撮影した解説動画をもとに表現力と技能の相関関係を分析した。4つ全ての技の表現力と技能の相関係数は $r=0.32$ と有意な正の相関がみられた。大内刈の表現力と技能の相関係数は $r=0.50$ と有意な正の相関がみられた。小内刈の表現力と技能の相関係数は $r=0.35$ と有意な正の相関がみられた。支釣込足の表現力と技能の相関係数は $r=0.15$ とほとんど相関がみられなかった。内股の表現力と技能の相関係数は $r=0.38$ と有意な正の相関がみられた。

以上の結果から、技によってはほとんど相関がみられないものもあったが、総合して、表現力の向上は技能の向上につながると考えることができる。また、大内刈、内股、小内刈、支釣込足の順に表現力と技能の相関が強いことが分かる。これは技の特性が関係しているのではないかと考える。1年次に学習した8つの投げ技を形が似ている技ごとに分類すると、大内刈・小内刈・大外刈、内股・背負い投げ・体落・大腰、支釣込足の3つに分けられる。そのため、支釣込足だけ技の形が独立しており、生徒にとって技のイメージが難しく、支釣込足の技を似た技から連想することができなかつたと考えられる。授業中、技を教える際に、他の似た技を引き合いに出して説明している様子も多々みられた。特に、支釣込足ではそれが難しく、技能は向上したけど他の似た技と連想ができないから表現があまりできない生徒や、理屈は理解して言葉にはできるけど他の似た技と連想ができないから技能が追いついてこない生徒などが顕著に現れたのではないかと推測される。

表3-3 表現力の効果

	総合	大内刈	小内刈	支釣込足	内股
相関係数(r)	.32*	.50*	.35*	.15	.38*

* $p<.05$ (両側)

3.5 形成的授業評価の結果と考察

形成的授業評価の分析結果は表 3-4、図 3-80 の通りである。成果、意欲・関心、学び方、協力、総合に分類し、2 時間目と 3 時間目、3 時間目と 4 時間目、4 時間目と 5 時間目、5 時間目と 6 時間目、6 時間目と 7 時間目、2 時間目と 7 時間目で比較した。

「総合」はそれぞれ 0.06 点の有意な向上 $\{t(51)=-2.35\}$ 、0.01 点の向上 $\{t(51)=-0.42\}$ 、0.01 点の向上 $\{t(51)=-0.33\}$ 、0.05 点の低下 $\{t(51)=1.50\}$ 、0.03 点の向上 $\{t(51)=-0.71\}$ 、0.06 点の向上 $\{t(51)=-1.80\}$ が見られた。

「成果」はそれぞれ 0.1 点の有意な向上 $\{t(51)=-2.22\}$ 、変化なし $\{t(51)=4.04E-16\}$ 、0.03 点の向上 $\{t(51)=-1.00\}$ 、0.06 点の低下 $\{t(51)=1.46\}$ 、変化なし $\{t(51)=-0.11\}$ 、0.07 点の向上 $\{t(51)=-1.20\}$ が見られた。

「意欲・関心」はそれぞれ 0.02 点の低下 $\{t(51)=0.53\}$ 、0.05 点の向上 $\{t(51)=-1.53\}$ 、0.02 点の向上 $\{t(51)=-0.81\}$ 、0.07 点の低下 $\{t(51)=1.63\}$ 、0.05 点の向上 $\{t(51)=-1.09\}$ 、0.03 点の向上 $\{t(51)=-0.83\}$ が見られた。

「学び方」はそれぞれ 0.13 点の有意な向上 $\{t(51)=-2.71\}$ 、0.03 点の低下 $\{t(51)=0.83\}$ 、0.03 点の低下 $\{t(51)=0.60\}$ 、0.05 点の低下 $\{t(51)=1.23\}$ 、0.06 点の向上 $\{t(51)=-1.15\}$ 、0.08 点の向上 $\{t(51)=-1.64\}$ が見られた。

「協力」はそれぞれ 0.02 点の向上 $\{t(51)=-0.53\}$ 、0.02 点の向上 $\{t(51)=-0.81\}$ 、0.01 点の低下 $\{t(51)=0.57\}$ 、0.01 点の低下 $\{t(51)=0.30\}$ 、0.01 点の向上 $\{t(51)=-0.30\}$ 、0.03 点の向上 $\{t(51)=-0.90\}$ が見られた。

単元を通して総合的に変化せず、そのうち「成果」、「意欲・関心」、「学び方」、「協力」も全て変化しなかった。1 時間ごと見ても、全体的に高い数値であり、ほとんど変化が見られなかった。特に、3 時間目から 6 時間目にかけて 1 つも変化しなかった。これは、授業の内容が毎回同じだったことが原因であると考えられる。3 時間目から 6 時間目の活動内容は、取り扱う技、ペア以外は全く同じ内容であった。しかし、2 時間目から 3 時間目は授業の活動内容が異なり、2 時間目から 3 時間目にかけて「総合」、「成果」、「学び方」が有意に向上している。そのため、3 時間目から 6 時間目は生徒からしたら全く同じような授業が 4 時間続くような感覚に陥っていた可能性があり、生徒の学習意欲を削いでいたことが考えられる。

表3-4 形成的授業評価の結果

	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	7-2時間目
成果	2.80	2.90*	2.90	2.93	2.87	2.87	0.07
意欲・関心	2.93	2.91	2.96	2.98	2.91	2.96	0.03
学び方	2.83	2.96*	2.93	2.90	2.85	2.91	0.08
協力	2.95	2.97	2.99	2.98	2.97	2.98	0.03
総合	2.87	2.93*	2.94	2.95	2.90	2.93	0.06

(*p<.05)

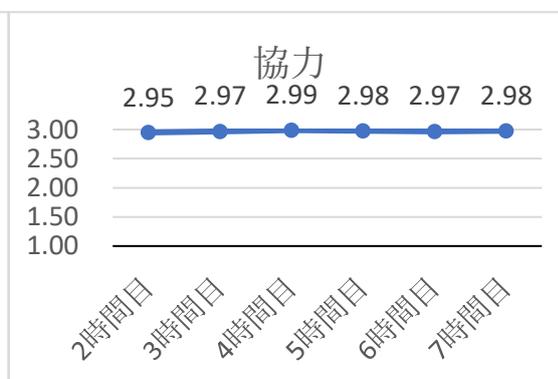
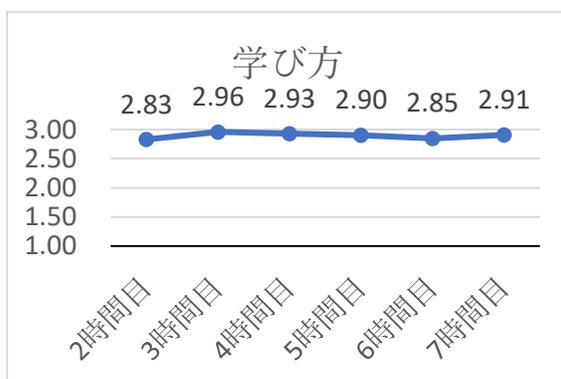
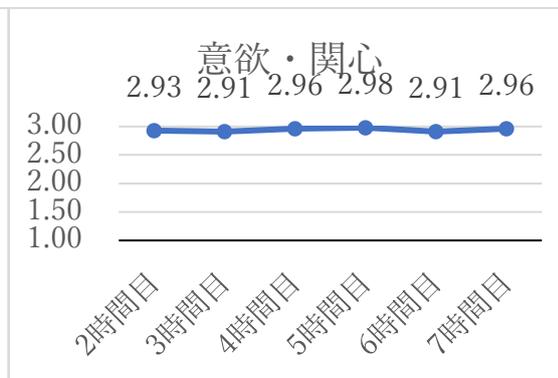
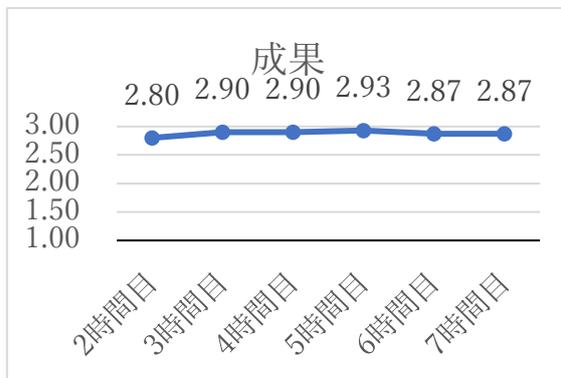
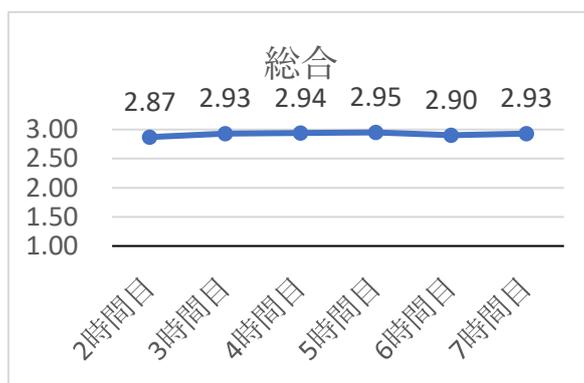


図 3-80 形成的授業評価の結果

その他にも、独自で生徒の表現力について質問を作成し、毎時間アンケート調査を行った。表現力についての質問調査の内容は表 3-5、分析結果は表 3-6、図 3-81 の通りである。表現①、表現②、表現③、表現④について、2 時間目と 3 時間目、3 時間目と 4 時間目、4 時間目と 5 時間目、5 時間目と 6 時間目、6 時間目と 7 時間目、2 時間目と 7 時間目で比較し、t 検定を行った。

表現①はそれぞれ 0.09 点の向上 $\{t(51)=-1.94\}$ 、0.07 点の低下 $\{t(51)=1.16\}$ 、変化なし $\{t(51)=0\}$ 、0.09 点の向上 $\{t(51)=-1.53\}$ 、0.04 点の低下 $\{t(51)=0.63\}$ 、0.07 点の向上 $\{t(51)=-1.43\}$ が見られた。

表現②はそれぞれ 0.14 点の向上 $\{t(51)=-2.00\}$ 、0.02 点の低下 $\{t(51)=0.30\}$ 、0.05 点の向上 $\{t(51)=-1.00\}$ 、0.06 点の低下 $\{t(51)=-1.00\}$ 、0.09 点の低下 $\{t(51)=1.53\}$ 、0.14 点の向上 $\{t(51)=-1.73\}$ が見られた。

表現③はそれぞれ 0.11 点の向上 $\{t(51)=-1.77\}$ 、変化なし $\{t(51)=0\}$ 、0.02 点の向上 $\{t(51)=-0.57\}$ 、0.08 点の低下 $\{t(51)=1.43\}$ 、0.1 点の向上 $\{t(51)=-1.94\}$ 、0.15 点の有意な向上 $\{t(51)=-2.68\}$ が見られた。

表現④はそれぞれ 0.23 点の有意な向上 $\{t(51)=-2.47\}$ 、0.08 点の向上 $\{t(51)=-0.75\}$ 、0.04 点の向上 $\{t(51)=-0.42\}$ 、0.07 点の向上 $\{t(51)=-1.43\}$ 、0.09 点の低下 $\{t(51)=1.15\}$ 、0.33 点の有意な向上 $\{t(51)=-4.03\}$ が見られた。

全体的に高い数値であった。2 時間目の数値が高かったためあまり大きな変化は見られな
いが、質問③と④では 2 時間目から 7 時間目にかけて有意な向上が見られた。自分の表現
力に自信がついている様子や、他者からの表現力における評価が向上していることから、生
徒の表現力が向上したことがいえる。また、毎時間高い数値で変化しなかったことから、高
まった生徒の表現力を維持することができたといえる。

表 3-5 表現力についての質問内容

質問	内容
表現①	友達に自分の意見を分かりやすく伝えることができましたか。
表現②	投げ技を抽象的な表現ではなく、具体的な言葉で教えることはできましたか。
表現③	今日のペアの人の教え方は分かりやすかったですか。
表現④	自分の考えを相手に伝えることは得意ですか。

表3-6 表現力についての調査結果

	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	7-2時間目
表現①	2.83	2.92	2.85	2.85	2.94	2.90	0.07
表現②	2.71	2.85	2.83	2.88	2.94	2.85	0.14
表現③	2.85	2.96	2.96	2.98	2.90	3.00	0.15*
表現④	2.23	2.46*	2.54	2.58	2.65	2.56	0.33*

(*p<.05)



図 3-81 表現力についての調査結果

3.6 生徒による授業評価の結果と考察

生徒による授業の感想は表 3-7 の通りである。この生徒による授業評価は単元終了後に総括的授業評価と合わせて回答してもらったものである。「7回の授業を終えて、授業の感想や改善点（もっと～ほしい、～がいやでしたなど）があれば記入してください。」と任意の質問項目を作り、自由記述で記入させた。

挙げられた授業の感想には、良い授業だったという感想が多くみられ、その理由として既習技を取り上げていることや目標が明確であったことがある。1年次のときに学んだ4つの技（大内刈、小内刈、支釣込足、内股）を取り扱うことで、元の知識を活用しながら思考・判断することで新たな知識を生み出し、理解を深めることができ、良かったと感じているのだろう。また、毎時間目標を設定することで、1時間の見通しを立てることができ、授業に

取り組みやすかったと考えられる。他にも、良かった理由として、友達同士で教え合うのは記憶に残りやすいことや、自分では気づかなかったことを教えてもらえることなどがあり、ジグゾー法の視点を用いたグループ・ペア学習を展開したことの一定の成果が表れたことを示している。更に、柔道での自分の体の動きを原理的に考え、物理に関連付けていた生徒もおり、結果として、教科横断的な授業が展開することができていた。

しかし、生徒からの改善の声もあり、パソコンと紙の入力が面倒くさかったという感想があった。自分自身も本単元を終えて、生徒に課する作業量が非常に多かったと感じた。紙のワークシートに書き込んだり、1時間に2回動画を撮影したりとやることが多く、生徒の大変そうな様子が伺えた。また、解説動画を作る時間が短かったという感想もあり、本単元最後のまとめの時間配分や、やり方は今後考え直す必要がある。ワークシートの使い方や細かな内容などを見直して、生徒の負担を少しでも減らし、生徒が授業の本題に集中して取り組むことができるようにしなくてはならない。

表 3-7 生徒による授業の感想

生徒	感想
A	とても分かりやすく楽しい授業でした。ありがとうございました。
B	とても分かりやすかったです。
C	楽しかった。
D	タイマーがあったのでメリハリが付けやすかったです。集中が続きました。
E	楽しく上達できたので良かったです。
F	柔道技（既習技）の振り返りができて良かった。
G	理論、原理を学ぶきっかけとなって面白かった。物理に関連付けられた。
H	目標が明確でやりやすかった。動画をはりつけるのがシンプルになるといいと思う。紙にまとめる作業+友達に教えるので2回同じの確認でき、定着できたと思う。
I	自分では気づかなかったことを教えてもらえるのでめちゃくちゃ良かったです。個人的にはあの授業形式がベストです。
J	1年生のころ以来使わなかった技はすっかり忘れていたけど、再度説明してもらうことでよく理解できた。友達同士で教え合うのも、記憶に残りやすい感じでいいと思った。解説動画作成は少し難しいと感じた。
K	なかなか良い授業だった。
L	もっとしっかりお手本の動画を見て細部までこだわりたいかったです。
M	パソコンと紙の入力が面倒くさかったです。
N	作業が多く面倒くさかった。
O	解説動画を作る時間が短かった。

第4章 摘要

本研究では、保健体育科の課題を解決するため、習得した知識や技能を活用し、体の動きを自分の言葉で理解し、相手に正確に伝える能力「表現力」を養う授業を開発すること、また、それに加えて、表現力と技能との関係性も考察し、表現力の向上が技能習得の手段の1つになることを検証することを目的とした。

近年、子どもの教育において、学校で学んだことが子どもたちの未来へつなげる力になるよう「生きる力」が注目されるようになり、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に整理し、バランスよく育成していくこととされた。しかし、我が国の子どもたちの思考力・判断力・表現力等に課題が指摘され、体育においても、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等が課題として挙げられた。先行研究では、授業の目標や課題を明確化、ICT 機器や学習カードなどの活用、グループ編成の工夫、ジグゾー学習が思考力・判断力・表現力等の育成に役立っていることが成果として明らかになっている。しかし、ICT 機器や学習カードなどの使い方や表現力において自分の体の動きを具体的に言語化できていないといった課題が挙げられた。このことから、体の動きを自分の言葉で理解し、相手に正確に伝える能力「表現力」の育成に対しては、ジグゾー法の視点を取り入れたグループ学習、ペア学習に言語活動を組み込むことが有効であると推察された。

この先行研究を踏まえて、高校生を対象にジグゾー法の視点を取り入れた学習活動が表現力と技能の向上において有効な手段であるかを検証しようとした。対象は、高等学校2年生の柔道選択者89名で柔道単元(全7時間)であった。この単元では、毎時間ジグゾー法の視点を取り入れたグループ学習、ペア学習を展開し、ここで取り扱った大内刈・小内刈・支釣込足・内股の4つの技を対象に「表現力(投げ技ごと)」、「表現力(時間ごと)」、「技能」、「表現力と技能の関係性」を、それに加えて、授業を受けた生徒を対象に「診断的・総合的授業評価」、「形成的授業評価」、「生徒による授業評価」を分析した。これらの分析の結果、以下の点が明らかになった。

① 「表現力(投げ技ごと)」

- ・大内刈・小内刈・支釣込足・内股の4つの技に係る表現力は全て、有意に向上した。
- ・大内刈・小内刈・支釣込足はくずし・手さばき・足さばき・技のかけ方に係る表現力が有意に向上し、タイミング・出来栄えに係る表現力は変化しなかった。
- ・内股はくずし・手さばき・足さばき・技のかけ方・タイミングに係る表現力が有意に向上し、出来栄えに係る表現力は変化しなかった。
- ・大内刈・小内刈・支釣込足・内股のタイミング・出来栄えに係る表現力は全て、単元中と単元後共に低かった。

以上により、授業の回数を重ねるにつれ、投げ技の基本であるくずしや体さばき(手・足)、

技のかけ方の説明がより具体的になっていったことが伺えた。特に、内股は4つの技で最もタイミングが重要視されるため、生徒がタイミングをより意識していたことが、タイミングに係る表現力の向上につながったと考えられる。しかし、タイミング・出来栄に係る表現力は全て、単元中と単元後共に低かった。このことから、活動時間が短かったことや解説動画の時間が1分以内だったことから、紙に書く時間や説明する時間が短く、タイミングや出来栄の説明が後回しになったことが考えられた。

②「表現力（時間ごと）」

- ・表現力は単元を通して有意に向上し、そのうちくずし・手さばき・足さばき・タイミング・技のかけ方に係る表現力が有意に向上し、出来栄に係る表現力は変化しなかった。
- ・2時間目から5時間目はくずし・手さばき・足さばき・タイミング・技のかけ方・出来栄の点数は全て変化しなかった。
- ・タイミング・出来栄に係る表現力は、単元を通して他の項目より低かった。
- ・体さばき（手・足）の未記入率は緩やかに上昇し、タイミング、出来栄の未記入率は緩やかに低下した。
- ・2時間目と7時間目を比較すると、総合的な未記入率は低下し、そのうちくずし・手さばき・足さばき・タイミング・技のかけ方の未記入率が低下し、出来栄の未記入率は変化しなかった。
- ・2時間目から7時間目にかけて、毎時間、点数は向上しておらず、未記入率も向上していなかった。
- ・出来栄の未記入率は単元を通して高く、ほとんど変化は見られなかった。
- ・7時間目、体さばきと技のかけ方の未記入率が10%を切った。

以上により、単元を通して表現力は高まり、様々な観点から投げ技を表現する力も向上したといえた。また、単元を終えて、ほとんどの生徒が投げ技における体さばきと技のかけ方の重要性を理解していることがいえた。しかし、2時間目から5時間目にかけて点数、未記入率共に、あまり変化が見られなかった。これは毎時間の成長がなかったということではなく、作業量の多さに原因があると考えた。毎時間練習をしながら紙のワークシートに記入しなくてはならなかったことや、次回の技の説明の仕方を課題として出していたことから、ワークシートにあまり記入していない生徒や、もう完全に理解しているものはわざわざ書かず、新たな情報だけ記入している生徒の様子が伺えた。特に、体さばき（手・足）をわざわざワークシートには記入しなくて良いと思っている生徒が多いことが未記入率から伺えた。他にも、出来栄については、単に勢いについて重要であると考えた生徒が少なかったというわけではなく、投げ技において勢いが重要であることに生徒が気づいていなかったことが原因であると考えられた。

③「技能」

- ・大内刈・小内刈・支釣込足・内股の4つの技に係る技能は全て、単元を通して有意に向上し、くずし・手さばき・足さばき・タイミング・技のかけ方・出来栄に係る全ての技能が有意に向上した。
 - ・指導後から単元後にかけて、大内刈・支釣込足・内股に係る技能は変化しなかった。単元を通して、大内刈、支釣込足、内股の技能が定着したといえる。
 - ・指導後から単元後にかけて、小内刈に係る技能は有意に低下し、そのうち小内刈のくずし、出来栄に係る技能は有意に低下した。
 - ・大内刈・小内刈・支釣込足の体さばき(手・足)に係る技能は、単元後4点を超えていた。
- 以上により、単元を通して技能の向上、定着を図ることができた。特に出来栄の向上については、指導前はやり方に自信がなく恐る恐る投げていたが、指導後、単元後は正しいやり方やコツを教えてもらって、自信をもって勢いよく投げることができたと考えられた。また、生徒のほとんどが投げ技の基本である体さばき(手・足)をできるようになったことがいえた。しかし、小内刈に係る技能は、指導後から単元後にかけて有意に低下し、技能が定着したとは言えなかった。これは、小内刈が大内刈のやり方と似ているため、頭の中でやり方を正確に整理できていなかったことや、それによる自信の低下で迷いが生まれて技の勢いが低下したことが原因であると考えられた。

④「表現力と技能の関係性」

- ・技の表現力と技能には有意な正の相関がみられ、そのうち大内刈・小内刈・内股の表現力と技能には有意な正の相関がみられ、支釣込足の表現力と技能にはほとんど相関がみられなかった。
 - ・大内刈、内股、小内刈、支釣込足の順に表現力と技能の相関が強かった。
- 以上により、技によってはほとんど相関がみられないものもあったが、総合して、表現力の向上は技能の向上につながると考えることができた。また、大内刈、内股、小内刈、支釣込足の順に表現力と技能の相関が強いことが分かった。これは技の特性に関係があるのではないかと考えた。取り扱った技のうち、支釣込足だけ技の形が独立しており、支釣込足の技を他の似た技から連想することが難しい。そのため、技能は向上したが、他の似た技と連想ができないから表現があまりできない生徒や、理屈は理解して言葉にはできるが、他の似た技と連想ができないから技能が追いついてこない生徒などが顕著に現れたのではないかと推測された。

⑤「診断的・総括的授業評価」

- ・総合的に有意に向上し、そのうち「たのしむ(情意目標)」、「できる(運動目標)」、「まなぶ(認識目標)」が有意に向上し、「まもる(社会的行動目標)」は変化しなかった。

- ・「まもる（社会的行動目標）」は単元前から高く、単元後も高く推移した。
- ・単元後、柔道は好きですと回答した50%を超え、柔道が嫌いな生徒の数は減少した。
- ・単元後、技の理解、実践ができると回答した生徒の数が非常に増え、技の理解、実践共にできない生徒は0人になった。
- ・単元後、自分の得意技は支釣込足、大内刈、小内刈、内股のいずれかである生徒の数が増えた。
- ・ジグゾー法の視点を用いたグループ学習、ペア学習を通して、自分の表現力や技能における成長を感じることができた生徒が非常に多かった。
- ・対話を通してインプットとアウトプットを繰り返し、自分の中の知識や情報を整理することが、技能を高めるのに大事なことであると感じた生徒が非常に多かった。
- ・技能を高めることにワークシートは有効であり、ワークシートによって自分の成長を感じた生徒が非常に多かった。

以上により、毎時間の授業で、取り扱う技、ペアの組み合わせを変えたことや、柔道が苦手な生徒でも取り組みやすい学習形態にしたことが学習意欲の向上につながったと考えられた。また、この授業を通して、表現力や技能を高めることができたと感じた生徒が非常に多く、生徒自身が自分の成長を感じることができた授業であった。更に、ジグゾー法の視点を用いたグループ学習、ペア学習やワークシートの活用が、表現力や技能の向上に有効に作用したと考えられた。

⑥「形成的授業評価」

- ・単元を通して総合的に変化せず、そのうち「成果」、「意欲・関心」、「学び方」、「協力」も全て変化しなかった。
- ・1時間ごと見ても、全体的に高い数値であり、ほとんど変化が見られなかった。特に、3時間目から6時間目にかけて1つも変化しなかった。
- ・2時間目から3時間目にかけて「総合」、「成果」、「学び方」に有意な向上が見られた。
- ・2時間目から7時間目にかけて「今日のペアの人の教え方は分かりやすかったですか。」、「自分の考えを相手に伝えることは得意ですか。」の質問に有意な向上が見られた。

以上により、3時間目から6時間目の活動内容が、取り扱う技、ペア以外全く同じ内容であったことが形成的授業評価にあまり変化が見られなかった原因であると考えられた。しかし、単元を通して、自分の表現力に自信がついている様子や、他者からの表現力における評価も向上していたことから、生徒の表現力が向上したことが分かった。

⑦「生徒による授業評価」

- ・既習技を取り上げていることや目標が明確であったことが良かったとの感想があった。
- ・友達同士で教え合うのは記憶に残りやすいことや、自分では気づけなかったことを教えてもらえることが良かったとの感想があった。

- ・柔道での自分の体の動きを物理に関連付けている生徒がいた。
- ・chrome book と紙のワークシートの活用について、作業量が多く、面倒くさかったとの感想があった。
- ・解説動画を作る時間が短かったとの感想があった。

以上により、既存の知識を活用して思考・判断を促したことや、目標、課題を明確にして見通しを立て、授業に取り組みやすくしたことにより一定の成果が表れた。また、ジグゾー法の視点を用いたグループ・ペア学習を展開したことにより一定の成果が表れた。しかし、chrome book と紙のワークシートの活用方法や作業量、本単元活動時間の時間配分に課題が見られた。

このような①～⑦の結果を踏まえれば、以下の観点からジグゾー法の視点を取り入れた学習活動の方法的価値を評価できる。

- ・ジグゾー法は、体の動きを自分の言葉で理解し（思考・判断）、相手に正確に伝える能力「表現力」と柔道における運動技能の向上を図ることができる授業形態である。
- ・互いに技を教え合い、自分の中で整理された知識や情報を表現する機会が多く、表現力と技能に有意な正の相関が見られることから、表現力の育成は技能の向上に有効である。
- ・他者と話し合う機会や過去の自分と比較する機会が多く、生徒自身が自分の思考力や表現力、技能の成長を感じることで自己有能感の向上に有効な授業形態である。
- ・chrome book と紙のワークシートの活用は、授業中の振り返りや指導後から単元後までの技能の定着に役立ち、生徒の表現力と技能の向上に有効である。
- ・既習技の苦手な技を取り上げ、目標を明確にすること、毎時間取り扱う技、ペアの組み合わせを変えたことで、柔道が苦手な生徒でも取り組みやすく、学習意欲の向上を図ることができる授業形態である。

そのため、今回の検証授業では、ジグゾー法の視点を取り入れた学習活動を取り入れ、表現力と技能の向上に一定に成果を上げることができた。しかし、chrome book と紙のワークシートの活用方法、作業量に課題が見られた。2つの媒体のワークシートを活用したことで、生徒に課す作業量が多くなり、生徒にとって大きな負担となっていた。また、授業内の活動時間が短かったことから、紙に書く時間や実際に活動する時間が短くなり、肝心の技の練習が十分にできないことがある。他にも、3時間目～6時間目は取り扱う技、ペア以外は全く同じ内容であったため、生徒にとって授業に変化はなく、学習意欲を削いでいた可能性もある。これらについては授業の内容、構成等について見直していき、今後の研究課題としたい。

引用・参考文献

- ・阿部泰尚 (2019) 技能と思考力・判断力の育成を図るネット型ゲームの教材開発と単元の在り方ーサークルバレーボールの実践よりー, 教育実践研究, 29, p.121-126
- ・日野克博 (2017) 「体育で育成を目指す資質・能力とは」, 体育科教育, (65), p.30-31, 大修館書店
- ・兼城雅也, 神谷千恵子, 砂川力也, 増澤拓也 (2016) 「わかる」と「できる」が共感し合える体育学習: 知識構成型ジグソー法による体育の学習指導を通して, 琉球大学教育学部附属中学校研究紀要, 28, p.123-136
- ・丸山雄一郎 (2013) 競争課題を中核に据え, 技術・戦術を高める指導ーソフトバレーボール風ゲームの実践よりー, 教育実践研究, 23, p.175-180
- ・文部科学省 (2004) PISA2003 年調査国際結果の要約
- ・文部科学省 (2007) 平成 17 年度高等学校教育課程実施状況調査 結果のポイント
- ・文部科学省 (2008) 学習指導要領解説総則編
- ・文部科学省 (2009) 高等学校学習指導要領解説保健体育編
- ・文部科学省 (2010) PISA2009 年調査国際結果の要約
- ・文部科学省 (2011) 「言語活動の充実に関する指導事例集」～思考力, 判断力, 表現力等の育成に向けて～【高等学校版】
- ・文部科学省 (2016) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)
- ・文部科学省 (2018) 高等学校学習指導要領解説保健体育編
- ・文部科学省 (2019) OECD 生徒の学習到達度調査 2018 年調査 (PISA2018) のポイント
- ・沖本由佳里 (2016) 思考力・判断力・表現力の育成を目指した保健体育科の授業開発ーダンス領域における「よい動き」の可視化と自己表現力の向上を目指してー, 滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要, 58, p.78-83
- ・佐藤康二 (2008) 得意技を身に付け「一本」を目指し柔道の特性を味わう学習～互いを尊重し、教え合いを通して学ぶ授業～, 平成 18 年度 長期研修研究報告
- ・高田俊也・岡沢祥訓・高橋健夫 (2000) 態度測定による体育授業評価法の作成, スポーツ教育学研究, 20 (1), p.31-40
- ・高橋健夫 (2003) 体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント, 明和出版
- ・友野清文 (2015) ジグソー法の背景と思想ー学校文化の変容のためにー総合教育センター, 国際学科特集, 895, p.1-14

資料編

【表現力の評価規準】

①くずし

評価	規準
A	自分の体の動きを具体的に表現している。 例) ～して、重心を～
B	自分の体の動きを抽象的に表現している。説明不足。 例) 受けを後方に、重心をずらして
C	名称・擬音語のみで説明している。 例) くずす、くずし
0	表記なし。

②体さばき (手さばき)

評価	規準
A	自分の体の動きを具体的に表現している。 例) 1歩目で上げて2歩目で広げる
B	自分の体の動きを抽象的に表現している。説明不足。 例) 広げる
C	名称・擬音語のみで説明している。 例) 手さばき
0	表記なし。

③体さばき (足さばき)

評価	規準
A	自分の体の動きを具体的に表現している。 例) 相手の足の真ん中に踏み込み、軸足の後ろに正面を向きながら運ぶ
B	自分の体の動きを抽象的に表現している。説明不足。 例) 1.2で踏み込む
C	名称・擬音語のみで説明している。 例) 足さばき
0	表記なし。

④ タイミング

評価	規準
A	自分の体の動きを具体的に表現している。 例) 相手が崩れている瞬間に
B	自分の体の動きを抽象的に表現している。説明不足。 例) タイミング良く
C	名称・擬音語のみで説明している。 例) タイミング
0	表記なし。

⑤ 技のかけ方

評価	規準
A	自分の体の動きを具体的に表現している。 例) 相手のふくらはぎを刈って円を描くようにする
B	自分の体の動きを抽象的に表現している。説明不足。 例) 押すように
C	名称・擬音語のみで説明している。 例) かけ方
0	表記なし。

⑥ 出来栄え

評価	規準
A	自分の体の動きを具体的に表現している。 例) 相手を押し倒すように勢いよく
B	自分の体の動きを抽象的に表現している。説明不足。 例) 勢いよく
C	名称・擬音語のみで説明している。 例) 勢い
0	表記なし。

【技能の観察的評価規準】

・大内刈

①くずし

評価	規準
A	引き手と釣り手を使って、受けを後方に崩し、足で刈り広げる側に重心を十分に移動している。
B ⁺	引き手と釣り手を使って、受けを後方に崩し、足で刈り広げる側に重心を移動している。
B	引き手と釣り手を使って、受けを後方に崩している。
B ⁻	引き手と釣り手を使って、少し崩せている。
C	受けの両足がべたつきになったままで崩せていない。

②体さばき（手さばき）

評価	規準
A	引き手と釣り手を1歩目で上にあげ、2歩目で（外）下に押し込んでいる。そのとき、足で刈り広げる側に重心も移動している。
B ⁺	引き手と釣り手を1歩目で上にあげ、2歩目で（外）下に押し込んでいる。
B	引き手と釣り手どちらかが正しく体さばきできている。
B ⁻	引き手と釣り手どちらかが正しく体さばきできているが、引きが弱い。
C	引き手と釣り手どちらも正しく体さばきできていない。

③体さばき（足さばき）

評価	規準
A	滑らかに、相手を引き寄せながら一歩、受けの両足の真ん中に踏み込み、軸足となる足を踏み出した足の後ろに運んでいる。その際、体は正面を向き、胸同士が相対している。
B ⁺	相手を引き寄せながら一歩、受けの両足の真ん中に踏み込み、軸足となる足を踏み出した足の後ろに運んでいる。その際、体は正面を向き、胸同士が相対している。
B	相手を引き寄せながら一歩、受けの両足の真ん中に踏み込み、軸足となる足を踏み出した足の後ろに運んでいる。
B ⁻	相手を引き寄せながら一歩、受けの両足の真ん中に踏み込めていない。
C	足さばきができていない。

④タイミング

評価	規準
A	受けの重心が刈る側の足に乗る瞬間に、刈り広げている。
B ⁺	受けの重心が刈る側の足に乗る瞬間ではないが、崩れているタイミングで刈り広げている。
B	相手を完全に崩すことはできないが、タイミング良く足を刈り広げている。
B ⁻	相手が崩れていない状態で足を刈り広げている。
C	相手が完全に止まっている状態で足を刈り広げている。

⑤技のかけ方

評価	規準
A	半円を描くように刈足を動かして受けのふくらはぎを刈っている。その際、勢いよく後方に押し込むように倒している。
B ⁺	半円を描くように刈足を動かして受けのふくらはぎを刈っている。その際、後方に押し込むように倒している。
B	半円を描くように刈足を動かして受けのふくらはぎを刈っている。
B ⁻	相手を斜め後ろに倒している。
C	半円を描くように刈足を動かして受けのふくらはぎを刈っていない。

⑥出来栄え

評価	規準
A	勢いよく打ちこみ、勢いよく技をかけている。
B ⁺	勢いよく技をかけている。
B	一連の動きを止めることなく、技をかけている。
B ⁻	技をかける際、あまり勢いが無い。
C	技をかける際、全く勢いが無い。

・小内刈

①くずし

評価	規準
A	引き手と釣り手を使って、受けを後方に崩し、足で刈り広げる側に重心を十分に移動している。
B ⁺	引き手と釣り手を使って、受けを後方に崩し、足で刈り広げる側に重心を移動している。
B	引き手と釣り手を使って、受けを後方に崩している。
B ⁻	引き手と釣り手を使って、少し崩せている。
C	受けの両足がべたつきになったままで崩せていない。

②体さばき（手さばき）

評価	規準
A	引き手と釣り手を1歩目で上にあげ、2歩目で（内）下に押し込んでいる。そのとき、足で刈り広げる側に重心も移動している。
B ⁺	引き手と釣り手を1歩目で上にあげ、2歩目で（内）下に押し込んでいる。
B	引き手と釣り手のどちらかが正しく体さばきできている。
B ⁻	引き手と釣り手のどちらかが正しく体さばきできているが、引きが弱い。
C	引き手と釣り手どちらも正しく体さばきできていない。

③体さばき（足さばき）

評価	規準
A	滑らかに、相手を引き寄せながら一歩、受けの両足の真ん中に踏み込み、軸足となる足を踏み出した足の後ろに運んでいる。その際、体は正面を向き、胸同士が相対している。
B ⁺	相手を引き寄せながら一歩、受けの両足の真ん中に踏み込み、軸足となる足を踏み出した足の後ろに運んでいる。その際、体は正面を向き、胸同士が相対している。
B	相手を引き寄せながら一歩、受けの両足の真ん中に踏み込み、軸足となる足を踏み出した足の後ろに運んでいる。
B ⁻	相手を引き寄せながら一歩、受けの両足の真ん中に踏み込めていない
C	足さばきができていない。

④ タイミング

評価	規準
A	受けの重心が刈る側の足に乗る瞬間に、刈っている。
B ⁺	受けの重心が刈る側の足に乗る瞬間ではないが、崩れているタイミングで刈り広げている。
B	相手を完全に崩すことはできないが、タイミング良く足を刈り広げている。
B ⁻	相手が崩れていない状態で足を刈り広げている。
C	相手が完全に止まっている状態で足を刈り広げている。

⑤ 技のかけ方

評価	規準
A	右足の土踏まず付近で受けの右足の踵を爪先方向に刈っている。その際、勢いよく後方に押し込むように倒している。
B ⁺	右足の土踏まず付近で受けの右足の踵を爪先方向に刈っている。その際、後方に押し込むように倒している。
B	右足の土踏まず付近で受けの右足の踵を爪先方向に刈っている。
B ⁻	相手を斜め後ろに倒している。
C	右足の土踏まず付近で受けの右足の踵を爪先方向に刈っていない。

⑥ 出来栄え

評価	規準
A	勢いよく打ちこみ、勢いよく技をかけている。
B ⁺	勢いよく技をかけている。
B	一連の動きを止めることなく、技をかけている。
B ⁻	技をかける際、あまり勢いが無い。
C	技をかける際、全く勢いが無い。

・支釣込足

①くずし

評価	規準
A	引き手と釣り手を使って、右足先（前方）に体重が乗るようにして受けを十分に前方に浮かすように崩している。
B ⁺	引き手と釣り手を使って、右足先（前方）に体重が乗るようにして受けを前方に浮かすように崩している。
B	引き手と釣り手を使って、右足先（前方）に体重が乗るようにして受けを前方に崩している。
B ⁻	引き手と釣り手を使って、少し崩せている。
C	受けの両足がべたつきになったままで崩せていない。

②体さばき（手さばき）

評価	規準
A	引き手と釣り手が同じ方向に向かって力を入れている。 （右手を釣りあげ、左手は上にやや肘を張るようにして引いている）
B ⁺	引き手と釣り手ともに正しく体さばきができているが、ひきが弱い。
B	引き手と釣り手のどちらかが正しく体さばきできている。
B ⁻	引き手と釣り手のどちらかが正しく体さばきできているが、引きが弱い。
C	引き手と釣り手どちらも正しく体さばきできていない。

③体さばき（足さばき）

評価	規準
A	右足は相手の左足の前に出し、つま先を内側に向けて右足前さばきで進めながら、受けの横に体を移動させて、左足裏で相手の足首を支えている。
B ⁺	Aの4つのポイントのうち3つできている。
B	Aの4つのポイントのうち2つできている。
B ⁻	Aの4つのポイントのうち1つできている。
C	Aの4つのポイントが1つもできていない。

④ タイミング

評価	規準
A	相手が体のバランスを保とうとして右足を出そうとした瞬間に、自分の左足の裏を相手の右足首上にタイミング良く当てて支えている。
B ⁺	相手が体のバランスを保とうとして右足を出そうとした瞬間ではないが、崩れているタイミングで足を当てている。
B	相手を完全に崩すことはできていないが、タイミング良く足を当てている。
B ⁻	相手が崩れていない状態で足を当てている。
C	相手が完全に止まっている状態で足を当てている。

⑤ 技のかけ方

評価	規準
A	支えている足首上を支点にして、相手の体を左に両手で綺麗な円を描くように勢いよく引き回している。投げた後は、体が回転して相手の方を向いている。
B ⁺	相手の体を左に両手で円を描くように引き回している。投げた後は、体が回転して相手の方を向いている。
B	投げた後、体が回転して相手の方を向いている。
B ⁻	投げた後、体が回転して斜めの方を向いている。
C	相手の体を左に両手で円を描くように引き回しておらず、投げた後も、体が回転して相手の方を向いていない。

⑥ 出来栄

評価	規準
A	勢いよく打ちこみ、勢いよく技をかけている。
B ⁺	勢いよく技をかけている。
B	一連の動きを止めることなく、技をかけている。
B ⁻	技をかける際、あまり勢いが無い。
C	技をかける際、全く勢いが無い。

・内股

①くずし

評価	規準
A	引き手と釣り手を使って、受けを十分に（斜め）前方に浮かすように崩している。
B ⁺	引き手と釣り手を使って、受けを（斜め）前方に浮かすように崩している。
B	引き手と釣り手を使って、受けを（斜め）前方に崩している。
B ⁻	引き手と釣り手を使って、受けを少し崩せている。
C	受けの両足がべたつきになったままで崩せていない。

②体さばき（手さばき）

評価	規準
A	引き手と釣り手が同じ方向に向かって力を入れている。 （釣り手は相手の耳より高く釣りあげ、引き手は自分の目の高さまで手を上げながら引いている）
B ⁺	引き手と釣り手ともに正しく体さばきができているが、ひきが弱い。
B	引き手と釣り手のどちらかが正しく体さばきできている。
B ⁻	引き手と釣り手のどちらかが正しく体さばきできているが、ひきが弱い。
C	引き手と釣り手どちらも正しく体さばきできていない。

③体さばき（足さばき）

評価	規準
A	滑らかに右足前回り捌きの動きで回転しながら受けの前に重なるように体を移動している。そのとき、腰を密着させる。
B ⁺	右足前回り捌きの動きで回転しながら受けの前に重なるように体を移動している。そのとき、腰を密着させる。
B	受けの前に重なるように体を移動していない。
B ⁻	右足前回り捌きの動きが滑らかにできていない。
C	右足前回り捌きの動きができていない。

④ タイミング

評価	規準
A	相手が崩れた瞬間に、自分の右足で受けの左足の付け根部分をタイミング良く跳ね上げている。
B ⁺	相手が崩れた瞬間ではないが、崩れているタイミングで跳ね上げている。
B	相手を完全に崩すことはできていないが、タイミング良く跳ね上げている。
B ⁻	相手が崩れていない状態で跳ね上げている。
C	相手が完全に止まっている状態で跳ね上げている。

⑤ 技のかけ方

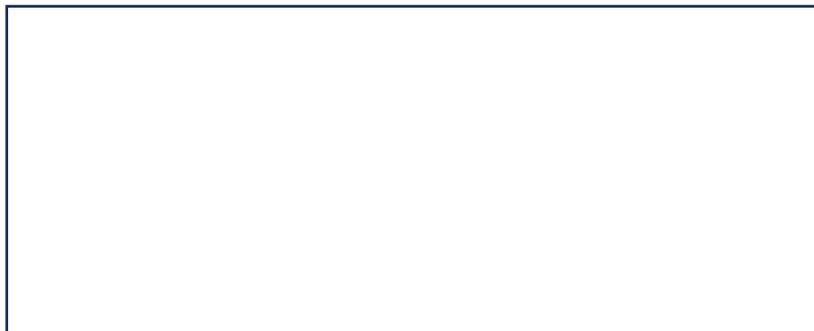
評価	規準
A	受けを腰に乗せ、左足の付け根部分を上に浮かせるように一気に払い上げている。後方に投げ、投げた後は、体が回転して相手の方を向いている。
B ⁺	受けを腰に乗せ、後方に投げている。投げた後は、体が回転して相手の方を向いている。
B	自分の後方に投げ、投げた後は、体が回転して相手の方を向いている。
B ⁻	自分の後斜めに投げ、投げた後は、体が回転して斜めの方を向いている。
C	受けが腰に乗っておらず、後方にも投げしていない。

⑥ 出来栄え

評価	規準
A	勢いよく打ちこみ、勢いよく技をかけている。
B ⁺	勢いよく技をかけている。
B	一連の動きを止めることなく、技をかけている。
B ⁻	技をかける際、あまり勢いが無い。
C	技をかける際、全く勢いが無い。

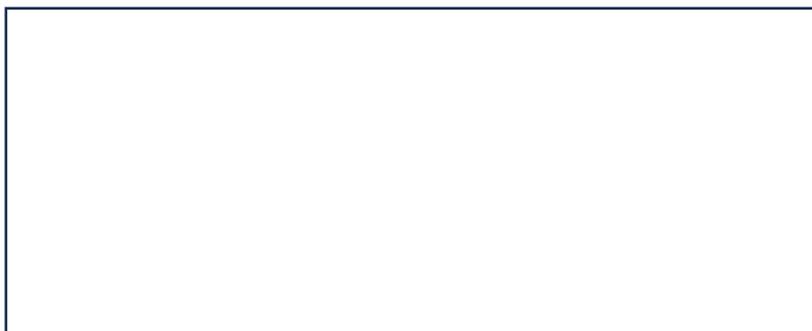
【紙のワークシート】

【大内刈】



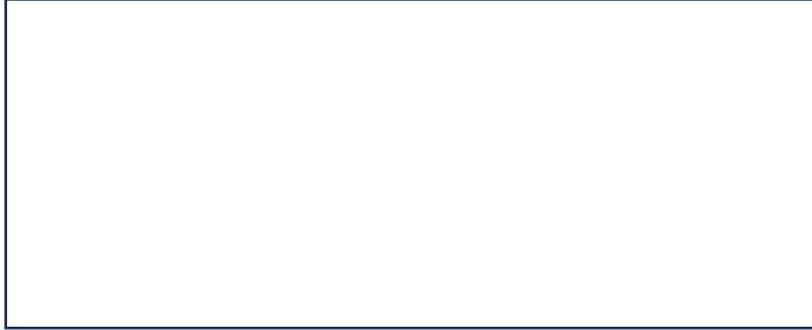
(次回以降仲間にもどのように教えていくのか)

【小内刈】



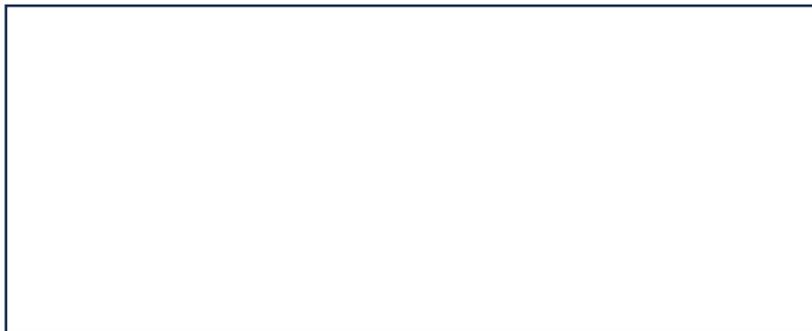
(次回以降仲間にもどのように教えていくのか)

【支釣込足】



(次回以降仲間にどのように教えていくのか)

【内股】



(次回以降仲間にどのように教えていくのか)

【chrome book のワークシート】

【大内刈】動画を貼って、自己評価しよう

(はじめ) → (最後)

解説動画

(解説動画)

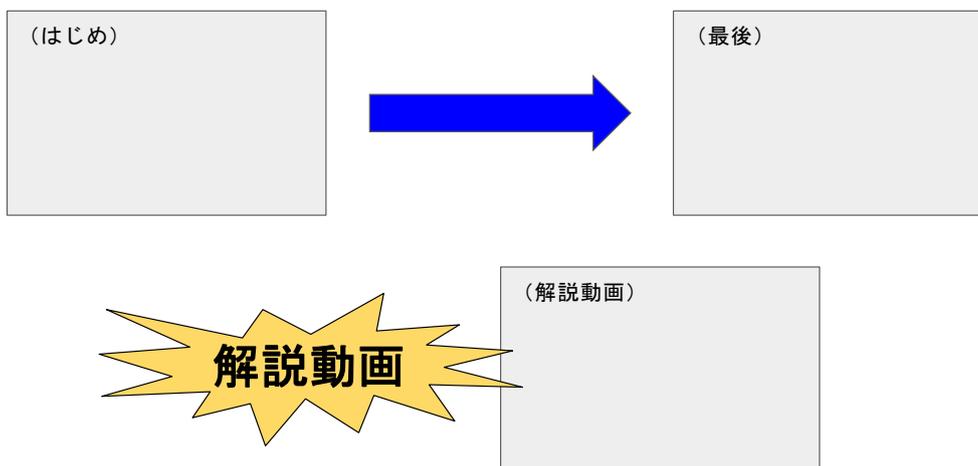
【小内刈】動画を貼って、自己評価しよう

(はじめ) → (最後)

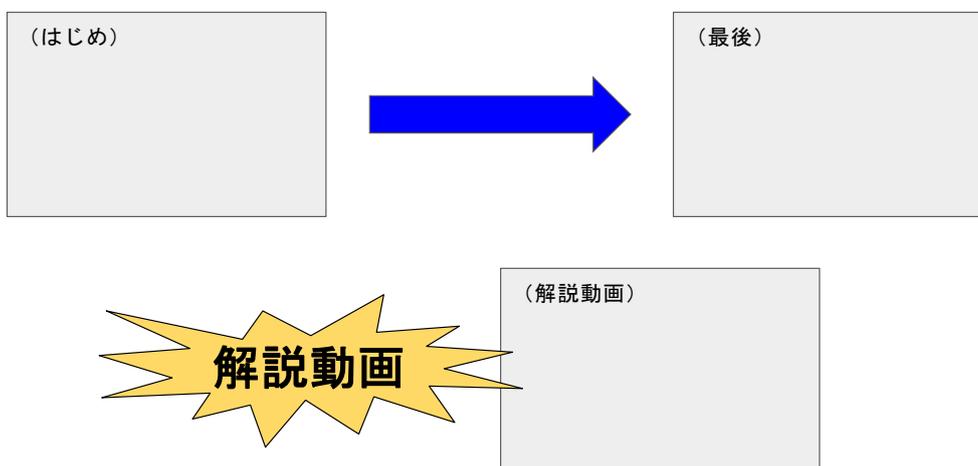
解説動画

(解説動画)

【支釣込足】動画を貼って、自己評価しよう



【内股】動画を貼って、自己評価しよう



【診断的・総括的授業評価】

1. 私は、少し難しい運動でも練習するとできるようになる自信があります。
はい・どちらでもない・いいえ
2. 体育で、ゲームや競争をするときは、ルールを守ります。
はい・どちらでもない・いいえ
3. 体育のグループやチームで話し合うときは、自分から進んで意見を言います。
はい・どちらでもない・いいえ
4. 体育では、自分から進んで運動します。
はい・どちらでもない・いいえ
5. 体育で、ゲームや競争で勝っても負けても素直に認めることができます。
はい・どちらでもない・いいえ
6. 体育で、ゲームや競争をするとき、ずるいことや卑怯なことをして勝とうとは思いません。
はい・どちらでもない・いいえ
7. 体育は、友達と仲良くなるチャンスだと思います。
はい・どちらでもない・いいえ
8. 体育をしているとき、どうしたら運動がうまくできるかを考えながら勉強しています。
はい・どちらでもない・いいえ
9. 体育では、いたずらや自分勝手なことをしません。
はい・どちらでもない・いいえ
10. 体育で、「あっ、わかった!」「ああ、そうか」と思うことがあります。
はい・どちらでもない・いいえ
11. 体育で体を動かすと、とても気持ちがいいです。
はい・どちらでもない・いいえ
12. 体育は、明るく暖かい感じがします。
はい・どちらでもない・いいえ
13. 体育では、みんなが、楽しく勉強できます。
はい・どちらでもない・いいえ
14. 体育をするとすばやく動けるようになります。
はい・どちらでもない・いいえ
15. 体育で運動するとき、自分のめあてを持って勉強します。
はい・どちらでもない・いいえ
16. 私は、運動が、上手にできるほうだと思います。
はい・どちらでもない・いいえ
17. 体育では、精一杯運動することができます。
はい・どちらでもない・いいえ

18. 体育では、わかったと思うこと（知識）を実際に生かすことができます。
はい・どちらでもない・いいえ
19. 体育では、1つの運動がうまくできると、もう少し難しい運動に挑戦しようという気持ちになります。
はい・どちらでもない・いいえ
20. 体育では、クラスやグループの約束ごとを守ります。
はい・どちらでもない・いいえ

【形成的授業評価】

1. 深く心に残ることや、感動することはありましたか。
はい・どちらでもない・いいえ
2. 今までできなかったこと（運動や作戦）ができるようになりましたか。
はい・どちらでもない・いいえ
3. 「あっ、わかった！」とか「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。
はい・どちらでもない・いいえ
4. 精一杯、全力をつくして運動することができましたか。
はい・どちらでもない・いいえ
5. 楽しかったですか。
はい・どちらでもない・いいえ
6. 自分から進んで学習することができましたか。
はい・どちらでもない・いいえ
7. 自分のめあてに向かって何回も練習できましたか。
はい・どちらでもない・いいえ
8. 友達と協力して、仲良く学習できましたか。
はい・どちらでもない・いいえ
9. 友達とお互いに教えたり、助けたりしましたか。
はい・どちらでもない・いいえ

謝辞

本研究を進めるにあたり、多くの方々にご協力とご支援いただきました。いつも温かくお声掛けをしていただいた研究協力校の校長先生をはじめ、先生方、子どもたちに深く感謝申し上げます。特に、指導担当の先生におかれましては、お忙しい中、快く検証授業の指導を受け入れてくださり、研究に多大なるご協力をいただきました。ご助言、ご指導いただき心から感謝いたします。また、未熟な私を受け入れてくれた2年生の子どもたちに感謝いたします。

最後に、坂下玲子教授、末永祐介准教授には、本研究書の執筆にあたり、終始、温かいご助言、激励をいただきました。深く感謝申し上げます。